



저작자표시 2.0 대한민국

이용자는 아래의 조건을 따르는 경우에 한하여 자유롭게

- 이 저작물을 복제, 배포, 전송, 전시, 공연 및 방송할 수 있습니다.
- 이차적 저작물을 작성할 수 있습니다.
- 이 저작물을 영리 목적으로 이용할 수 있습니다.

다음과 같은 조건을 따라야 합니다:



저작자표시. 귀하는 원저작자를 표시하여야 합니다.

- 귀하는, 이 저작물의 재이용이나 배포의 경우, 이 저작물에 적용된 이용허락조건을 명확하게 나타내어야 합니다.
- 저작권자로부터 별도의 허가를 받으면 이러한 조건들은 적용되지 않습니다.

저작권법에 따른 이용자의 권리는 위의 내용에 의하여 영향을 받지 않습니다.

이것은 [이용허락규약\(Legal Code\)](#)을 이해하기 쉽게 요약한 것입니다.

[Disclaimer](#) 

2008年 8月

文學博士學位論文

韓・中・日の字音語の対照研究

朝鮮大學校 大學院

日本學科

韓 增 徳

韓・中・日の字音語の対照研究

The Contrastive Study of the words in
Korean, Chinese and Japanese

2008年 8月 日

朝鮮大學校 大學院

日本學科

韓 增 德

韓・中・日の字音語の対照研究

指導教授 金 仁 炫

이 論文을 文學 博士學位 請求 論文으로 提出함.

2008年 4月 日

朝鮮大學校 大學院

日本學科

韓 增 德

韓增德의 文學 博士學位 論文을 認准함

審査委員長 朝鮮大學校 教授 朴 青 國 印

審査委員 朝鮮大學校 教授 金 仁 炫 印

審査委員 한밭大學校 教授 宋 晚 翼 印

審査委員 韓南大學校 教授 禹 燦 三 印

審査委員 東國大學校 副教授 李 京 哲 印

2008年 6月 日

朝鮮大學校 大學院

第1章 序 論

1.1 研究の目的と意義

韓国と中国と日本の三国は、同じ漢字文化圏¹⁾に属する国々である。韓・中・日の三国は歴史的に政治・経済・社会・文化など全般の領域にわたって密接な関係を維持し、発展してきているが、その基底には漢字があり、漢字の役割が最も大きかったといっても過言ではない。中国で中国の言葉を表すものとして生まれた漢字は、長い年月を経て、異なる言語である韓国語と日本語に取り入れられ、中国文化を韓国と日本に伝えるために役立ったばかりでなく、韓国と日本の独自の文化をはぐくむためにも役立ってきている。特に、近代の西洋文化の導入に際して、漢字は新しい概念を表すための新語をたくさん造り出し、それが韓・中・日三国語の語彙体系にも大きな影響を与えている。

漢字は表意文字と言われ、その一字一字が何らかの意味を持ち、品詞性をも持っている。例えば、次のようである。

- (1) ① 門・酒・頭・手・路・熱
- ② 看・写・説・听・走・熱
- ③ 好・多・紅・新・大・熱
- ④ 就・才・很・更・只・不
- ⑤ 可・但・虽・既・及・而

(1)は現代中国語で自立的に使われている語であるが、[(1)-①～⑤]はそれぞれ名

1) 阿辻哲次(2005)は、漢字文化圏とは、簡単にいえば漢字を読み書きできる人々が相互に意思の疎通をはかることができた集団であり、それは国家や王朝という政治的な枠、あるいは口頭で話される音声言語による差異を超越するものだったと述べている。

<阿辻哲次(2005)「漢字文化圏の成立」『朝倉漢字講座 1 漢字と日本語』朝倉書店、p.15.>

詞、動詞、形容詞、副詞、接続詞として使われる語である。中には「热²⁾」のように、三種の品詞性を持つ語もある。

韓国語と日本語にも漢字一字で一語をなす例がある。

(2) ① 氣・線・熱・法・門・量

② 及・但・永・或

[(2)-①]は韓国語と日本語で名詞として使われる語であり、[(2)-②]は韓国語で副詞として使われる語である。

しかし現代語において、(1)と(2)のような単音節³⁾の語の数はそんなに多くない。

元来、古代中国の漢語には単音節の語が多かったが、社会の変遷につれて多音節化された語が増加し、これからも増加すると展望される。このような多音節化は二つの原因に依るものと考えられる。一つは語音の簡略化であり、もう一つは外来語の吸収である。上古漢語の語音は声母・韻腹・韻尾などを中古音と比較してみると非常に複雑である。このような原因によって語音が簡略化され、また外来語の吸収は主として音訳したもので、上古の外来語として「琵琶・葡萄」があり、中古の外来語としては「菩薩・羅漢」、近代の外来語としては「阿片」などによってだんだん多音節化の道を歩んできた。多音節化された語はもう先秦時代の史料に「国家・天下・天子」などの多音節化された語が現れている。しかし、多音節化された語がもっと増えた時期は、中古時代の唐の時期である。というのは、この時期がまさに仏經を翻訳した時期だったからである。この時から今まで使用されている語には「悲哀・歡喜・疲労・供給・報答・非常・指揮・光明・堅固・多少・利益・隨時・萌芽・分明」などがある⁴⁾。現代の韓・中・日三国語の辞典に収録されている字音語⁵⁾の大部分が多音節化

2) 漢字の字体において、本稿では中国語の場合は「簡体字」を使い、韓国語の場合は漢字で書き換えることのできる語は正字で表記することにする。

3) 日本語の音節構造は開音節の構造で、漢字一字が二音節になる場合がある(例えば、「百(ひゃく)」は二音節である)が、ここでは、中国語の音節構造に従って、漢字一字を一音節とする。

4) 王力(1957)『漢語史稿』<朴英燮(1995)『国語漢字語彙論』博而精から再引用、p.23.>

5) 「字音語」という概念については、次の項で詳しく述べることにする。

された語であり、その中でも二音節の字音語が最も多い。

字音語は、中国語では言うまでもなく、日本語と韓国語の語彙体系を構成する重要な要素であることは周知のとおりである。従って、字音語は韓・中・日三国において、多くの学者たちによって研究されてきたが、三国語の文法体系⁶⁾や研究の目的・方法などが違うため、字音語の定義・範囲の設定・語構成上からの分類などいろんな面において、学者によって多少の違いが見られる。

本稿では、三国語の現代語に共通して存在する同形二字字音語を中心に、字音語の語構成上からの分類について考察し、語構成と品詞性の関係を究明した上、その共通点と相違点を明らかにする。また、韓・中・日三国語の相互の言語教育だけでなく、教材や辞典編纂などに必要な基礎資料を提供することを目的とする。

字音語の語構成は、その語の表す意味と深い関係があり、字音語には語構成要素間の関係が統語論における語同士の関係と同じ統語構造を有する語が多い。つまり、字音語の語構成に関する研究は、字音語の持つ語彙的な特性だけでなく、意味的・統語的な特性を明らかにすることにもなる。

なお、三国語の同形二字字音語はその形態は同じであっても意味・用法が違う語もあり、語構成と品詞性が異なる語も少なくない。これらの問題は同じ漢字系学習者にとって相手の言葉を学ぶ時、紛れやすい部分であり、誤用を引き起こす重要な原因にもなる。従って本研究は、三国語の研究全般にも貢献することができるという意味でその意義がある。

1.2 研究の対象

字音語は、日本では普通「漢語」と呼ばれ、研究の目的や範囲設定などの違いによって「漢字語」という用語で使われる時もある。李京珪(2002)⁷⁾は、日本での字

6) 言語類型論の観点から、中国語は孤立語に、韓国語と日本語は膠着語に分類される。

7) 李京珪(2002)「日本 字音語에 관련된 用語에 관한 考察」『日本文化学報』第15輯、韓国日本文化学会

音語の定義に関するいろいろな学説を検討し、異同点と問題点を明らかにした上、字音語を「呉音・漢音・唐宋音・慣用音など、日本語の文中で理解可能な範囲の漢字音でできた語」と定義している。また、「中国語における外来語やサンスクリット語などの音訳語は、それを借用した日本語の立場で見れば、字音語(漢語)と同類である」とし、「漢字語」は「文字表記上の問題で取り扱うべきである」と述べている。

字音語は、韓国では「漢字語」という用語で使用され、「漢字で出来た単語」⁸⁾を指し、沈在箕(1982)⁹⁾は、韓国語の「漢字語」をその起源的な系譜によって、①中国の古典に由来する語(例えば、身体・学校・国家など)、②中国を経由した仏教経典から出た語(例えば、工夫・出家・三昧など)、③中国の口語、すなわち白話文に由来する語(例えば、報道・容易・自由など)、④日本で造った語(例えば、案内・入口・約束など)、⑤韓国で独自に造った語(例えば、感氣・苦生・寒心など)のように分類している。ここで、④に含まれる語には、日本語ではもともと「字訓語」に属する語もあるが、本稿では研究の対象から除外する。

中国では「漢民族の言語」¹⁰⁾を「汉语」と言う。つまり、中国語自体が「汉语」というわけである。「字音語」という用語に対応するのは「词」または「单词」であるが、中国語の場合、すべての漢字が字音で読まれるから、「词」または「单词」は100%字音語であるということができる。

このように、漢字でできた語に対する用語が三国語でまちまちであるが、本稿では字音で読む語を研究の対象とするという意味で、「字音語」という用語を使って考察することにする。

先にも述べたように、字音語にはもともと単音節の語が多かったが、社会の変遷につれて多音節化された語彙が増加している。字音語は普通字数によって、一字字音語・二字字音語・三字字音語・四字字音語などに分けることができるが、その中で最も安定し、最も使用率が高いものは二字字音語である。

8) 李應百 外(1992)『國語大辭典』教育圖書、p.2215.

9) 沈在箕(1982)『國語語彙論』集文堂、pp.41-49.

10) 中国社会科学院语言研究所词典编辑室編(2005)『現代漢語詞典』第5版、商務印書館、p.537.

- (3) ① 核・功・詩・香・礼・罰
 ② 材料・電話・感謝・建築・明白・速度
 ③ 副作用・高血圧・記憶力・留学生・農作物・所有権
 ④ 少数民族・自由自在・人道主義・大同小異

(3)は三国語でほぼ同じ意味で使われ、使用頻度も割合に高い語である。[(3)-①]は一字字音語で、(1)と(2)で分かるように中国語では名詞の用法の外、動詞、形容詞、副詞、接続詞などいろいろな用法で使われているが、韓国語と日本語ではほとんど名詞の用法で使われている。[(3)-②]の二字字音語は、一字字音語と三字字音語・四字字音語を全部合わせた語数よりも多いほどその数が多く、三字または三字以上の字音語を構成する造語成分としても働き、字音語の語構成の研究において、最も基本的なものだと考えられる。

[(3)-③]の三字字音語は、「語基+二字字音語」の形と「二字字音語+語基」の形の語が大部分を占め、「接頭辞+二字字音語」の形または「[接頭辞+語基]+語基」の形と「二字字音語+接尾辞」の形の語が多少存在する¹¹⁾。[(3)-④]の四字字音語は、「二字字音語+二字字音語」の形の複合語が大部分であり、その数も二字字音語に比べれば甚だ少ない。

韓・中・日三国語で字音語が占める比率、特に常用字音語の字数別の語数を比較し、明らかにするために、次のような資料を調査してみた。

- (4) ① 李在郁(2006)『韓国語必須単語6000』Language PLUS
 ② 潘忆影(2005)『8840 HSK 単語集』CHINA PRESS
 ③ 国务院学位委员会办公室编(1999)『同等学力人员申请硕士学位日语水平全国统一考试大纲』高等教育出版社

11) 李于錫(2002)は、三字漢字語は「非・不・無+二字漢字語」や「二字漢字語+化・的・性」のように、二字漢字語に接頭辞あるいは接尾辞がついてできた派生語が大部分であると主張している。
 <李于錫(2002)『韓日漢字語の品詞性に関する対照研究』J&C、p.15.>

[(4)-①]は韓国の「国立国語院」で選定した、外国人が韓国語を勉強する際に必ず知るべき6000語(字音語は3155語で52.6%である)を収録した本であり、[(4)-②]は「中国国家对外汉语教学领导小组办公室汉语水平考试部」で、2001年に公布した『汉语水平词汇与汉字等级大纲』(修訂版)の内容を増補し、計8840語を収録した本である。[(4)-③]は日本語を第一外国語とする中国の大学院生または同等学力の人が、学位請求のために受ける日本語能力試験に必要な語彙7080語(字音語は3257語で46.0%である)を収録した本である。この三種の資料で、字音語だけを選んで字数別の語数と比率を調べた結果は、[表1]のようである。

[表1] 韓・中・日三国語における字音語の字数別の語数と比率

字 数	韓 国 語		中 国 語		日 本 語	
	語 数	百分率	語 数	百分率	語 数	百分率
一字字音語	207語	6.6%	1932語	21.9%	317語	9.7%
二字字音語	2374語	75.2%	6380語	72.2%	2671語	82.0%
三字字音語	445語	14.1%	294語	3.3%	193語	5.9%
四字字音語	47語	1.5%	187語	2.1%	21語	0.7%
五字字音語	2語	0.1%	2語	0.02%	0語	0.0%
そ の 他	80語	2.5%	45語	0.5%	55語	1.7%
合 計	3155語	100%	8840語	100%	3257語	100%

[表1]で分かるように、三国語で二字字音語はそれぞれ75.2%、72.2%、82.0%で、その数が圧倒的に多い。これは、二字字音語は三国語で共に字音語中最も基本的なものであることを示す。従って、本稿では三国語の国語辞典に載っている現代語の中で、三国語に共通して存在する同形二字字音語を考察の対象とすることにする。

1.3 研究の方法

韓・中・日三国語の字音語の語構成を明らかにし、語構成と品詞性の対応関係を究明するためには、まず語の選定が必要である。「語」を表す用語としては、韓国語には「낱말」「單語」「語彙」などが、中国語には「词」「单词」「词汇」などが、日

本語には「語」「単語」「語彙」などがある。これらの用語の辞典的定義を調べてみると次のようである。

(5) ① 『옛센스 國語辭典』¹²⁾

- a. 낱말: 단어(単語).
- b. 單語: 자립할 수 있는 말이나 자립 형태소에 붙으면서 쉽게 분리되는 말들 (自立できる語や自立形態素につきながら容易く分離される語).
- c. 語彙: 일정한 범위 안에서 사용되는 낱말의 수효나 낱말의 전체(一定の範囲内で使われる単語の数や単語の総体).

② 『现代汉语词典』¹³⁾

- a. 词: ③ 语言里最小的、可以自由运用的单位(言語の中で最小の、自由に運用できる単位)。
- b. 单词: ② 词。
- c. 词汇: 一种语言里所使用的词的总称。也指一个人或一部作品所使用的词(一つの言語の中で使用される語の総称。またその個人が使用する語或は一部の作品に使用される語を指す)。

③ 『新明解国語辞典』¹⁴⁾

- a. 語: ① 言葉(づかい)。[狭義では、単語を指す]
- b. 単語: 文を組み立てる要素としての一つひとつの言葉。[広義では、接辞をも指す]
- c. 語彙: ① 特定の条件の下に用いられる語の総体(を集めたもの)。② その個人が使用する語の総体(を集めたもの)。
(* ①②③は辞典での語義の配列の番号を指す。)

(5)で分かるように、韓国語と日本語の「語彙」と中国語の「词汇」は大体同じ意味で使用され、韓国語の「낱말」「單語」、中国語の「词」「单词」、日本語の「語」「単語」はほとんど同じ意味を表す。つまり、三国語で「語」の定義を「文を構成する要素として、自立できる、意義のある最小の言語単位である」とまとめるこ

12) 民衆書林編輯局編(2005) 『옛센스 國語辭典』 第5版、民衆書林、p.439. p.534. p.1587.

13) 前掲書、『现代汉语词典』、p.221. p.264.

14) 山田忠雄外編(2005) 『新明解国語辞典』 第6版、三省堂、p.470. p.933.

とができる。

しかし、実際それが語であるか否かを弁別することはそんなに簡単ではない。特に、字音語において、漢字一字一字が何らかの意味を持ち、品詞性をも持っているため、文中でそれが最小の言語単位であるか否かを弁別することは非常に難しい。劉月華外(2000)¹⁵⁾は「中国語の詞は大部分明確な形態標識がなく、また書き言葉の中に相当数の古代漢語の成分を保有しているため、一つの言語単位が結局、語素であるか、詞であるか、それとも句であるかを、ある時には確定しにくい」とし、李翊燮・任洪彬(1983)¹⁶⁾は「単語の定義が難しいのも、複合語と句の境界線がはっきりしていないためである」と述べている。このことは字音語において、語の弁別基準を確立することは難しいということを示唆している。これは三国語の辞典に載っている見出し語を対照してみても分かる。

- (6) ① 下車・改姓・海水・各国・牛肉・出題
② 不公平・単細胞・研究所・可能性

(6)は三国語に共に存在する語(または句)であるが、三国語でそれを最小の言語単位として受け取るか、受け取らないかによって、辞典の見出し語として載ったり載らなかったりする。[(6)-①]と[(6)-②]の「不公平」「単細胞」は、『オックスフォード国語辞典』と『新明解国語辞典』には見出し語として収録されているが、『現代汉语词典』には収録されていない。また、[(6)-②]の「研究所」は『オックスフォード国語辞典』には収録されているが、『現代汉语词典』と『新明解国語辞典』には収録されていないし、「可能性」は『オックスフォード国語辞典』は見出し語、『新明解国語辞典』は子見出し語、『現代汉语词典』は「可能」の例文として挙げている。このように、三国語で同じ形態の言語単位であっても、受け取り方によって語の範疇に入れる言語もあり、句の範疇に所属させる言語もある。

15) 劉月華外(2000)『現代中國語文法』大韓教科書株式會社、p.4.

16) 李翊燮・任洪彬(1983)『國語文法論』學研社、p.124.

そこで、語の選定において、本稿では(4)の三種の資料と、韓・中・日三国語の国語辞典を用いることにする。国語辞典は前掲した次のものである。

- (7) ① 民衆書林編輯局編(2005)『옛센스 國語辭典』第5版、民衆書林
- ② 中国社会科学院语言研究所词典编辑室編(2005)『現代漢語詞典』第5版、商務印書館
- ③ 山田忠雄外編(2005)『新明解國語辭典』第6版、三省堂

(7)の三種の辞典から、まず見出し語として載っている二字字音語中、同形二字字音語を抽出する。次に、抽出した同形二字字音語の中で、(4)の三種の資料に収録されている同形二字字音語を再抽出して、それを語構成によって分類する。語構成の分析においては、各言語のその語の辞典的意味を基準にするが、多義語の場合は異なる複数の意味の中で、その語の中心となる基本的な意味を基準にし、派生的な意味は参考にする。次に、上の三種の辞典に求めた各語の品詞性を言語別に分類し、それを分析することによって、品詞性の類型と語構成との対応関係の様相を究明する。

語の品詞性といえ、その言語の文法的な特徴によって、あるいは品詞の認定基準によって、ずれが生じる可能性がある。そこで、もっと正確な結論を出すために、各語の品詞性の類型を判断するにおいて、次のような辞典を参照することにする。

- (8) ① 李應百外(1992)『國語大辭典』教育圖書
- ② 高大民族文化研究所中國語大辭典編纂室編(1996)『現代中韓辭典』第5版、高麗大學校 民族文化研究所
- ③ 松村明編(1989)『大辭林』三省堂

それから、三国語における同形二字字音語の語構成の異同点と、語構成と品詞性との対応関係の異同点を明らかにし、最後にこれまでの論議を整理することにする。

第2章 韓・中・日三国語の字音語の特質と先行研究

2.1 字音語の定義と特質

2.1.1 字音語の定義

字音語の定義については、1.2でも少し触れているが、研究の目的や方法、範囲設定などの違いによって、三国語で使用される用語も違い(「漢字語」「词」「漢語」など)、それに対する定義も少しずつ異なる。

韓国語の「漢字語」に対する定義を検討してみると、次のようである。

沈在箕(1987)は、漢字語というのは韓国語の中で漢字で書けるすべての単語であると定義し、漢字語は十九世紀の末まで中国で生成された漢字を持って中国、韓国、日本で一般に通じるように造られた語彙項目で、必ず指定された漢字音で読まれるものを根幹にし、ここに韓国で造られた語彙項目を付け加えるべきだとしている¹⁷⁾。

權純久(1996)は、漢字語とは漢字を材料として造られた言語であるとし、その範囲において中国とかその他の国から流入されたものの外、韓国で造られたものも包含させている。しかし、漢字語との相関性を類推することができない単語は漢字語の範囲から排除している¹⁸⁾。

崔圭一(1989)は、漢字語は語源に関係なく漢字で表記される単語である¹⁹⁾と定義し、Kim Minyeong(2002)²⁰⁾は、崔圭一(1989)と宋基中(1992)の定義をもとに、漢字語を「語源に関係なく漢字で表記できる言語形式中、(韓)国語の漢字音で読まれる単語」と定義している。

17) 沈在箕(1987)「漢字語의 構造와 그 造語力」『國語生活 8』國語研究所、pp.26-28.

18) 權純久(1996)『漢字語 語形成 研究』忠南大學校 大學院 碩士學位論文、p.10.

19) 崔圭一(1989)『韓國語 語彙形成에 관한 研究』成均館大學校 大學院 博士學位論文、p.122.

20) Kim Minyeong(2002)『漢字語 形態素의 類型 分析에 관한 研究』延世大學校 大學院 碩士學位論文、p.20.

李得春(2006)は、『標準國語大辭典』²¹⁾など七種の韓国語の辞典で「漢字語」に対して下した定義を検討した上、漢字語の基準について次のように定義している。第一、漢字語は必ず漢字を基礎として造られた単語や既成の漢字語を基礎として派生または合成されたものでなければならない。第二、漢字語は必ず韓国語の語彙体系の中に受容されたものでなければならない。第三、漢字語は必ず漢字との関係を失わなく、漢字で書くことができ、ハングルで表記されたものなら漢字で還元できなければならない。第四、漢字語はハングル書きでも漢字書きでも、その音は必ず韓国の漢字音の規範に符合しなければならない。第五、漢字語は必ず形態上、意味上の自立性を持たなければならない。漢字で書いており、漢字音に符合しても形式形態素で文法的な関係だけを表すものは漢字語とは言えない²²⁾。

中国語の「詞」に対する定義もさまざまであるが、朱德熙(1997)、史錫堯・楊慶蕙主編(1998)、Choe Gilwon主編(2000)、郭振華(2002)、北京大學中文系編(2007)などを要約すると、「独立的に運用できる意味を持つ最小の言語単位である」とまとめることができる²³⁾。胡裕樹外編(1991)、符淮青(2007)などは、これに「固定された音韻形式を持つ」ことを追加している²⁴⁾。

日本語の「漢語」に対する定義には、李京珪(2002)の外、山口明穂・秋本守英編(2001)、秋元美晴(2004)、日本語教育学会編(2005)などがあるが、山口明穂・秋本守英編(2001)は次のように定義している²⁵⁾。

- (9) 中国語起源の外来語を中心として、呉音・漢音などの漢字音で唱える漢字一字か二字で構成される語。字音語とも言う。狭義には中国起源の語に限定し、字音語と区別

21) 國立國語研究院(1999)『標準國語大辭典』斗山東亞

22) 李得春(2006)「韓國語 漢字語의 基準에 對한 管見」『새 國語生活 16-1』國立國語研究院、pp.180-181.

23) 朱德熙著・許成道譯(1997)『現代中國語 語法論』사람과 冊、p.25.

史錫堯・楊慶蕙主編(1998)『現代漢語』北京師範大學出版社、p.180.

Choe Gilwon主編(2000)『漢語語彙』新星出版社、p.1.

郭振華(2002)『簡明漢語語法』華語教學出版社、p.4.

北京大學中文系編・Kim Ayeong外譯(2007)『現代漢語』China House、p.198.

24) 胡裕樹外編・許成道譯(1991)『現代中國語學概論』教保文庫、p.211.

符淮青著・Bak Heung-su譯(2007)『現代漢語詞匯』China House、p.12.

25) 山口明穂・秋本守英編(2001)『日本語文法大辭典』明治書院、p.180.

することがある。……漢語は古くから日本文化の中に入ってきたため、またいろいろな事情で作られたため、どこからどこまでを漢語とするかは意見が分かれる。1 古く伝えられた中国語(梅・馬・絵など)、これらは通常は和語として扱われる。2 中国で音訳されて伝えられた外国語(仏・塔などのサンスクリット語や葡萄・牡丹などの諸外国語)、これらは漢語から除かれる。3 漢音・呉音・唐音の類、これらは漢語の中核をなす。4 明治時代に至って伝えられた中国語(麻雀^{マージャン}・炒飯^{チャーハン}など)、これらは漢字で表記されることもあるが、通常は漢語とされない。5 日本で和語から作られた字音語(大根・火事・物騒など)、6 3に準じて日本で作られた語(労働・野球など)、これらは漢語とされる。

秋元美晴(2004)は、漢語は字音語と言われるように、漢字で書かれ音読みで読まれる語をいう。したがって、「天地」「降雨」など中国から入ってきた語ばかりでなく、それをまねて日本で造られた和製漢語も含まれる。和製漢語には、①和語の漢字表記を音読みしてできたもの(例えば「火の事→火事」「出張る→出張」など)、②漢語をまねて音読みの形でできたもの(例えば「勘定」「案内」など)、③西欧語の訳語として日本で漢字を組み合わせて造ったもの(例えば「哲学」「社会」など)がある。③には中国から借用した「銀行」「代数」や、古い漢語をよみがえらせた「観念」「演繹」などもあり、その内容はさまざまである。ただし、近代中国語から入った「麻雀(マージャン)」「老酒(ラオチュウ)」「拉麵(ラーメン)」などは漢語に含めず、外来語とする²⁶⁾と述べている。

日本語教育学会編(2005)は、漢語とは、古代から中世にかけて、中国大陸から漢字とともに日本語に入ってきた語のことをいう。すなわち、当時の中国語の語彙が、発音・表記とも原語のまま導入され、やがて日本語化したものが漢語である。漢語は、漢字で書かれ、中国語に由来する発音(古いほうから呉音、漢音、唐宋音)で読まれる点に特徴がある。漢字の発音を漢字音あるいは字音と呼ぶことから、漢語を字音語ということもある。日本語の語彙には、中国語から取り入れた本来の漢語のほか

26) 秋元美晴(2004)『よくわかる語彙』語文学社、p.68.

に、日本で独自に漢字を組み合わせてつくった大量の和製漢語が存在する。それらのなかには、「大根、返事」のように和語の「おほね、かへりごと」を漢字表記したものが、音読みされて(すなわち字音で読まれて)生まれたものもある。また、江戸時代以降には欧米から外来語の概念を導入する際に、中国語の古語をその訳語として利用したり、新たに日本人が訳語を造語したりしてできたものもある。字音語は、本来の漢語に対して、これらを含めた総称として用いるのに便利な用語である。なお、「阿弥陀、娑婆、檀那」のような中国で音訳された梵語(サンスクリット語)は、広い意味での漢語に含めるのが普通である²⁷⁾と記述している。

以上の論議をもとに、韓・中・日三国語の字音語は「漢字で表記可能であり、語源に関係なく、それぞれの言語で指定された漢字音で読まれる語である」と定義することができる。

なお、語構成の研究において、「形態素」「語基」「接辞」などの概念も明確にしなければならないが、これらの概念については、該当する各章で詳しく述べることにする。

2.1.2 字音語の特質

字音語は漢字でできた語である。そこで、字音語の特質を明らかにするためには、まず漢字の特性を知らなければならない。

文字は機能の面から、一般的に表意文字²⁸⁾と表音文字とに分けられる。日本語で使用されている文字としては、漢字、平仮名、片仮名とローマ字があるが、漢字は表意文字に属し、その他、平仮名、片仮名とローマ字は表音文字に属する。韓国語のハングルも表音文字に入る。漢字が文字の機能から表意文字として分類されているの

27) 日本語教育学会編(2005)『新版日本語教育事典』大修館書店、p.259.

28) 田島優(2006)では「表語文字」という用語を使っているが、本稿では用語を統一するために「表意文字」という用語を使うことにする。

<田島優(2006)「表語文字としての漢字」『朝倉漢字講座 2 漢字のはたらき』朝倉書店、p.1.>

は、それが形・音・義を備えているからである。つまり、漢字一字は原則として一音節を表し、何らかの意味を持っている。意味を持つというのは、品詞性を有することにもなる。

日本語教育学会編(2005)は、他の文字と比べて、漢字には、次の五つの特性があるとしている²⁹⁾。

- (10) ① 数の多さ: 語彙数に匹敵する。
- ② 字形の複雑性: 点画の数が格段に多く、その構成も複雑である。
- ③ 字形の構造的性: 構成要素の並び方がある程度規則的であり、構成要素の集合から成る一定の構造をもつ。多くの場合、音読みを表す構成要素(音符)と、意味傾向を表す構成要素(意符=部首)とから成る。
- ④ 多読性、類似音性: 一文字が複数の読みと対応する。常用漢字一九四五字には一字平均2.1通りの読み方があり、音読みには、同音、類似音の漢字が数多く存在する。
- ⑤ 表語性、造語性: 一文字で一語になる漢字、熟語の構成成分となる漢字、両方の用法をもつ漢字があり、意味も用法によって複数存在する場合がある。また、漢字は、使われる語や文章のジャンル、専門分野、使用場面によってその使用頻度や字体などにかなり異なる傾向が見られる。

沈在箕(1987)は、漢字の特性としては次の四種を挙げることができるとし、

- (11) ① 一つの漢字は、いくつかの音を持つことができる。
- ② 一つの漢字は、いくつかの意味を持つことができる。
- ③ 一つの漢字は、いろんな文法機能を遂行することができる。
- ④ 従って、一つの漢字は、特定の文章の中で、文法機能によって、その位置を自由に変えることができる。

上の四種の特性は、漢字が持てられる可能な特性を意味するものと理解されるかもし

29) 前掲書、『新版日本語教育事典』、pp.387-388.

れないが、事実においてはよく使われる漢字であればあるほど、上の四種の特性を一般的に具備している³⁰⁾と述べている。

漢字の特性から、字音語の特質を類推してみると、まず、字音語は造語力が強いということである。

字音語の造語力に直接影響を与えているのは漢字の数である。漢字の数については、辞典によって相当な差異を見せているが、最近出版された三国語の漢字辞典を調べてみると、『NEXUS實用玉篇』³¹⁾には、俗字・本字などを含め、約一万二千字が収録され、『新华字典』³²⁾には、繁体字³³⁾・異体字などを含め、約一万字が収録され、『新漢語林』³⁴⁾には、異体字・国字などを含め、一万四千三百十三字が収録されている。

三国語の常用漢字数を比べてみると、韓国語の場合は、2000年12月30日、教育部で公布した『漢文教育用基礎漢字』に収録された漢字が一八〇〇字で、大法院で選定した人名用の漢字を含めると三〇七九字になり³⁵⁾、中国語の場合は、「中国国家对外汉语教学领导小组办公室汉语水平考试部」で、2001年に公布した『汉语水平词汇与汉字等级大纲』(修訂版)に載っている漢字が二九〇七字であり³⁶⁾、日本語の場合は、1981年、内閣告示によって公布された『常用漢字表』に記載された漢字が一九四五字で、人名用の漢字九八三字を含めると二九二八字になる³⁷⁾が、このことから、現代韓・中・日三国語で実際に使用されている常用漢字数は、約三〇〇〇字であることが分かる。漢字三〇〇〇字というのは、音節数が三〇〇〇種であることにもなるが、これは、現代韓国語で実現される一二五〇種余りの音節数³⁸⁾と、現代日本語

30) 前掲論文、「漢字語의 構造와 그 造語力」、pp.28-29.

31) NEXUS辞典編纂委員會編(2005)『NEXUS實用玉篇』NEXUS ACADEMY

32) 中国社会科学院语言研究所词典编辑室編(2004)『新华字典』第10版、商务印书馆

33) 中国では、日本の旧字にあたる簡略化前の漢字を「繁体字」と呼ぶ。

34) 鎌田正・米山寅太郎(2005)『新漢語林』大修館書店

35) 前掲書、『옛센스 國語辭典』、p.2763.

36) 潘忆影(2005)『8840 HSK 單語集』CHINA PRESS、p.4.

37) 前掲書、『新明解國語辭典』、p.310.

38) 宋基中(1992)は、「形態論的な観点で、韓国語に存在可能な音節の総数は、次のような数式で算出することができる。初声(子音、'ㅇ'含む)×中声(単母音+二重母音)×終声(開音節+子音+二重子音)=19×(9+12)×(1+16+11)=11172。しかし、実際に実現される音節の総数は四〇〇〇を越えなく、その中で、一二五〇種余りが実現

で実現される約四〇〇種の音節数³⁹⁾に比べると、遥かに多い数である。

それでは、漢字三〇〇〇字でどれぐらいの字音語が造語できるのだろうか。これについて、姜榮勳(1987)は、いくつかの統計資料を提示しているが、要約すると次のようである。

「漢韓大辭典」(東亞出版社)に収録されている字音語を調査した資料によると、韓国語の中学校用基礎漢字九〇〇字が、語の前に来る例が六万二三七四語で、語の後に来る例が九八五五語である。また、韓国語の常用漢字一八〇〇字の造語力を調べた結果、一八〇〇字を組み合わせて造った字音語は十万語余りになるとする。造語力の強い漢字には、「大(823)・不(633)・無(584)・自(427)」をはじめ、二五〇語以上になるのも「高(265)・公(317)・国(416)」などがあり、百語以上になるのも二五五字ある。そして、韓国の文教部で、1957年に選定した臨時許容漢字一三〇〇字を組み合わせて字音語を造語すれば、五万六〇〇〇語余りになり、日本人の研究による統計では、漢字三〇〇〇字を組み合わせてできる字音語はおおよそ六〇万語余りにも達するという⁴⁰⁾。

字音語の造語力が強い原因は、漢字の数の多さだけではない。上の例の「大・不・無・自・国……」などが、それほど多くの語が造語できるのは、その一字一字が「おおい」「…しない/…でない」「ない」「自分/おのずから」「くに/国家の」など、自分の意味を持っているからである。つまり、漢字は表意文字だからである。それゆえ、漢字一字は他の多くの漢字と自由に結合することができ、他の漢字と組み合わせて造語した場合、その字音語は総合的な特徴を持つのが一般的である。

金光海(1989)⁴¹⁾によると、造語法の立場から、韓国語の固有語は分析的な特徴を

音節の全体の97%以上を占有するとする」と述べている。

〈宋基中(1992)「現代國語 漢字語의 構造」『韓國語文 1』韓國精神文化研究院、p.43.〉

39) 日本語の音節構造を、[(C=子音)(S=半母音)V=母音(V=母音)(Q=促音/N=撥音)]とすれば、音節数は拗音・外来語音などを含めて、約四〇〇種ぐらいになる。日本語の音節構造については、〈石綿敏雄・高田誠(1990)『対照言語学』桜楓社、pp.37-39.〉と、〈松崎寛・河野俊之(2004)『よくわかる音声』語文学社、pp.137-139.〉などを参照した。

40) 姜榮勳(1987)『中學生의 語彙擴張을 위한 漢字語 指導方法 研究』忠北大學校 教育大學院 碩士學位論文、pp.48-49.

41) 金光海(1989)「固有語와 漢字語의 對應現象」『國語學叢書 16』塔出版社、p.178.

持つ反面、字音語は総合的な特徴を持つという。ここで、総合的というのは、複合的な概念を一つの複合語の中に総合して表現する言語の特性を言う。これに対し、分析的というのは、複合的な概念を分けていくつかの成分で表現する言語の特性を意味する。すなわち、韓国語の固有語は複合語の構成が易しくないが、字音語は複合語の構成がもっと易しいということである。このことは、日本語の和語も韓国語の固有語と同じだと思われる。例えば、次のようである。

- (12) ① 画家: 絵をかく人/그림을 그리는 사람
② 愛煙家: たばこが好きな人/담배를 즐기는 사람

(12)のように、字音語は総合的な特徴によって「画家」「愛煙家」で表現できるが、日本語の和語または韓国語の固有語は「絵をかく人/그림을 그리는 사람」「たばこが好きな人/담배를 즐기는 사람」のように、句でしか表現できない。このような字音語の総合的な特徴は、言語の経済的な側面にも符合する重要な特徴で、字音語は概念と指示上の明確性を要する専門用語や学術用語、翻訳語などの造語において、豊かな造語力を持つようになる。

沈在箕(1987)は、字音語の造語法上の特質について次のように説明している。第一、漢字一字一字が持つ統辞的機能の多様性である。漢字一字がいろいろな意味に転用されるとともに多様な統辞的機能を遂行することによって、他の漢字と自由に結合する。例えば、「宿命」の「宿」は冠形語⁴²⁾、「宿泊」の「宿」は動詞、「宿直」の「宿」は副詞、「投宿」の「宿」は名詞で、「宿」の統辞的な機能が互いに違う。第二、漢字一字一字が表す意味の融通性である。意味が転変拡大されるによって、二字語からは慣用的に特殊化・専門化することがある。音訳語である仏教用語「三昧」「菩薩」「涅槃」「仏陀」などは言うまでもなく、「光武」「隆熙」など年号をはじめとする固有名詞、そして「経済」「白眉」「土木」などで見られる意味の専門化

42)「冠形語」とは、韓国語で、体言の前に冠して体言の意味を修飾する語を指す。

は、他のどんな言語のそれよりも強度が大きいといえることができる。第三、漢字一字一字が持つ意味の代表性である。すでに形成された二字語または三字語で代表になる漢字一字が、他の代表漢字と組み合わせて略語を造ることができる特性を言う(例えば、「科學技術處→科技處」など)。このような簡潔性が漢字の造語を豊かにする要因にもなる⁴³⁾。字音語の中に二字字音語がもっとも多いのも、このような簡潔性のためであると考えられる。

次に、字音語の語構成における特質であるが、字音語の語構成は、その語の表す意味と深い関係があり、特に、字音語の複合語は、語構成要素間の関係が統語論における語同士の関係と同じ統語構造を有するといえることができる。

- (13) ① 父母・売買・広大
② 校門・濁水・深夜
③ 新入・倒立
④ 日出・日没
⑤ 植樹・開口・求職

[(13)-①]の「父母」は「父と母」、「売買」は「売ることと買うこと」、「広大」は「広くて大きい様子」という意味で、並列関係を表す語であり、[(13)-②]の「校門」は「その学校の門」、「濁水」は「濁った水」、「深夜」は「深い夜」という意味で、連体修飾関係を表す語であり、[(13)-③]の「新入」は「新しくはいること」、「倒立」は「さかさまに立つこと」という意味で、連用修飾関係を表す語である。そして、[(13)-④]の「日出」は「太陽が出ること」、「日没」は「太陽が沈むこと」の意味で、主語・述語関係を表す語であり、[(13)-⑤]の「植樹」は「木を植えること」、「開口」は「口を開くこと」、「求職」は「職業を求めること」の意味で、述語・目的語関係を表す語である。

この外にも述語・補語関係、重複などがあるが、このような特質で、一つの言語単

43) 前掲論文、「漢字語의 構造와 그 造語力」、pp.37-39.

位が、形態素であるか、語であるか、それとも句であるかを弁別することは非常に難しく、同じ言語単位であっても、言語によって受け取り方が異なる。例えば、「校門」「新入」などは韓国語と日本語では語として使用されているが、中国語では句の範疇に入れている。

そして、形・音・義を備えている表意文字としての漢字の特性と、言語類型論の観点から孤立語⁴⁴⁾に属する中国語の特性から、字音語は形態変化をしない特質を持つことが分かる。このような特質を持つ字音語は、膠着語⁴⁵⁾である韓国語と日本語の言語体系の中で定着するためには、韓国語と日本語の膠着語としての特性を付与しなければならない。つまり、名詞性の字音語は、韓国語と日本語でそのまま名詞になるが、動詞性の字音語には、韓国語の場合は接尾辞「-하다(hada)」をつけて動詞をつくり、日本語の場合は動詞「する」をつけて複合動詞をつくる。また、形容詞性の字音語には、韓国語の場合は「-하다(hada)」「-롭다(ropda)」「-스럽다(seureopda)」などのような接尾辞をつけて形容詞をつくり、日本語の場合は形容動詞の語尾「-だ」をつけて形容動詞をつくる。例えば、次のようである。

(14)		中国語	韓国語	日本語
①	名詞:	地图	地圖	地図
②	動詞:	调查	調査하다(-hada)	調査する
③	形容(動)詞:	复杂	複雑하다(-hada)	複雑だ
		豪华	豪華롭다(-ropda)	豪華だ
		秘密	秘密스럽다(-seureopda)	秘密だ

副詞性の字音語は、韓国語の場合は副詞格の助詞「로(ro)/으로(euro)」あるいは接尾辞「-이(i)」「-히(hi)」などをつけたりつけなかったりして副詞をつくり、日本語

44)「孤立語」とは、単語が文中で使われる時、屈折や膠着の手続きなしに用いられる言語である。文法的な機能は配列の順序によって決まる。

<松村明編(1989)『大辞林』三省堂、p.919.>

45)「膠着語」とは、実質的な意味をもつ単語あるいは語幹に、文法的な機能をもつ要素が次々と結合することによって、文中における文法的な役割や関係の差異を示す言語である。

<上掲書、『大辞林』、p.830.>

の場合は形容動詞の連用形「-に」「-と」などを伴ったり伴わなかったりして副詞をつくる。例えば、(15)のようである。

(15)	中国語	韓国語	日本語
①	再三	再三	再三
②	徐徐	徐徐히(-hi)	徐徐に
③	一一	一一이(-i)	一一
④	往往	往往	往往(に/にして)
⑤	绝对	绝对(로)(-ro)	绝对(に)
⑥	自然	自然(히)(-hi)	自然(に/と)

[(15)-①]はそのままの形で副詞になる場合であり、[(15)-②]は韓国語と日本語で必ず「-히(hi)」「-に」をつけて副詞になる場合である。[(15)-③]は韓国語で「-이(i)」を、[(15)-④]は日本語で「-に」または「-にして」を伴う場合であり、[(15)-⑤⑥]は韓国語と日本語で「-히(hi)」「-に」「-と」などを伴っても伴わなくても副詞として使われる語である。このように、副詞性の字音語は、韓国語と日本語でさまざまな形態で使用されているから、学習上注意が必要であると思われる。

2.2 先行研究の現状と問題点

2.2.1 韓国語における先行研究

韓国語における字音語の語構成に関する研究は、大きく二つに分けられる。一つは、「語幹」「語根」「機能素」というような用語を使い、韓国語の固有語と同じ体系内で究明しようとするものであるが、この類に属する研究には、李翊燮(1968)、盧明姬(1990)、宋基中(1992)などがある。もう一つは、いわゆる「漢文文法」の体系内で究明しようとするものであるが、金敏洙(1971、1998)、沈在箕(1987)、崔圭

一(1989)などがこれに属する。

まず、李翊燮(1968)は、字音語の造語法を韓国語の固有語の造語法と同じ体系で究明しようとし、字音語の語構成を次のように分類している。

(16) ① 単一語

- a. 単音節の語: 門・兄・東・山……
- b. 二音節以上の語: 矛盾・珊瑚・葡萄・饅頭……

② 複合語

- a. 語幹+語幹: 冊床・窓門……
- b. 語根+語根: 老人・眼鏡……
- c. 語幹+語根(或は語根+語幹): 友情・賞状……

③ 派生語

- a. 接頭辞+語基: 未婚・不幸・洋式・最高級……
- b. 語基+接尾辞: 私的・作者・能率的・労働者……

そして、漢字の接辞はその数は少ないが、接辞であるものは生産性が非常に高いのが一般的で、接辞と語根が結合することは韓国語の固有語の接辞と語根にはない字音語の特有の現象であると述べている⁴⁶⁾。

申昌淳(1969)は、「漢字語」を単純語と複合語に分け、単純語には漢字一字からなるもののほかに、「枇杷・蟋蟀・葡萄」などのように二字からなる語もあるが、これらの二字以上の単純語はほぼ中国から有形のものが入ると同時に名前も一緒に入った場合で、次のようなものがあるとしている。

(17) ① 植物の名前: 桔梗・生薑・薔薇・牡丹……

② 薬品・香料・染料・鉱物などの名前: 牛黄・麝香・臙脂・水晶……

③ 獣の名前: 鸚鵡・孔雀・郭公・駱駝……

④ いろいろな道具の名前: 琵琶・屏風・帽子・拂子……

⑤ 仏教上の言葉: 袈裟・菩薩・三昧・佛陀……

46) 李翊燮(1968)「漢字語 造語法の類型」李崇寧博士頌壽紀念論叢, pp.476-481.

この外に、二字以上の単純語として、また「重言(疊字)・雙聲・疊韻」のような方式で構成された語があるとし、これらはほとんど擬声・擬態語で、その「漢字語」の意味はその語を構成する漢字の意味とはあまり関係がなく、その字音で語感を表現しようとするような語であると述べ、次のような例を挙げている。

- (18) ① 重言(同じ漢字を二つ重ねた語): 堂堂・紛紛・悠悠・滔滔……
② 雙聲(上下二字の「声」が同じ語): 躊躇・恍惚・猶豫・髣髴……
③ 疊韻(上下二字の「韻」が同じ語): 混沌・彷徨・逍遙・燦爛……

そして、その以外の二字以上の漢字熟語はすべて複合語であるとし、二字語の構成方法を大きく三種に分けて記述しているが、まとめると次のようである。

- (19) ① 並列式方法によるもの
- a. 同意味や類義語で結合されたもの
 - ア. 体言並列: 價值・言語……
 - イ. 動詞並列: 監督・開拓……
 - ウ. 形容詞並列: 苛酷・激烈……
 - b. 反義語で結合されたもの
 - ア. 結合の程度が高いもの: 國家・左右・天地・人物……
 - イ. 結合の程度が低いもの: 古今・男女・利害・善惡……
 - c. 同音字を重複したもの: 各各・種種・子子孫孫・明明白白……
- ② 統辞的方法によるもの
- a. 修飾関係
 - ア. 被修飾語が体言で、修飾語が用言であるもの: 小人・美女……
 - イ. 用言が被修飾語であるもの: 孤立・固定……
 - ウ. 修飾語が体言であるもの: 地下・天才……
 - b. 補足関係(述語+客語・補語): 結婚・登山・成功・失望・握手……
 - c. 主述関係: 人造・人工・心痛・日没・地震……
- ③ 派生的方法によるもの
- a. 接頭辞がついたもの: 無禮・非常……

b. 接尾辞がついたもの: 近者・箱子……

また、上のような方法で構成されていない熟語としては、次のようなものがあると
している⁴⁷⁾。

(20) ① 典故による熟語: 杞憂・矛盾・古稀・不惑……

② 日本で造った熟語: 案内・出張・景気・手続……

朴英燮(1995)は、西域から流入された「琵琶」「葡萄」などの語は、これ以上小さい語で分析することのできない単純語であるとし、複合語でできた「漢字語」の中で、二字語が最も多く、二字語をもとにして三字・四字語が構成されると述べ、申昌淳(1969)の分類方法を参照して、「二音節漢字語」を分類している⁴⁸⁾が、(19)とほぼ同じである。

金敏洙(1971、1998)は、字音語の構造を形態構成と構文構成に分けて分析しているが、形態構成は(21)のように、構文構成は(22)のようにそれぞれ分類している⁴⁹⁾。

(21) ① 単一語: 肝・江・客・伶俐・混沌・琵琶……

② 複合語: 土地・左右・小説・将来・文字……

③ 派生語

a. 基語+接尾辞: 突然・椅子・此等……

b. 接頭辞+基語: 第一・不良・打破……

④ 慣用語: 杞憂・矛盾・羊頭狗肉・同床異夢……

(22) ① 主述関係(主語+述語)

a. 主述結構: 天動・日没・國立・頭痛・年老……

② 動賓関係(述語+客語)

47) 申昌淳(1969)「漢字語小考」『國語國文學42・43』國語國文學會、pp.252-258.

48) 朴英燮(1995)『國語漢字語彙論』博而精、pp.24-27.

49) 金敏洙(1971、1998)『國語文法論』一潮閣、pp.379-380.

- a. 動賓結構: 騎馬・示威・成功・飲酒・投機……
- b. 存現結構: 立春・開花・降雨・有料・無人・富國・愚民……
- ③ 補充關係(主体+從屬)
 - a. 動補結構: 延長・長大・治安・登山・上京……
 - b. 助動結構: 過去・開放・決定・育成・貫通・奪取……
 - c. 形補結構: 耐久・喜甚・多三倍・高千丈……
- ④ 修飾關係(從屬+主体)
 - a. 修飾結構(副体): 小説・熱心・流水・四方・彼岸……
 - b. 修飾結構(副用): 瓦解・中立・公開・雪白・好轉・長方……
 - c. 認定結構: 可憐・必要・難解・未開・非常……
- ⑤ 聯合關係(主体+主体)
 - a. 聯合結構: 父母・飲食・時間・交通・旅行・重要……

金宗澤(1972)は、字音語はそれがもつ語素の形態的恒常性によって韓国語の固有語とは全然違う造語能力を持っているので、固有語とは別個の基準に立脚して研究しなければならないとし、いわゆる複合漢字語群を、意味構造の分析の立場から、形態論的構成による完全複合語群と統辞論的構成による擬似複合語群とに大別し、完全複合語群は意味論的な見地でみれば、一つの新しい意味素を創造する立場にたつもので、語彙的な制約を受けるが、擬似複合語群は形態的類似性によって複合語のように処理されているが、それぞれの構成素の間には統辞的規則による支配関係、すなわち文法的制約を受けると記述している⁵⁰⁾。

沈在箕(1987)は、字音語の構造を漢字数によって一字語・二字語・三字語・四字語・五字語に分けて検討し、三字語以上のすべての字音語は二字語を基盤に形成されているので、構造的な特徴は結局、二字語の解明で終わると述べ、二字語の構造を次のように分類している⁵¹⁾。

50) 金宗澤(1972)「複合漢字語의 語素 配合 構造」『語文學 27』韓國語文學會、p.84.

51) 前掲論文、「漢字語의 構造와 그 造語力」、pp.31-37.

- (23) ① 主述構成: 天動・日没・國立・人造……
 ② 修飾構成: 動詞・過程・長期・概念・人品……
 ③ 並列構成: 人民・土地・方法・言語・上下・達成・關係……
 ④ 限定構成: 冷凍・指示・特定・脱出・聯合・使用……
 ⑤ 補充構成: 社會・意味・性質・説明・移動……
 ⑥ 接尾構成: 硝子・樵子・人間・空間……
 ⑦ 目的構成: 避難・殺生・防火・停會・觀光……
 ⑧ 被動構成: 見奪・所定・被侵……
 ⑨ 否定構成: 勿論・不利・非理・無罪・否決……
 ⑩ 省略構成: 懷中・傷寒・意外・亡命・入試……

崔圭一(1989)は、字音語の統辞的な構成によって、字音語の構造を次のように九種に分類し、

- (24) ① 融合關係: 身體・正直・逃走……
 ② 並列關係: 風雲・晝夜・信任・眞善美……
 ③ 対立關係: 貴賤・男女・旦夕……
 ④ 修飾關係: 美人・人情・古書・新春……
 ⑤ 主述關係: 日出・家貧・山高……
 ⑥ 述目關係: 讀書・愛國・求人・給水……
 ⑦ 述客關係: 登山・下山・登校・下校……
 ⑧ 述補關係: 有效・難解……
 ⑨ 述本關係: 所願・不美・不老……

上の[(24)-①～⑤]に該当する字音語は、韓国語の語順と同じなので、漢字の順序どおり解釈し、[(24)-⑥～⑨]に該当する字音語は、韓国語の語順と違うから、韓国語の語順に合うように解釈しなければならないとしている⁵²⁾。

盧明姬(1990)は、字音語の記述において、既存の機械的な形態素の分析は、分析された形態素の間の相互の緊密性の差異を正確に捕らえることができないから、實際的

52) 前掲論文、『韓國語 語彙形成에 관한 研究』、p.123.

な機能単位を設定する必要があるとし、「機能素」という機能単位を設定して、これらの「機能素」には、(Ⅰ)最小自立形式、(Ⅱ)依存形式の中で固有語の接尾辞「-하다(hada)」と結合することができ、特殊助詞がつくことができる単位、(Ⅲ)自立形式について、接辞的機能をする単位が含まれるとしている⁵³⁾。

一方、盧明姬(2007)では、「国語で漢字語は単に語彙が借用される次元を越えて、その造語法まで一緒に借用されている」とし、また「漢字語の内的構造が漢字語全体の文法的な機能や範疇を決定するのにある程度反映される」と述べ、字音語の内的構造を基本構造(主語+述語、述語+目的語、述語+補語)、修飾構造(冠形語+名詞、副詞語+述語)、並列構造(名詞+名詞、形容詞+形容詞、動詞+動詞)などに分けて論じている⁵⁴⁾。盧明姬(1990)とは相当違った立場を取っていることが分かる。

鄭元洙(1991)は、造語論的な過程に従って、三つの類型に要約している⁵⁵⁾。

(25) ① 並列構成

- a. NR(N)+NR(N): 思想・土地・身體・江山
- b. V₂R+V₂R: 加入・開拓・教育・記憶
- c. AR+AR: 困難・公明・奇異・安樂

② 冠形構成

- a. NR(N)+NR(N): 名士・光線・路上・武臣
- b. AR+NR(N): 大臣・所見・美女・好材
- c. V₁R+NR(N): 動力・過程・動詞・來日

③ 叙述構成

- a. A₁R+V₁R: 孤立・獨立・再考・合唱
- b. V₂R+NR(N): 讀書・避難・安心・斷念
- c. NR+V₁: 天崩・日沒・人造・市立
- d. NR+AR: 年長・夜深・家貧・心痛

(* R: 語根、V₁: 自動詞、V₂: 他動詞)

53) 盧明姬(1990)『漢字語의 語彙形態論的 特性에 관한 研究』서울大學校 大學院 碩士學位論文、pp.30-31.

54) 盧明姬(2007)「漢字語의 語彙 範疇의 內的 構造」『震檀學報 103』、pp.168-171.

55) 鄭元洙(1991)『國語의 單語形成 研究』忠南大學校 大學院 博士學位論文 <金宗澤(1993)『國語 語彙論』塔出版社から再引用、p.200.>

宋基中(1992)は、金敏洙(1971、1998)のような分析は「大部分の漢字語が形成された歴史的な観点ではもちろん正しい。しかし、現代(韓)国語に存在する漢字語の語彙項を分析した結果、或は国語の話者が認識している漢字語の形態素を分析した結果ではない。漢文文法の体系内では個別の漢字と結び付けられた形式が、"名詞"、"叙述詞"、"副詞"などの機能を発揮することができても、それが現代国語の中でもそのまま実現されないのは自明である。国語漢字語の形態素の文法機能は固有語の形態素と相関関係を考慮して把握されればこそ、国語内で発揮される正しい機能に把握できる」といい、「結局、漢字語の形態素が現代国語で発揮する文法的機能を適切に把握する方法は、国語文法の根幹的特性を発揮する固有語の形態素の文法的機能に立脚して、漢字語の形態素の機能を把握するが、別途の範疇を設定する方法が最も妥当である。すなわち、"国語形態素"をまず"非漢字語形態素"と"漢字語形態素"とに区分し、非漢字語形態素の機能範疇を把握・設定した後、非漢字語に適用した概念で漢字語の形態素を観察して、それに適切な機能範疇を設定することである」と述べ、「漢字語の形態素」を名詞性形態素(自立形式[名詞]、自在的依存形式、制限的依存形式)、叙述・名詞性形態素(自在的依存形式、制限的依存形式)、修飾詞性形態素(自在的依存形式、制限的依存形式)に分けている⁵⁶⁾。

Jang Yeongsu(1994)は、「構成素」「形象項」という概念を設定し、字音語の語構成を[表2]のように分類している⁵⁷⁾。

56) 前掲論文、「現代國語 漢字語의 構造」、pp.49-51.

57) Jang Yeongsu(1994)は、「構成素」「形象項」という概念を次のように定義している。

構成素：漢字語を分析した場合、分析された構成要素の本来の語彙的な意味を中心とする最小の単位である。

ただし、各音節が互いにその他のどんな構成素と結合することがないのは排除する。

形象項：「単一構成素(自立構成素)」や「構成素」と「構成素」が結合した漢字語である。

そして、「構成素」を意味によって有義構成素(例えば、「窓門」「父母」など)、無義構成素(例えば、「帽子」「國家」など)、添義構成素(例えば、「投手」「美術家」など)に分け、自立性によって自立構成素(例えば、「肝」「江」など)、依存構成素(例えば、「父」「天」など)に分けている。「形象項」は大きく八種に分けている。

<Jang Yeongsu(1994)『漢字語 單語 짜입세에 관한 研究』東亞大學校 大學院 碩士學位論文、pp.20-31.>

[表2]

形象項	構成素の結合方式	例
I ㄣ	単一構成素	肝、江、門、冊、床……
I ㄣ		矛盾、於此彼、分付……
II	有義構成素 + 無義構成素	饅頭、國家、菓子、帽子、拍子……
III ㄣ	有義構成素 + 有義構成素	江山、冊床、窓門……
III ㄣ		父母、天地、兄弟……
III ㄣ		自動、航空、國立……
III ㄣ		困難、奇異、安樂……
IV	有義構成素 + 添義構成素	投手、技士、大家、糖分、水分……
V	形象項 + 添義構成素	飛行士、理髮士、美術家、運轉手、無頼漢、門下生……
VI ㄣ	有義構成素 + 形象項	大都市、新教育、小企業……
VI ㄣ		未修交、再可動、最長身……
VII	形象項 + 有義構成素	高壓線、前半期、前夜祭、貴重品……
VIII	同一形態構成素の反復	句句節節、時時刻刻、子子孫孫、明明白白、 虚虚實實……

そして、[表2]の中で「I・II・III ㄣ」は単一語に、「III ㄣ・III ㄣ・III ㄣ・VI ㄣ・VII・VIII」は合成語に、「VI ㄣ」は準接頭派生語に、「IV・V」は準接尾派生語に所属させている。

Jang Yeongsu(1994)は、「構成素」の設定の理由については、「漢字語」は固有語よりは生産性が高いだけでなく、「漢字語」の構成要素の中には文法的な機能をするものが全然現れないからであるとしている。また、「形象項」というのは、語彙に該当する概念で、中には単一語の範囲に所属させることができるものもあれば、複合語の範囲に入れることができるものもあるとし、「形象項」の設定の必要性については、「漢字語」の構成素が結合した場合、これらの語彙の中で、同じ構成素の結合が単一語に分けられるものもあれば、そうでないものもあるから、同じ種類の構成素同士の結合を「形象項」といえば便利だからであると述べている。

鄭旼泳(1994、1999)は、字音語の複合語の構造を大きく並列構成、従属構成、叙述構成、その他の構成など四種に分け、統辞機能と意味によって、複合語の構成要素として、N(名詞、代名詞、数詞)、V(動詞)、A(形容詞)、Ad(副詞)などを設定して、

(26)のように下位分類している58)。

(26) ① 並列構成

a. N+N

- ア. 反義関係: 上下・男女・天地・兄弟……
- イ. 類義関係: 土地・言語・意味・根本……
- ウ. 対等関係: 花鳥・風水・風雨……

b. V+V

- ア. 反義関係: 授受・生死・起伏・興亡……
- イ. 類義関係: 達成・逃走・信任・結束……
- ウ. 対等関係: 飲食・殺傷……

c. A+A

- ア. 反義関係: 大小・強弱・長短・早晚……
- イ. 類義関係: 正直・困難・貴重・明白……
- ウ. 対等関係: 正大・秀麗・遠大・宏壯……

d. Ad+Ad: 相互・恒常・何必・惟獨……

② 従属構成

a. N+N: 人情・汽車・野外・陸上……

b. A+N: 美人・小説・香水・熱心……

c. V+N: 動詞・過程・來日・住宅……

d. Ad+N: 唯一・即席・即興……

e. N+V: 所定・所願・所見・一見……

f. A+V: 重視・密接・激動・廣告……

g. V+V: 合唱・敗北・加入・扶養……

h. Ad+V: 復活・獨立・相談・自立……

i. Ad+A: 必然・如何・相異・自重……

③ 叙述構成

a. N+V₁: 地震・人造・毒殺・雲集……

b. V₁+N: 行船・開花・發病……

c. N+A: 夜深・家貧・性急・心亂……

58) 鄭攸泳(1994)『國語 漢字語の 單語 形成 研究』忠北大學校 大學院 博士學位論文、pp.44-72.

鄭攸泳(1999)「國語 漢字 複合語の 構造」『開新語文研究 9』忠北大學校 開新語文研究會、pp.81-95.

- d. A+N: 有名・多情・如意・無罪……
 - e. V₂+N: 避難・觀光・告別・負傷……
 - f. N+V₂: 席卷・利用・步行・家出……
 - g. V₃+N: 登山・上陸・乗車・渡日……
- ④ その他の構成
- a. 補助構成: 可能・不在・非凡・否認……
 - b. 省略構成: 亡命・矛盾・古稀・完璧……
 - c. 反復構成: 漸漸・往往・一一・滔滔……

趙範熙(1998)は、沈在箕(1987)、鄭元洙(1994)、鄭旼泳(1994)などを基にして「漢字語の構造の新しい模型」を提示しているが、[表3]のようである⁵⁹⁾。

[表3] 「漢字語の構造の新しい模型」

漢字語の構造類型		語根の類型	語 例 ⁶⁰⁾
主述構成		N+V	波及・人造・波動……
		N+A	夜深・土深・文弱……
述目構成		V+N	決心・努力・報道・設計……
		V+V	歸納・比重・説教・祝願……
述補構成		V+N	登山・除外・照明・處理……
		A+N	多情・有名・長壽・充分……
修飾構成	冠形語+体言	N+N	工業・個人・公園・空氣……
		V+N	關心・教室・感情・速度……
		A+N	古典・故事・能力・青春……
		Ad+N	今日・先人・豫想・即刻……
	副詞語+用言	V+V	感激・關係・解放・警告……
		A+V	輕視・固定・密接・要求……
		Ad+V	共通・獨立・普及・自由……
		Ad+A	可憐・便利・反對・素朴……
並列構成	対立關係	N+N	夫婦・因果・春秋・黑白……
		V+V	動靜・問答・生死・得失……
		A+A	老少・是非・明暗・喜悲……
		Ad+Ad	古今・彼此……
	対等關係	N+N	父母・矛盾・貧困・心情……
		V+V	過去・教育・發展・訪問……
		A+A	巧妙・純潔・誠實・勇敢……
		N+N	基本・家庭・計算・思考……

59) 趙範熙(1998)『漢字語 構造에 관한 研究』韓國教員大學校 大學院 碩士學位論文、pp.24-37.

	疊語関係	V+V	開發・建築・経過・命令……
		A+A	巨大・祈禱・描寫・平均……
		N+N	年年……
		V+V	戀戀……
		A+A	緩緩・蕩蕩……
派生構成	接頭構成		無罪・不足・否認・未來……
	接尾構成		主人・文化・作家・自然……
単一構成		2音節単一語	工夫・文明・歲月・風水……

Lee Sanggyu(2004)は、字音語の複合語を合成語と派生語に分け、合成語の構造類型を形態的關係と統辞的關係によって分類しているが、形態的關係による分類は、また自立性の有無によって、「自立形式+自立形式」(例えば、「江山」「窓門」など)、「自立形式+依存形式」(例えば、「車道」「妻家」など)、「依存形式+自立形式」(例えば、「登山」「發病」など)、「依存形式+依存形式」(例えば、「加減」「讀書」など)に分類し、形成方式によっては、反復構成合成語(例えば、「各各」「次次」など)、略語構成合成語(例えば、「江南」「高校」など)に分類している。

統辞的關係による分類は、「漢字語の語根は名詞性語根(NR)と叙述名詞性語根(VNR)に分けられるという特徴と、漢字語の合成語は大多数が名詞であるという特徴を反映して」、(27)のように分類している。

(27) ① NR(N)+NR(N)

並列構成: 江山・善惡・憤怒・土地……

修飾構成: 茶房・月光・香水・人情……

叙述構成: なし

② NR(N)+VNR

並列構成: なし

修飾構成: 所定・所行・國會・漆黑……

叙述構成: 國立・年長・地震・人造……

③ VNR+NR(N)

並列構成: なし

60) 語例は上掲論文、pp.40-58.を参照した。

修飾構成: 大臣・過客・登山・登校……

叙述構成: 有名・下校・多情・犯罪……

④ VNR+VNR

並列構成: 開始・超越・興亡・貴賤……

修飾構成: 孤立・合唱・重視・交戦……

叙述構成: なし

⑤ M+M(M=morpheme): 經濟・文化・社會・人間……

(27)で問題になるのは[(27)-⑤]であるが、Lee Sanggyu(2004)は、[(27)-⑤]は「統辞的關係を分析することができない類型で、並列關係、修飾關係、叙述關係を判断することができない。このような類型は單純に"形態素+形態素"の結合で処理する」と述べている⁶¹⁾。

辛基相(2005)は、「漢字語構文」という用語を使い、「漢字語構文」を次のように分類し、

(28) ① 並列構文

a. 同一漢字語の並列: 家家・年年・別別・次次……

b. 類似漢字語の並列: 家屋・加入・困難・逃走・葡萄……

c. 対立漢字語の並列: 強弱・出入・先後・因果……

② 修飾構文

a. 冠形語+被修飾語: 家具・物質・罰金・打者……

b. 副詞語+被修飾語: 孤立・無視・未開・上昇……

③ 主述構文

a. 主語+述語: 光明・日出・市立・人造……

b. 述語+主語: 開花・多情・無限・有利……

④ 述目構文

a. 目的語+述語: 國防・家出・面接・樹植……

b. 述語+目的語: 開會・募金・消火・愛國……

61) Lee Sanggyu(2004)『現代國語 漢字語의 構成單位와 構造 研究』漢陽大學校 大學院 博士學位論文、pp.86-98.

⑤ 補完構文

- a. 被動構文: 被拉・被選・被任・被害……
- b. 否定構文: 未開・非常・否認・無限……
- c. 語根+接辞(性漢字語): 街頭・拍子・自然・巨視的・大衆化……
- d. 接辞(性漢字語)+語根: 猛活躍・猛攻撃・過保護・過乾燥……

しかし、「漢字語」は内部構造が多様で、このような分類だけではすべての「漢字語」を満身に配属させることができず、このような分類に適切に配属されにくい「漢字語」もあるとしている⁶²⁾。

この外にも、韓国語での字音語の語構成に関する研究には、金圭哲(1980)、鄭愚相(1993)などがあるが、金圭哲(1980)は韓国語の固有語との比較を中心に研究が行なわれ、鄭愚相(1993)は字音語の構造と「漢文」の構造との関係について論じている。李光政(2003)は通時的な観点と共時的な観定の両面で、韓国語の固有語と字音語の語彙的な特徴を考察し、鄭鎮然(1990)は漢字の解釈におけるの類型を、固有訓と漢字訓に分けて考察している。両国語または三国語の字音語の意味対照を中心に扱った研究には、黄慈仁(1984)、劉昌錫(1990)、金慧娟(1999)、崔允敬(2003)、金鮮花(2004)、孫惠波(2004)、崔貴淑(2004)、金慧順(2005)、柳玄京(2007)などがあり、教育学の面で字音語を論じた研究には、Sim Soyeon(2004)、曹錦慈(2006)などがある。これらの研究では、字音語の語構成について詳しく分類が行なわれていないため、ここでは詳述しない。

以上、韓国語における字音語の語構成に関する研究を考察してみたが、次のようないくつかの問題点が挙げられる。まず、李翊燮(1968)の「語幹」という用語の設定が字音語の語構成に関する研究にはふさわしくないということである。というのは、「語幹」は「語尾」と区別するために設定するものであるが、字音語には「語尾」というものがないからである。

盧明姫(1990)の「機能素」の下位分類である「自立形式」「依存形式」と、宋基中

62) 辛基相(2005)『現代國語 漢字語』복스 힐, pp.186-196.

(1992)の「名詞性形態素」の下位分類である「自立形式」「自在的依存形式」「制限的依存形式」などの設定も、韓国語の体系内ではある程度分類が可能であるかもしれないが、中国語または日本語との対照研究においては相当問題になる。例えば、「愛」は韓国語では「依存形式」であるが、中国語と日本語では「自立形式」であり、「国」は韓国語と日本語では「依存形式」であるが、中国語では「自立形式」である。従って、「愛国」は三国語で同じく「国を愛する」という意味を表す「動詞+目的語」構造の語であるが、「自立形式」と「依存形式」で分類すると、韓国語では「依存形式+依存形式」、中国語では「自立形式+自立形式」、日本語では「自立形式+依存形式」になる。

Jang Yeongsu(1994)の「構成素」の下位分類も非常に曖昧で、同じ形態の「構成素」が「無義構成素」になったり、「添義構成素」になったりする。例えば、[表2]の語例で、「分付」は「単一構成素」であるが、「糖分」「水分」の「分」は「添義構成素」に属し、「国家」の「家」は「無義構成素」に属しているが、「大家」「美術家」の「家」は「添義構成素」に属している。もちろん、同じ形態の「構成素」は必ず一つの下位分類にしか属せないというわけではない。「帽子」の「子」と「子孫」の「子」は意味と用法が違うから、当然別の「構成素」と見なすべきであろう。

いわゆる「漢文文法」の体系内での研究にも、論者によって使う用語もさまざまであり、分類の基準と種類もさまざまであって、問題は少なくないが、これらの問題については、次の章で詳しく論じることにする。

2.2.2 中国語における先行研究

これまでの中国語における字音語の語構成に関する研究は、複合語の内部構造が中国語の文法構造と基本的に一致するという前提のもとに、主として主述構成、修飾構成、述目構成、補充構成、並列構成など五つの構成を中心に研究が行なわれてきたが、代表的なものには次のようなものが挙げられる。

胡裕樹外(1991)は、語の内部構造の形式によって、現代中国語の語を単純語と合成語に分け、合成語は量的に絶対多数を占めるだけでなく、多様な構成方式を有するとし、合成語を「語基と接辞で構成された合成語」と「語基が互いに融合して構成された合成語」に分類しているが、まとめると次のようである⁶³⁾。

(29) ① 語基と接辞で構成された合成語

- a. 接頭辞+語基: 老虎・可変・无常・超时代……
- b. 語基+接尾辞: 桌子・作者・职员・歌手・同化……
- c. 接頭辞+語基+接尾辞: 反法西斯主义者・可靠性……

② 語基が互いに融合して構成された合成語

- a. 联合式(並列構成)
 - ア. 同義の語基を並列したもの: 思想・真实・学习・矛盾・国家……
 - イ. 反義の語基を並列したもの: 早晚・始終・东西・利害・动静……
- b. 附加式(修飾構成): 内部・热爱・深入・四季……
- c. 补充式(補充構成): 说明・打倒・物件・人口……
- d. 陈述式(陳述構成): 头痛・眼花・性急・年轻……
- e. 支配式(支配構成): 动员・示威・伤心・司令……

Maeng Jueok(1992)も、現代中国語の語を単純語と合成語に分類しているが、まとめると次のようである⁶⁴⁾。

(30) ① 単純語

- a. 単音節の形態素で構成されたもの: 说・走・山・水・大・小……
- b. 「联绵字」で構成されたもの
 - ア. 双声: 伶俐・仿佛・琉璃・澎湃……
 - イ. 疊韻: 徘徊・从容・堂皇・苗条……
 - ウ. 双声・疊韻でないもの: 蝴蝶・妯娌……
- c. 音訳した外来語: 咖啡・逻辑・葡萄・奥林匹克……

63) 前掲書、『現代中国語學概論』、pp.222-228.

64) Maeng Jueok(1992)『現代中国語文法』青年社、pp.38-43.

d. 擬声語: 叭・轰隆・噼里啪啦……

② 合成語

a. 複合語

ア. 并列型(並列構成): 广泛・朋友・声音・岁月・意义・庆祝・尊敬・明白・
观察・美丽・辛苦・呼吸・国家・质量・人物……

イ. 修饰型(修飾構成): 国旗・新闻・前进・预习・重视……

ウ. 补充型(補充構成): 扩大・治安・充满・改善・人口……

エ. 支配型(支配構成): 注意・关心・主席・失望・满意……

オ. 陈述型(陳述構成): 自觉・国营・法定・事变……

カ. 重叠型(重疊構成): 弟弟・偏偏・纷纷・茫茫……

b. 派生語

ア. 接頭辞+語基: 老师・阿姨・第一・初一・可怜……

イ. 語基+接尾辞: 椅子・石头・记者・个性・速度……

朱德熙(1997)は、単独で語を形成することができる形態素は「成词语素(自立形式)」(例えば、「人」「葡萄」など)で、単独で単純語になり、単独で語を形成することができない形態素は「不成词语素(結合形式)」(例えば、「人民」の「民」、「履歴」の「履」と「歴」など)で、他の形態素と結合して合成語になるといい、合成語の構造を次のように分類している。

(31) ① 附加式(派生語)

a. 前綴(接頭辞)+词根(語基): 初一・第一・老二・老李……

b. 词根(語基)+后綴(接尾辞): 金子・桃儿・馒头・渐渐的・好好儿的……

② 复合式(複合語)

a. 主谓式(主述構成)

ア. 名詞: 冬至・霜降……

イ. 動詞: 地震・心疼・耳鸣……

ウ. 形容詞: 面熟・年轻・胆怯・理亏……

b. 述宾式(述目構成)

ア. 名詞: 主席・将军・防风……

- イ. 動詞: 关心・动员・出版・告别……
- ウ. 形容詞: 讨厌・满意・卫生・无聊……
- エ. 副詞: 到底・照旧……
- c. 偏正式(修飾構成)
 - ア. 名詞: 飞机・优点・蛋白・意外……
 - イ. 動詞: 重视・热爱・回忆・中立……
 - ウ. 形容詞: 自私・冰凉・滚烫……
 - エ. 副詞: 至少・未免……
 - オ. 連詞(接続詞): 不但……
- d. 述補式(補充構成)
 - ア. 動詞: 革新・改良・证明・扩大・降低……
- e. 聯合式(並列構成)
 - ア. 名詞: 音乐・道路・买卖・法律……
 - イ. 動詞: 调查・安慰・重叠・可能……
 - ウ. 形容詞: 奇怪・透彻・光明・特殊……
 - エ. 副詞: 根本・千万……
 - オ. 介詞(前置詞): 自从……
 - カ. 連詞(接続詞): 而且・并且・因为……

この外、朱德熙(1997)は、特殊な複合語として「略称」があるが、「略称」には「減縮式」(例えば、「超音速飞机→超音速」「清华大学→清华」など)と、「緊縮式」(例えば、「抗日战争→抗战」「北京大学→北大」など)があると述べている⁶⁵⁾。

史锡尧外(1998)は、二音節の単純語の中には、いくつかの特殊な形式があるが、それは「叠音」「双声」「叠韵」「非双声叠韵」である。このような形式は、中国語の特有のものであるとし、単純語と合成語を次のように分類している⁶⁶⁾。

(32) ① 単純語

- a. 一音節のもの: 人・说・红……

65) 前掲書、『現代 中國語 語法論』、pp.24-66.

66) 前掲書、史锡尧・杨庆蕙主编『現代汉语』、pp.180-184.

- b. 叠音词(疊語): 依依・熊熊・孜孜・潺潺……
 - c. 双声词(双声語): 蜘蛛・恍惚・参差・澎湃……
 - d. 叠韵词(疊韻語): 徘徊・玫瑰・唠叨・彷徨……
 - e. 非双声叠韵词(双声・疊韻でないもの): 玻璃・芙蓉……
 - f. 译音词(音訳語): 雷达・吉普……
 - g. 象声词(擬声語): 扑通・哗啦……
- ② 合成語

- a. 实词素(語基)+实词素(語基)(複合語)
 - ア. 联合式(並列構成): 路线・笔墨・妻子・智慧・采访……
 - イ. 偏正式(修飾構成): 汽车・汉语・座谈・上游・深入……
 - ウ. 动宾式(述目構成): 开幕・出版・动员・注目・安心……
 - エ. 后补式(補充構成): 提高・说明・放大・人口・车辆……
 - オ. 主谓式(主述構成): 民主・夏至・法定・人为……
 - カ. 综合式(三つ以上の形態素で構成されたもの): (略)
- b. 实词素(語基)+虚词素(接辞)(派生語)
 - ア. 接頭辞+語基: 老李・阿姨・第一・初二……
 - イ. 語基+接尾辞: 剪子・木头・记者・学员・绿化……

劉月華外(2000)は、單純語の中に二音節の語として「纷纷・玻璃・逍遥・琥珀・彷徨」などの語を含めさせ、中国語の合成語は次のような二つの方法で構成されているとしている。

(33) ① 附加法(派生的な方法)

- a. 接頭辞をつけたもの: 阿姨・老师・初一・第五・小孩……
- b. 接尾辞をつけたもの: 刀子・花儿・木头・作者・弹性・绿化……

② 复合法(複合的な方法)

- a. 联合式(並列構成): 道路・人民・国家・声音・群众・友谊……
- b. 偏正式(修飾構成): 学校・家长・工人・京剧・移植・笔谈……
- c. 动宾式(述目構成): 动员・命令・理事・鼓掌・革命・主席……
- d. 补充式(補充構成): 扩大・埋没・提高・摧毁・说明・改进……
- e. 主谓式(主述構成): 年轻・地震・夏至・月亮・民主・月蚀……

この外に、「略称」として「減縮法」(例えば、「整顿作风→整风」「北京大学→北大」など)と数字を使った略語(例えば、「工业现代化·农业现代化·国防现代化·科学技术现代化→四化」など)を挙げている。また、動詞・形容詞・量詞(助数詞)の重疊の用法は単に造語法に属する問題ではないとし、別に論じている⁶⁷⁾。

Choe Gilwon主编(2000)は、語・形態素・文字の区別は[表4]のようであるとし、語の構成を(34)のように分類している。

[表4] 語・形態素・文字の区別

性質	例				
文字	喜	欢	葡	萄	その他
形態素			葡 萄		
語	喜 欢				

(34) ① 単純語の構成

- a. 一音節のもの: 打·把·水·和·的……
- b. 双声词(双声語): 伶俐·仿佛·犹豫·郑重……
- c. 叠韵词(叠韻語): 徘徊·从容·烂漫·堂皇……
- d. 非双声叠韵词(双声·叠韻でないもの): 玫瑰·垃圾·蝙蝠·窟窿……
- e. 音译词(音訳語): 玻璃·坦克·沙发·葡萄……

② 合成語の構成

a. 复合式(複合語)

ア. 联合型(並列構成)

第一組: 广泛·城市·帮助·恶劣·岁月……

第二組: 呼吸·矛盾·风浪·骨肉·来往……

第三組: 国家·质量·人物·忘记·干净……

イ. 偏正型(修飾構成): 电车·前进·深入·蔑视·合唱……

ウ. 补充型(補充構成)

第一組: 延长·改正·打倒·战胜·压缩……

第二組: 人口·车辆·花束……

エ. 动宾型(述目構成): 握手·注意·毕业·司令·着手……

67) 前掲書、『現代中國語文法』、pp.10-11.

- オ. 主谓型(主述構成): 民主・自卑・国营・歌唱……
- カ. 重疊式(疊語): 家家・年年・仅仅・说说……
- b. 附加式(派生語)
 - ア. 接頭辞+語基: 老师・非法・可爱・初一……
 - イ. 語基+接尾辞: 饺子・年头・读者・歌手・教员・作品・温度……

郭振华(2002)は、「葡萄・玻璃・玫瑰・胡同・马虎」などの語を、単純語の範疇に入れて説明し、「合成語」を(35)のように大きく三種類に分けて説明している⁶⁸⁾。

(35) ① 重疊式(疊語)

- a. 名詞: 爷爷・星星・人人・年年……
- b. 助数詞: 个个・张张・本本・件件……
- c. 動詞: 想想・看看・写写……
- d. 形容詞: 雪白雪白・好好儿的・老老实实……
- e. 副詞: 常常・偏偏・白白・渐渐……

② 附加式(派生語)

- a. 前加(接頭辞をつけたもの): 初一・老虎・第一・小姐……
- b. 后加(接尾辞をつけたもの): 桌子・石头・弹性・作家・美化……

③ 复合式(複合語)

- a. 并列式(並列構成): 国家・根本・伟大・东西……
- b. 偏正式(修飾構成): 月饼・电话・重视・难听……
- c. 动宾式(述目構成): 有限・告别・负责・无效……
- d. 动补式(補充構成): 证明・改良・感动・減少……
- e. 主谓式(主述構成): 心疼・春分・年轻・水利……
- f. その他: <名詞+助数詞> 车辆・信件・人口・花朵……
<略称> 北大・政协・四化・六书……

Charles N. Li外(2006)は、中国語の語の構造を形態論的な結合方式と複合語に分けて記述しているが、まとめると次のようである⁶⁹⁾。

68) 前掲書、『简明汉语语法』、pp.76-80.

69) Charles N. Li外著・Bak Jeonggu外譯(2006)『標準中國語文法』한울、pp.48-107.

(36) ① 形態論的な結合方式

a. 重畳

- ア. 意志動詞の重畳: 教教・说说・背背・走走……
- イ. 形容詞の重畳: 红红・慢慢・长长・圆圆……
- ウ. 助数詞の重畳: 条条・个个・天天・年年……
- エ. 親族語の重畳: 弟弟・爷爷・伯伯・婆婆……
- オ. その他の疊語: 刚刚・偏偏・常常……

b. 接辞の附加

- ア. 接頭辞の附加: 老大・第六・初十・可能・好听・难听……
- イ. 接腰辞の附加: 说得清楚・说不清楚……
- ウ. 接尾辞の附加: 根儿・我们・化学・作家・美化・亭子・馒头……

② 複合語

a. 名詞複合語(N₁は前の名詞を、N₂は後の名詞を表す)

- ア. N₁がN₂の置かれた場所を表す場合: 床单・墓碑・河马・海狗……
- イ. N₁がN₂の使用される場所を表す場合: 唇膏・眼药・牙膏・指甲油……
- ウ. N₂がN₁に使用される場合: 枪弹・炮弹・衣架・马房……
- エ. N₂がN₁の単位を表す場合: 铁原子・政府机关……
- オ. N₂が競技種目であるN₁に使用される運動器具を表す場合: 乒乓球・网球拍・垒球棒・……
- カ. N₂がN₁に対する保護装置を表す場合: 雨帽・雨衣……
- キ. N₂がN₁によって引き起こされる場合: 油迹・汗斑・水痕……
- ク. N₂がN₁の容器を表す場合: 书包・酒杯・米袋・奶瓶……
- ケ. N₁とN₂が並列関係である場合: 国家・子女・君主・父母……
- コ. N₂がN₁の生産物を表す場合: 蜂蜜・鸡蛋・蚕丝・猫粪……
- サ. N₂がN₁で造られる場合: 铜像・棉被・草鞋・纸老虎……
- シ. N₂がN₁の販売される場所を表す場合: 饭馆・菜市・药店・图书馆……
- ス. N₂がN₁の疾病を表す場合: 腰痛・肺病・肠炎・心脏病……
- セ. N₁がN₂の時間を表す場合: 春天・夏季・秋月・夜校……
- ソ. N₁がN₂の原動力である場合: 电灯・汽车・风车・原子能……
- タ. N₁がN₂の比喩的描写である場合: 狗熊・龙船・虎将・鬼脸……
- チ. N₂がN₁の構成要素である場合: 鸡毛・牛角……

- ツ. N₂がN₁の出所である場合: 水源・盐井・煤矿・油井……
- テ. N₂がN₁の雇用人か公務員である場合: 大学校长・银行总裁……
- ト. N₁がN₂の場所・組織・機関・構成を表す固有名詞である場合: 北京大学・上海路・美国国会……
- ナ. N₂がN₁を販売するか運搬する人を表す場合: 盐商・保险代理人……
- b. 動詞複合語
 - ア. 結果動詞複合語: 打破・拉开……(原因)
买到・写清楚……(達成)
跳过去・跑出来……(方向)
用完・卖掉……(形勢)
 - イ. 並列動詞複合語: 单独・虚伪・奇怪・建筑……(同義)
圆滑・贤明・漂流・扶养……(類義)
- c. 主述複合語: 胆大・命苦・性急・年轻……
- d. 動賓複合語
 - ア. 動詞で使われるもの: 关心・注意・结婚・出版……
 - イ. 名詞で使われるもの: 当局・炒饭・行政・领事……
 - ウ. 副詞で使われるもの: 当时・照常・转眼・到底……
- e. 相反形容詞で構成された名詞複合語: 大小・长短・好坏・真假……
- f. その他の複合語
 - ア. 形容詞+名詞: 香水・热心・美术・小便……
 - イ. 副詞+副詞: 反正・左右・根本・早晚……
 - ウ. 名詞+助数詞: 布匹・银两・书本・灯盏……
 - エ. 名詞+動詞: 利用・风行・步行・口试……
 - オ. 副詞+動詞: 自动・自杀・后事・先天……

北京大学中文系編(2007)は、語の構造を大きく単純語・合成語・略称など三種に分け、単純語には「双声語」「疊韻語」「非双声疊韻語」「擬声語」「音訳語」などの語が含まれる外に、「姥姥」「奶奶」「太太」のような「疊音語」があるが、これらは「哥哥」「姐姐」など、形態素が重疊されてできた語とは性質が違うとし、略称には「省略」「縮約」「数詞を使った略称」などがあると述べている。合成語の分類

は次のようである70)。

(37) ① 語基と語基で構成された合成語

a. 并列式(並列構成)

ア. 同義または類義の形態素で構成されたもの: 道路・头绪・攻击・英明……

イ. 反義の形態素で構成されたもの: 开关・天地・动静・高低……

ウ. 二つの形態素の意味が相関関係にあるもの: 手足・口舌・笔墨・岁月……

b. 偏正式(修飾構成): 黑板・电灯・高级・好看……

c. 陈述式(陳述構成): 心痛・年轻・地震・国营……

d. 支配式(支配構成): 开幕・关心・破产・卫生……

e. 补充式(補充構成): 证实・促进・接近・车辆……

f. 重叠式(重疊構成): 哥哥・姐姐・星星・娃娃……

② 語基と接辞で構成された合成語

a. 接頭辞+語基: 第一・老师・阿姨……

b. 語基+接尾辞: 椅子・皮儿・石头・突然・胖乎乎……

符淮青(2007)は、単純語はそれを構成する音節の特徴によって類型を分けることができ、合成語はそれを構成する形態素間の関係を分析して類型を分けることができるとし、単純語は[表5]のように分類し、合成語の場合は「实义语素(実質形態素)」「虚义语素(形式形態素)」「弱化语素(弱化形態素)」など三種の形態素を設定して、(38)のように分類している71)。

[表5] 中国語の単純語の分類

一音節	山 火 走 飞 大 高 和 把 呢		
	音訳	塔 佛 硼 氢 碘	
	擬声	嗖 啾 砰 哇	
二音節	連綿詞	双声	伶俐 吩咐 参差 枇杷
		疊韻	骆驼 哆嗦 馄饨 膀胱
		非双声疊韻	蝴蝶 垃圾 蜈蚣 玛瑙
	疊音	太太 奶奶 姥姥 熊熊	

70) 前掲書、北京大学中文系編『現代漢語』、pp.204-211.

71) 前掲書、『現代漢語詞匯』、pp.50-76.

	音訳	尼龙 沙发 吉他 吉普
	擬声	扑通 刺溜 咕咚 拨刺
三音節	音訳	巧克力 法西斯 麦克风 蒙太奇
	擬声	轰隆隆 呼噜噜
四音節以上	音訳	歇斯底里 盘尼西林 布尔什维克 英特纳雄耐尔
	擬声	唧唧喳喳 劈里啪拉 丁零当啷

(38) ① 実質形態素 + 実質形態素

- a. 并列(並列構成): 道路 · 笔墨 · 生产 · 聪明……
- b. 偏正(修飾構成): 电灯 · 黑板 · 空袭 · 鲜红……
- c. 支配(支配構成): 司机 · 开幕 · 关心 · 破产……
- d. 补充(補充構成): 改善 · 扩大 · 进入 · 超出……
- e. 陈述(陳述構成): 地震 · 国营 · 年轻 · 心虚……
- f. 重叠(重疊構成): 妈妈 · 叔叔 · 星星 · 娃娃……

② 形式形態素 + 実質形態素

- a. 偏正(修飾構成): 已经 · 曾经 · 不管 · 不才……
- b. 准支配(準支配構成): 以前 · 以后 · 以上 · 被告……

③ 実質形態素 + 弱化形態素

a. 弱化形態素 + 実質形態素

- ア. 標志: 第一 · 第十 · 初一 · 初十……
- イ. 模糊: 斯文 · 啤酒 · 卡车 · 打搅……
- ウ. 表情: 阿哥 · 阿妹 · 老王 · 老李……
- エ. 語構成: 阿公 · 阿婆 · 阿姨……
- オ. 意味なし: 老师 · 老虎……

b. 実質形態素 + 弱化形態素

- ア. 標志: 胖子 · 苦头 · 盖儿……
- イ. 模糊: 枪支 · 书本 · 马匹……
- ウ. 語構成: 椅子 · 石头 · 哑巴 · 忽然……
- エ. 意味なし: 国家 · 忘记 · 窗户……

④ 形式形態素 + 形式形態素

- 并列(並列構成): 自从 · 倘若 · 因为……

⑤ 擬合詞(凝固語: 語の構成成分の間に直接的な意味関係がない語): 拆洗 · 剪贴 · 召集 · 而立……

以上、中国語における字音語の語構成に関する研究を考察してみたが、単純語の下位分類に「双声」「疊韻」など音韻論的な分類が行なわれたことと、朱德熙(1997)で主述構成などの下位分類として、名詞、動詞、形容詞など品詞性による分類が特徴である。音韻論的な分類は、中国語で単純語と複合語を区別する一つの重要な基準になっている。しかし、対照研究においては、それぞれの言語の音韻体系が違うので、ずれが生じることもある。例えば、「過去(과거[gwageo]/guòqù/かこ)」は韓国語と日本語では「双声」に属するが、中国語ではそうでないし、「芍薬(작약[jakyak]/sháoyao/しゃくやく)」は中国語と日本語では「疊韻」に属するが、韓国語では韻が違う。

朱德熙(1997)の品詞性による分類は、語構成と品詞性を結び付けたという点で意義があるが、すべての字音語を分類するには十分なものではないと思われる。特に、「自然」「投入」のような二つ以上の品詞性を持つ語を分類する場合はふさわしくない。Charles N. Li外(2006)の複合語の下位分類も、「名詞複合語」「動詞複合語」までは品詞性によって分類されているが、その次は「主述複合語」「動賓複合語」などようになっていて、一貫性がないように思われる。

2.2.3 日本語における先行研究

日本語における字音語の語構成に関する先行研究で、割合に詳細に分類されたと思われる研究に、ワカバヤシ マサオ(1936)、齋賀秀夫(1957)、野村雅昭(1988)、日本語教育学会編(2005)などが挙げられる。

松下大三郎(1928)⁷²⁾は、いわゆる原辞の結合関係として、対等関係・修飾関係・実質関係・補足関係・客体関係などの五種を分類し、山田孝雄(1936)⁷³⁾は、合成語の意味的關係として、主従関係・一致関係・並立関係など三種を立てている。

72) 松下大三郎(1928)『改撰標準日本文法』紀元社、p.160.

73) 山田孝雄(1936)『日本文法学概論』宝文館出版、p.610.

ワカバヤシ マサオ(1936)は、「漢字ノ 組合ワセ スナワチ 漢語ノ 組立テ ワ 非常ニ 自由デ ソノ間ニ 文法的連絡ノ アル 場合モ アルガ、時ニ ヨルト 単ニ 並ベ タ ト ユウ ニ 過ギナイ 場合モ 少ナカラズ、マコトニ 放慢デ 不節制デ アル」とし、二字字音語を次のように十二種に大別している⁷⁴⁾。

(39) 第1類 似寄りの意味の字を並べたもの

名詞: 山岳・河川・樹木・婦女・道路
動詞: 獲得・恐怖・会合・出発・使用
形容詞: 良好・尠少・微細・寒冷

第2類 反対またはかけはなれた意味の字を並べたもの

名詞: 日月・天地・田畑・苦楽・上下
動詞: 見聞・去来・売買・取捨・浮沈
形容詞: 寒暑・遅速・高低・巧拙・賢愚
代名詞: 貴我・彼此

第3類 2字並べた意味を限定し、または豊富にするもの

動詞: 飛行・突進・待避・俯瞰・焼死
形容詞: 陰惨・遠大・深遠・壮麗・貧弱

第4類 初めの字が形容詞の役目をなせるもの

1. 初めの字が名詞の場合

名詞: 石材・風力・電機・水圧・冰山
形容詞: 雪白・拳大

動詞: 牛飲・馬食・林立・山積・雲集

2. 初めの字が形容詞の場合: 好機・確証・偉観・異彩・別紙

3. 初めの字が動詞の場合: 動力・圧力・聴覚・産地・余命

第5類 副詞と合体せるもの

形容詞: 絶無・皆無・絶大・必要・既成

動詞: 精製・詳報・断行・中止・専売

第6類 動詞と他の文の要素と合体せるもの

1. 「…ヲ」と合体: 造船・製紙・航空・立志・被害・国防……

74) ワカバヤシ マサオ(1936)「漢語ノ 組立ト 云イカエ ノ 研究」齋藤倫明・石井正彦編(1997)『日本語研究資料集 第1期第13巻 語構成』ひつじ書房、pp.119-120.

2. 「…ニ」と合体: 入場・乗馬・就職・違法・内在・前進・上告……
 3. 「…デ」と合体: 毒殺・鉄製・水洗・電送……
 4. 「…カラ」と合体: 落馬・離郷・出港・下車……
 5. 「…ガ」と合体: 官製・社給・国立・人造……
- 第7類 動詞にあらずして而も返り点を付けて意味を取るもの: 所有・可能・奉獻・有名・無情・不利・未婚・非常・以上・如上……
- 第8類 接頭語と合体せるもの: 上流・中途・下端・前者・後方・先方・左側・右辺・大人・多数・小数・正本・副将・主将・助手・本人・公用・私服・単車・複数・両面・数人・諸方・総計・新年・旧年・現代・古書・他社・当社・同社・某社・各社・全線・半休・貴店・弊店……
- 第9類 接尾語と合体せるもの: 市中・市外・市内・都下・目前・事後・胸間・公式・社用・電化・敵視・年来・月末……
- 第10類 語尾に助字または添え字を伴うもの: 帽子・突如・断乎・偶然・別個・全般・端的・忘却・読破・悩殺……
- 第11類 同じ字を重ねるもの: 悠悠・万万・個個・重重・段段……
- 第12類 数字を伴うもの: 統一・劃一・一時・二重・三拝・四方・五官・六根・七宝・十分・百方・万事……

野村雅昭(1988)は、ワカバヤシ マサオ(1936)の分類について「ワカバヤシの分類の特徴は、構成要素の文法的な結合関係に、はやい時期に着目しているところにある。……この分類は、戦前・戦後を通じて、もっとも詳細なものになっている。その目的が漢字制限によるイイカエの可能性をさぐるという実用性にあつたため、現代語としての二字漢語の採集と分析に、ちからがそそがれた結果とみられる」⁷⁵⁾と、高く評価している。

斎賀秀夫(1957)は、「いわゆる二字の漢語は、現代語においては、単独の用法としても、また結合の要素としても非常に使用度の高いものであるが、現代の一般の語意識としては単純語のように取り扱われる傾向にある。しかし、漢語は、本来漢字一字が一語を表わすべきものであるから、二字の漢語は、発生的見地から見た場合、当然

75) 野村雅昭(1988)「二字漢語の構造」『日本語学』5月号、明治書院、pp.48-49.

二つの意味的要素から成り、その両要素の間にいくつかの意味的關係が存するはずである」と述べ、松下大三郎(1928)と山田孝雄(1936)の説を参考として、二字字音語を大きく六種に分けているが、まとめると(40)のようである⁷⁶⁾。

(40) ① 並立關係

a. 同義語・類義語による一義形成: 階級・学校・結果・精神・努力・經濟・
国家・人民・世界・程度・平和・理由・會議・解決・活動・教育……

b. 類義語・対義語の並列対照

ア. 比較対照: 公私・黑白・山河・前後・大小・東西・貧富・夫妻・利害……

イ. 累加列挙: 鳥獸・犬馬・風雨・算数・凶工・京阪……

② 主述關係: 地震・日没・雲集・国营・市立・事變……

③ 補足關係: 文選・水浴・足温・靈安……

④ 修飾關係

a. 後が前に所属: 海軍・家族・文学・財政・税金……

b. 前が後の動作・作用: 議會・作品・住宅・食糧・捕虜……

c. 前が後の性格・情態: 高級・古代・少年・新聞・青年・大戦・多数……

d. 前が後の範囲・量・程度: 外国・大衆・全体・直接・必要・最後・唯一……

⑤ 補助關係: 椅子・国内・個人・婦人・端的・当然・強化……

⑥ 客体關係

a. 「を」で結ばれる關係: 企業・専門・同時・犯罪・協力・結婚・成功……

b. 「に」で結ばれる關係: 帰国・就職・集中・出席・徹底・統一……

教科研東京国語部会・言語教育研究サークル著(1964)は、「漢語のうち、漢字三字以上のものは、漢字一字や二字の造語成分をくみあわせてつくられた合成語であり、その複合・派生のし方は和語や外来語のばあいとかわりない。……しかし、漢語の基本である漢字二字の漢語は、一般の合成語とちがう点がある。二字の漢語のなかには、「天地」「銅線」のように、一つ一つの成分がそのまま単語としても用いられるもの、つまり、複合語がある。しかし、一方、「事故」「宇宙」「貫録」「条件」のように、一

76) 齋賀秀夫(1957)「語構成の特質」齋藤倫明・石井正彦編(1997)『日本語研究資料集 第1期第13巻 語構成』ひつじ書房、pp.41-42.

字ずつに分解しても意味のないもの、つまり、単純語といってよいものも少なくない。二字の漢語の大部分は、その中間にあり、単純語に近い特殊な合成語である」と記述し、「二字の漢字のつくり方」を、次のように大きく五種に分類している⁷⁷⁾。

- (41) ① 一方が他方を限定するもの
- a. 名詞+名詞ににたもの: 南極・病院・校歌・国内・銅像
 - b. 形容詞成分+名詞成分ににたもの: 大陸・白人・近所・美人・名刀
 - c. 動詞成分+名詞成分ににたもの
 - ア. 読本・産地・進路・作品・造花
 - イ. 読書・登山・消火・握手・上京
- ② 対になって並んでいるもの
- a. 対立するものを並べたもの
 - ア. 名詞成分+名詞成分ににたもの: 天地・父母・上下・前後・公私
 - イ. 動詞成分+動詞成分ににたもの: 売買・往復・加減・進退・出入
 - ウ. 形容詞成分+形容詞成分ににたもの: 大小・高低・軽重・強弱・長短
 - b. にた意味の成分を並べたもの
 - ア. 名詞成分+名詞成分ににたもの: 道路・岩石・倉庫・河川・歌謡
 - イ. 動詞成分+動詞成分ににたもの: 落下・生産・行進・増加・超過
 - ウ. 形容詞成分+形容詞成分ににたもの: 奇怪・広大・清潔・正確・温暖
- ③ 同じ成分をくりかえしたもの: 喜々・淡々・堂々・満々・黙々
- ④ 「然」「乎」「如」などがついて副詞的になるもの: 整然・超然・平然・
断乎・突如
- ⑤ 前にうちけしがあるもの: 不便・無精・未知・非凡

金公七(1987)は、一字漢字は自立形式にならない場合もあるが、その複合形式は和語の場合と造語形式がほとんど同じく、完全な自立形式になるとし、二字字音語の造語形式として、次の九種を挙げている⁷⁸⁾。

77) 教科研東京国語部会・言語教育研究サークル著(1964)『語彙教育—その内容と方法—』麦書房、pp.178-180.

78) 金公七(1987)『日本語語彙論』學文社、p.144.

- (42) ① 同じ漢字を重ねたもの: 点点・堂堂
 ② 類義の漢字を重ねたもの: 言語・絵画
 ③ 反義の漢字を重ねたもの: 貧富・東西
 ④ 主述関係で重なったもの: 地震・腹痛
 ⑤ 限定修飾の関係で重なったもの: 再会・最高
 ⑥ 冠形修飾の関係で重なったもの: 生物・全国
 ⑦ 客述関係で重なったもの: 文飾
 ⑧ 述客関係で重なったもの: 作文・伝言
 ⑨ 接頭接尾の派生的なもの: 未完・公的

野村雅昭(1988)は、日本語における二字字音語の構造についての先行研究を詳細に検討した上、「研究そのものは、あまりかざがおおくはないが、三つに大別できる。第一は、二字漢語を品詞性によって類別し、それぞれについて、構成要素となる字(字音形態素)の結合パターンを記述するものである。第二は、二字漢語の複合形態を和語などの複合語と同列にあつかい、複合の意味的關係を重視するものである。第三は、構成要素の形態的な特徴を重視し、それを基準にして分類する方法である。……これらの分類は、それぞれに特徴がある。ただし、おしむらくは、現代語の二字漢語を総合的に把握し、かつ、その内部を文法的・意味的關係にも留意して分類するという点で、必要かつ十分なものは存在しない。以下に筆者が呈示するものも、十全なものではないが、先人の分類を参考としながら、多少は、その点について配慮したつもりである」と記述し、まず漢字一字で表記される、最小の意味をもった単位を「字音形態素」とよび、それを(43)のように六種に分け、つぎにこれらの形態素がどのような文法的關係で結合しているかを判定し、その結合パターンを(44)のように九種に大別している⁷⁹⁾。

(43) ① 語基

- a. 体言類語基<N>: 客・駅・気・海・姿・員……

79) 前掲論文、「二字漢語の構造」、pp.48-51.

- b. 相言類語基<A>: 急・新・獨・異・強・幼……
- c. 用言類語基<V>: 接・帰・集・欠・始・飛……
- d. 副言類語基<M>: 最・再・予・必・特・全……

② 接辞

- a. 接頭辞: 不便・非礼・未定・所見・可読・以前……
- b. 接尾辞: 法的・判然・躍如・美化・菓子・消却……

(44) [1. 補足]

- ① <N>+<A>: 胃弱・性善・民主・農繁(～期)
- ② <A>+<N>: 有害・無人・多才・少数
- ③ <N>+<V>: 地震・日没・国立/肉食・水防/前進/敵視/毒殺/山積
- ④ <V>+<N>: 降雨・積雪・落雷・来客
- ⑤ <V>+<N>: 読書・殺人・開店/登山・入会・接客/落馬・離陸

[2. 修飾(1)]

- ① <A>+<V>: 博学・静観・細分・新任・精製・近刊
- ② <V>+<V>: 競泳・代弁・歓談・焼死・喚問・議決
- ③ <M>+<V>: 必要・皆勤・予感・全壊・極秘・再発
- ④ <M>+<A>: 最高・至近・特大・極小・極悪・絶好

[3. 修飾(2)]

- ① <A>+<N>: 幼児・難題・悲劇・古代・安価・好機
- ② <V>+<N>: 祝日・支店・食器・産地・引力・視点
- ③ <N>+<N>: 山脈・牛乳・雪原・茶道・下水・前編

[4. 並列]

- ① <N>・<N>: 道路・身体・状況・海洋・倉庫・罪科
- ② <A>・<A>: 温暖・堅固・永久・善良・簡易・巨大
- ③ <V>・<V>: 増加・破壊・断絶・救援・思考・養育

[5. 対立]

- ① <N>↔<N>: 天地・左右・父母・禍福・始末・主客
- ② <A>↔<A>: 高低・遠近・繁簡・緩急・強弱・新旧
- ③ <V>↔<V>: 生死・去就・攻守・売買・往復・進退

[6. 重複]

- ① <□>=<□>: 段々・個々/黙々/近々・朗々・悠々

[7. 補助]

- ① <■>←<□>: 不明・不発/非常・非番/未完・未開
- ② <■>←<□>: 所定/可能/奉納/以上
- ③ <□>→<■>: 史的・全然・突如・悪化・帽子・読破

[8. 省略]

- ① <□>…<□>: 経済・農協・教組・高裁・国電・医大

[9. 音借]

- ① <□>…<□>: 葡萄・玻璃・瑪瑙・刹那・阿片・檀那
- ② <□>…<□>: 砂利・時計・面倒・辛抱・素敵・腕白

荒川清秀・荒川由紀子(1988)と荒川清秀・那須雅之(1992)は、野村雅昭(1988)の分類をもとにして、中国語の結合パターンと造語力について論じている。

中川正之(1992)は、主語をS、述語をV、目的語をO、修飾語をM、被修飾語をH、動作の結果を言うものをRとして、統語的な構造でできた字音語を、対等の構成要素からなる「並列語」の外に、次のように五種に分けている⁸⁰⁾。

- (45) ① SV: 地震・日没・骨折・頭痛・胃弱
- ② VS: 積雪・開花・停電・流血・脱皮
- ③ VO: 排水・読書・喫茶・殺人・脱衣
- ④ MH: 美女・城壁・怒髪・林立・着衣
- ⑤ VR: 打倒・溺死・拡大・縮小・延長

日本語教育学会編(2005)は、「漢語の基本である二字漢語の構造は、“天地”“脳死”のように“天”と“地”、“脳”と“死”から成る複合語であるという語構成意識が明らかなものもある。しかし、“事故”“宇宙”のように現在では意味的に分解不可能であり、1語基相当、すなわち単純語と考えたほうがよいものもある。大部分の二字漢語は、この中間に存在する単純語に近い合成語である」とし、二字「漢語」の構造パターンの

80) 中川正之(1992)「<中国語から見た>語構成—とくに並列語をめぐる—」『月刊言語』3月号、大修館書店、pp.28-29.

明確なものだけを(46)のように分類している(N=名詞相当、V=動詞相当、A=形容詞・形容動詞相当、AD=副詞的修飾語相当)⁸¹⁾。

(46) ① 対等

a. 並列(類義の語基を重ねる)

ア. N+N……道路・河川・身体

イ. V+V……増加・尊敬・破壊

ウ. A+A……広大・温暖・善良

b. 対立(対義の語基を重ねる)

ア. N+N……天地・父母・左右

イ. V+V……売買・往復・愛憎

ウ. A+A……強弱・大小・善悪

② 修飾・被修飾

a. 連体修飾

ア. N+N……天女・牛乳・銅像

イ. V+N……造花・進路・産地

ウ. A+N……近所・美人・悲劇

b. 連用修飾

ア. A+V……新着・近刊・静観

イ. V+V……競走・焼死・代行

ウ. AD+V……必要・特集・予知

エ. AD+A……最短・極悪・絶大

③ 補足(ガ・ヲ・ニなど格関係によって示されるもの)

ア. N+A……頭痛・民主・気鬱

イ. A+N……無害・多額・低音

ウ. N+V……日没・雷鳴/心配・草食/乗車・後退

エ. V+N……落雷・来客/読書・開店/登山・入社

④ 重複……個々・黙々・喜々・堂々

⑤ 接辞や助辞のつくもの

a. 他の語基の上につくもの……非常/不明/未知/被害/所持

81) 前掲書、『新版日本語教育事典』、pp.246-247.

- b. 他の語基の下につくもの……整然・断乎・欠如・悪化・公的
- ⑥ 省略……国際連合→国連・特別急行→特急・自宅配達→宅配
- ⑦ 音借
 - a. 和語に漢字をあてたもの……時計・素敵・物騒
 - b. 借用語に漢字をあてたもの……旦那・刹那・阿片

中沢希男(1978)は、二字「漢語」の構造的特徴として、十六種を挙げているが、次の(47)のようである⁸²⁾。

- (47) ① 相対する意味の二字を結合したもの
 ② 同義かあるいは類似した意味の二字を結合したもの
 ③ 名詞に、有・阿・子・兒などの無意味の字を添えたもの
 ④ 主要字に、殺・却・着・者・破などの無意味の助字を添えたもの
 ⑤ 主要字に、可・有・無・不・非・未・将・所・被などの字を冠したもの
 ⑥ 主要字に、然・乎・如・爾・焉などの字を加えたもの
 ⑦ 名詞に名詞を冠したもの(連体修飾語)
 ⑧ 名詞に形容詞を冠したもの(連体修飾語)
 ⑨ 動詞に動詞・形容詞・副詞などを冠したもの(連用修飾語)
 ⑩ 動詞とその目的語・補語からなるもの
 ⑪ 主語と述語からなるもの
 ⑫ 同じ字を重ねたもの
 ⑬ 双声もしくは豊韻からなるもの
 ⑭ 具体的な物の名を借りて別の意味を象徴したもの
 ⑮ 故事にもとづくもの
 ⑯ 物名

李仁淳(2007)は、中沢希男(1978)の分類に、「⑰ 梵語を音訳したもの」を加えて十七種に分けて、語例を例示しているが、中には語例のない種類(④⑥⑬⑭など四種)

82) 中沢希男(1978)『漢字・漢語概説』教育出版 <李仁淳(2007)『日韓漢語語彙交流の研究』J&Cから再引用、p.143.>

もある83)。

この外、三字字音語と四字字音語の構造についての研究には、野村雅昭(1974)、野村雅昭(1975)などがあるが、これらは本稿の研究の対象から除外しているため、ここでは詳しく述べないことにする。

日本語における字音語の語構成に関する研究では、「事故」「宇宙」などの語を単純語の範疇に入れようとする傾向があることと、「ガ」「ヲ」「ニ」「カラ」など格関係によって字音語の分析を行なっていることが特徴である。格関係による分析は、ある程度の字音語の語構成を究明するには大変有用な方法である。しかし、この方法で分析可能のようにみえる語が、ある場合は分析できないときもある。例えば、(44)に例示した「山積」「積雪」のような語は、格関係によって分析することは適切でないと思う。というのは、「山積」は「山に積る」ではなく、「山のように積る」の意味であり、「積雪」は「雪が積る」ではなく、「積った雪」の意味を表しているからである。

もう一つの問題としては、大部分の研究で形態的な構成と統語的な構成をはっきりと区別していないことである。字音語の特質の一つとして、字音語の複合語は、語構成要素間の関係が統語論における語同士の関係と同じ統語構造を有するということがある。従って、形態的な構成と統語的な構成をはっきりとすることは、その語が複合語であるか否かを確定するもっとも重要な根拠になるだろう。

83) 李仁淳(2007)『日韓漢語語彙交流の研究』J&C、pp.143-145.

第3章 字音語の語構成による分類

語は、どのような要素から構成されるかによって、単純語・複合語・派生語に分けられる。字音語も、普通はこの三種に大別することができるが、本稿では、字音語の語構成上の特質から、形態的な構成による字音語と統語的な構成による字音語に分けて考察することにする。

3.1 形態的な構成による二字字音語

形態的な構成による二字字音語は、一般的に単純語と派生語に分類され、派生語はさらに接頭辞による派生語と接尾辞による派生語に分けることができるが、先行研究でははっきりした弁別基準がないため、論者によってその範囲の設定が少しずつ異なる。特に接辞の設定において大きな差異を見せている。そこで、ここではまず単純語の弁別基準と接辞の弁別基準について考え、次にそれぞれの弁別基準に基づいて分類を行なうことにする。また、本稿では助字による語も形態的な構成による二字字音語の範疇に入れて述べることにする。

3.1.1 単純語の弁別基準と分析

単純語とは、「共時的に、それ以上分解することのできない語」⁸⁴⁾である。これを形態素という用語を使って定義すれば、「一つの実質的な意味を持つ形態素からできている語である」と定義することができる。

上の単純語の定義から、単純語の弁別基準を二つにまとめることができると考えられる。一つは、その語は一つの形態素からできているか、それとも二つ以上の形態素

84) 松村明編(1971)『日本文法大辞典』明治書院、p.470.

からできているかのことである。二つ以上の形態素からできている語は、単純語ではなく、派生語か複合語のどちらかに属する語である。もう一つは、その形態素は実質的な意味を持つ形態素であるか、それとも形式的な意味を持つ形態素であるかのことである。形式的な意味を持つ形態素であれば、語にはなれなく、接辞か助詞(日本語の場合は、助動詞も含められる)になるわけである。

この二つの単純語の弁別基準をもとにして、既存の研究で単純語として取り上げられた二字字音語を検討してみることにしよう。先行研究で単純語に分類された二字字音語には、次のようなものがある。

- (48) ① 双声語: 躊躇・仿佛(髣髴)・猶予・鄭重・澎湃……
- ② 疊韻語: 燦爛・從容・駱駝・徘徊……
- ③ 双声・疊韻でないもの: 蝴蝶・玫瑰・珊瑚……
- ④ 音訳語: 玻璃・刹那・葡萄・三昧……
- ⑤ 擬声語: 刺溜・咕咚・轰隆・哗啦・扑通……
- ⑥ 疊語: 紛紛・默默・堂堂・滔滔・悠悠……
- ⑦ その他: 工夫・矛盾・事故・歲月・条件・文明・宇宙……

[(48)-①]は、いわゆる上下二字の「声」が同じ語の「双声語」であり、[(48)-②]は、上下二字の「韻」が同じ語の「疊韻語」である。また、[(48)-③]は「双声語」「疊韻語」ではないが、やはりこの類に属する語である。これらは音韻論的に分類したもので、中国語の音韻体系においては、このように分類可能であるが、韓国語と日本語の音韻体系では、当てはまらないものが少なくない。例えば、「澎湃(滂湃 [paengbae]/péngpài/ほうはい)」は中国語と日本語では「双声」に属するが、韓国語ではそうでないし、「徘徊(徘徊 [baehoe]/páihuái/はいかい)」は中国語と日本語では同じ「疊韻」であるが、韓国語では「疊韻」ではない。

漢字は形・音・義を備えた表意文字であるということについては前述したことがある。意味を有する最小の言語単位を形態素とえば、表意文字である漢字は、その一

字一字が原則として一つの形態素になるわけである。しかし、漢字には他の特定の漢字と結合してはじめて意味を持つものが少なくない。例えば、「躊」「躇」「彷徨」「徘徊」のような漢字がこれに属する。これらの漢字は、「躊躇」「彷徨」と、二字を結合して一つの意味を表し、つまり、一つの形態素になり、その他の漢字と結合する場がほとんどない。従って、「躊躇」のような語は、二つの漢字の間に、何の意味的な関係もなく、ただ二字字音語を造語するために結合した形態的な構成の単純語と認められる。このような単純語には、「躊躇」「彷徨」の外に「澎湃」「駱駝」「徘徊」「蝴蝶」「珊瑚」など、「双声語」「疊韻語」のほとんどがこれに属する。

[(48)-①]の「猶豫」「鄭重」、[(48)-②]の「燦爛」「從容」などの語は、その語を構成しているそれぞれの漢字が、みな実質的な意味を持って語構成に参与し、これらの語の外にも「猶疑」「尊重」「燦然」「從然」などのような例もあり、単純語と判定しにくい。

[(48)-④]は音訳語であるが、これらはただ外来語を表記するために、組み立てられたもので、「三昧」のように本来ある漢字の中から、漢字の音だけを借りて表記する場合もあり、「葡萄」のように別に漢字を造って表記する場合もある。従って、すべての音訳語は漢字と漢字の間に何の意味的な関係もないから、形態的な構成の単純語と判断される。

[(48)-⑤]は擬声語の類であるが、これらは中国語で音や声をまねて表すために造られた中国語の固有語であり、中国語では単純語と認められる語である。

[(48)-⑥]の疊語は、同一語基を重ねてできた語であるが、これらの疊語が表す意味と、もとの漢字の意味はほとんど一致している⁸⁵⁾ので、単純語とは言えず、並列関係の複合語の一種だと考えられる。

[(48)-⑦]は、特に韓国語と日本語の多くの論著では、現代語の表す意味からは分解不可能な語だと認定され、単純語の範疇に入れようとする傾向があるが、本稿では、これらの語も他の複合語と同じく分解可能な語だと考え、複合語として取り扱う

85) 北京大学中文系編(2007)は、中国語の「饅饅」「姥姥」「奶奶」「太太」のような疊語は、外の疊語とは性質が違い、単純語であると主張している。具体的には<前掲書、北京大学中文系編『現代汉语』、p.204.>を参照。

ことにする。

3.1.2 字音語系接頭辞の弁別基準と分析

3.1.2.1 字音語系接頭辞についての先行研究と問題点

字音語系接頭辞と言え、よく「阿-・第-・初-・老-・小-・非-・無-・不-・反-・未-・洋-…」などが取り上げられているが、中には純粋な接頭辞と認められるものもあれば、そうでない形態素も少なくない。それを弁別するために、まず接頭辞⁸⁶⁾についての韓・中・日三国語の辞典的定義を調べてみたが、次のようである。

- (49) ① 接頭辞(接頭語): 어떤 단어의 앞에 붙어 뜻을 첨가하여 하나의 다른 단어를 이루는 말(ある単語の前について意味を添加し、別の単語を造る語). (『옛센스 國語辭典』 87)
- ② 前缀(词头): 加在词根前面的构词成分(語基の前につく造語成分)。(『现代汉语词典』 88)
- ③ 接頭語(接頭辞): [文法で]造語成分の一種。複合語の前の方の要素のうち、それ自体は単語として独立することの無いもの。(『新明解国語辞典』 89)

もちろん、辞典によって、あるいは筆者によってその定義は少しずつ違いはあるけれど、(49)を分析してみると、定義が非常に模糊としていることが分かる。[(49)-①]は韓国語の固有語に、[(49)-③]は日本語の和語には当てはまる定義であるかもしれないが、それにしても問題がないわけではない。韓国語の固有語の接頭辞は自立で

86) この用語は韓国語と日本語では普通「接頭辞」または「接頭語」という用語で使用され、中国語では「前缀」または「词头」という用語で使用されている。本稿では、便宜上「接頭辞」という用語を使用することにする。

87) 前掲書、『옛센스 國語辭典』、p.2027.

88) 前掲書、『现代汉语词典』、p.1089.

89) 前掲書、『新明解国語辞典』、p.821.

きる語基以外の結合形式の前につくことはまずないと思われるが⁹⁰⁾、「意味を添加(뜻을 첨가)」するということは、一体実質的な意味を添加するか、形式的な意味を添加するかがはっきりしていない。また、日本語の語基というのは、語の基幹をなす形態素で、単独で語を形成し得る自立形式と、自立せず他と結合して語を形成する結合形式との二種がある⁹¹⁾。例えば、「高波」の「波(なみ)」は自立形式で、「高(たか)」は結合形式である。つまり、両方とも語基の一種である。しかし、[(49)-③]の条件に照らしてみると、「高(たか)」は「造語成分の一種」であり、「複合語の前の方の要素」であり、「それ自体は単語として独立することの無いもの」である。つまり、接頭辞になるわけである。[(49)-②]も同じく、「词根(=語基)」の前につく「构词成分(=造語成分)」は、接頭辞だけではない。語基もつくことができる。上に例示した「高波」は「語基+語基」の形でできた複合語である。

このような問題点は、韓国語の固有語と日本語の和語にだけ存在するものではない。特に字音語の語構成に対する研究において、未だに接辞を弁別する基準も明確でなく、人によって接辞の範囲を決めるのも少しずつ異なっている。そのため、「準接辞」とか「接辞性漢字語」とか「接頭漢字語」とかなどというような曖昧な用語も出てくる。

ここでは、既存の研究で字音語系接頭辞として論じてきた形態素の中で、比較的代表的だと考えられる「阿-・老-・小-・第-・初-・非-・無-・不-・未-」などについて検討してみることにする。

字音語系接頭辞についての先行研究は、前でも少し触れているが、もう少し詳しく検討してみると、次のようである。

洪思満(2002)は、接辞というのは、語基について融合または活用の変化を通じて、品詞性、文法性を加えたり、感情的な意味内容を添加させたり、時には論理的な概念

90) 接頭辞が結合形式の前につくことについて、金敏洙(1998)は「일간(eolgan)」「헛것(heotgeot)」などを、成者徹(1975)(李爽周[1990]を再引用)は「헛탕(heottang)」「똥내기(putnaegi)」などを挙げ、これらの構造は「接頭辞+接尾辞」の構造だと主張し、Jeong Donghwan(1993)はこれらを「接頭辞+名詞」の構造だと見なしている。

91) 森岡健二(1986)「接辞と助辞」『日本語学』3月号、明治書院、p.11.

内容を分化させたりする結合形式であるとし、接頭辞は接尾辞とは違い、語基に意味を添加する機能を有するだけで、語基の文法的な変化を起こさないのが特徴であると述べ、日本語には一字漢字でできた派生接頭辞がおおよそ250個にも達すると記述している⁹²⁾。

盧明姫(2005)は、既存の論議を検討した上、「漢字語」の中で、まず「冠形詞」と「非冠形詞」の弁別基準を適用して「非冠形詞」を抽出した後、次に接頭辞と語根⁹³⁾の弁別基準を適用して接頭辞か否かを判定している。(50)は「冠形詞」と「非冠形詞」の弁別基準で、(51)は接頭辞と語根の弁別基準である。

- (50) ① 形態的分離性
② 分布上の制約
③ 修飾範囲の限定
④ 代置の不可能性

- (51) ① 意味の変化
② 生産性
③ 固有語との結合の可能性
④ 対応する固有語の接辞性
⑤ 語基の範疇の変化

その結果、「接頭漢字語」中、「生-・王-・洋-・親-・外-・媳-・超-・汎-・最-・準-」などを接頭辞と判定し、「高-・低-・急-・無-・對-・脫-・未-・沒-・不-・駐-・在-・猛-・再-・抗-・被-・假-・乾-・木-」などは接辞性の強い語根と判定している⁹⁴⁾。

辛基相(2005)は「接辞を認定すれば自立語の前につく次のようなものが接頭辞性漢

92) 洪思滿(2002)『韓・日語 對照分析』亦樂、pp.74-75.

93) 盧明姫(2005)の「語根」という概念は、李翊燮(1975)の定義に従ったもので、森岡健二(1986)の語基の一種の「結合形式」と同じ概念である。

94) 盧明姫(2005)『現代國語 漢字語 研究』國語學會、pp.75-96.

字語である」とし、「高-・大-・無-・未-・非-・新-・再-・超-・總-・最-・假-・強-・乾-・輕-・古-・空-・過-・貴-・極-・急-・難-・内-・冷-・老-・淡-・堂-・對-・都-・獨-・每-・猛-・名-・沒-・半-・反-・別-・本-・不-・副-・生-・小-・純-・媿-・洋-・逆-・低-・前-・準-・初-・好-」など、50個の形態素を挙げている⁹⁵⁾。

Jo Seonghwa(2006)は、『標準國語大辭典』(1999)に載っている81個の「漢字語接頭辞」の意味と用例について考察し、「漢字語接頭辞」を意味機能の面から二十二種に分類している⁹⁶⁾。

Bak Jeongeun(2007)は、韓国語の漢字語の接頭辞と固有語の接頭辞との差異点を[表6]のように列挙し、

[表6] 漢字語の接頭辞と固有語の接頭辞との差異点

漢字語の接頭辞	固有語の接頭辞
後の語基の統辞範疇を変化させる	後の語基の統辞範疇を変化させることができない
具体的な意味を持つ	抽象的な意味を持つ
異形態が存在しない	異形態が存在する
語形の変化が存在しない	語形の変化が存在する

「その差異点が漢字語の接頭辞が接辞の範疇に入れない要素として作用しない」と主張している⁹⁷⁾。これは、接頭辞の弁別基準からあまり離れた主張だと思われる。

「後の語基の統辞範疇を変化させることができない」ことと、「抽象的な意味を持つ」ことは、「漢字語の接頭辞」でも例外はない。

朱德熙(1997)は中国語の接頭辞は「初-・第-・老-」など三個しかないとし、この三個にもみな具体的な語彙的意味が残っていると述べている⁹⁸⁾。

95) 前掲書、『現代國語 漢字語』、pp.151-152.

96) Jo Seonghwa(2006)『韓・日 兩言語의 漢字語 接頭辞 對照 研究』漢陽大學校 教育大學院 碩士學位論文、pp.5-26.

97) Bak Jeongeun(2007)『外國語로서의 韓國語 接頭派生語 研究』慶熙大學校 大學院 碩士學位論文、pp.16-18.

Charles N. Li外(2006)は「インドヨーロッパ語に比べて、中国語には接辞が非常に少ない方である。中国語に接辞が非常に少ないということは、中国語が孤立語だという類型論的な特性を説明する」とし、「老-・小-・第-・初-・可-・好-・難-」などの形態素を接頭辞として挙げている99)。

符淮青(2007)は合成語を構成する形態素を大きく3種(実义语素・虚义语素・弱化语素)に分類し、「弱化语素(意味が弱化した形態素)」の中に「第-・初-・阿-・老-」などを包含させている。「これ以上"語根"、"接辞"という概念を使わず、"複合"、"派生"という区分を応用しない」のが特徴であろう100)。

森岡健二(1986)は、意味を添えて接辞的な働きをしていながら、語基としての機能ももっている形態素を「準接辞」と称し、前につく形態素として「亜-・仮-・稀-・旧-・次-・小-・正-・重-・新-・全-・大-・超-・半-・反-・非-・被-・不-・複-・未-・無-・有-」などを挙げ、「準接辞はあくまでも語基であり、合成語の要素である語基の一方が形式的な意味を添えるようになったために生じる現象である」と述べている101)。

秋元美晴(2004)は、日本語の接頭辞は意味を添加させるだけで品詞を転換させない。ただし、「漢語性接頭辞」の中でも、否定の意味を表す「無」「不」「未」などや「大」「有」などは、品詞を転換させる場合もあるとし、字音語系接頭辞として「無・不・未・反・超・対・被・大・有・新」などの例を挙げている。また、ここで問題になるのは、「新」「大」などの一字漢字を接頭辞とするか、語基とするかということである。これらの一字漢語は、実質的語彙的な意味を表しているので、語基ととれる。しかし単独では使うことができない形式であり、語基と接辞の中間的な存在であるが、ここでは接辞とすると述べている102)。

日本語教育学会編(2005)は、接頭辞とは、単独で語を構成することができず、つね

98) 前掲書、『現代 中国語 語法論』、pp.57-58.

99) 前掲書、『標準中国語文法』、pp.57-60.

100) 前掲書、『現代汉语词汇』、pp.69-70.

101) 前掲論文、「接辞と助辞」、p.16.

102) 前掲書、『よくわかる語彙』、pp.92-93.

に語基の前について語を構成する結合形式をいう。接頭辞は語基に意味を添加するだけで、語基の品詞性を変えるはたらきをもたない。ただし、否定の「漢語系接頭辞」である「無」「不」「未」「非」が、「理解→無理解」「景気→不景気」となるように、語基である名詞にこれらの接頭辞がついてできた派生語に、いわゆる形容動詞の語幹にあたる品詞性を与えるものなどがある。「漢語系接頭辞」は、二字「漢語」の構成要素となるだけでなく、「未成熟」「反体制」のような「漢語」だけでなく、「不払い」「抗アレルギー」のように和語や外来語とも結合する。「漢語系接頭辞」は、その種類も多く、生産力も高いとし、字音語系の代表的な接頭辞として、「抗-・御(ご)-・再-・新-・全-・大-・第-・超-・反-・非-・被-・不-・副-・無-(ブ・ム)・未-」などの例を挙げている¹⁰³⁾。

その他、An Sojin(2004)では「乾-・空-・生-・媿-・養-・洋-・王-・外-・義父-・青-・親-」を、Maeng Jueok(1992)では「老-・阿-・第-・初-・可-」などを、史锡尧・杨庆蕙主编(1998)では「老-・第-・初-・阿-」などを、劉月華外(2000)では「阿-・老-・第-・初-・小-」などを、Choe Gilwon主编(2000)では「老-・阿-・第-・初-・小-・可-・非-・反-」などを、郭振华(2002)では「初-・老-・第-・小-」などを、北京大学中文系編(2007)では「第-・老-・阿-」などの形態素を、接頭辞として挙げている。また、野村雅昭(1988)では「不-・非-・未-・所-・可-・以-…」などを、庵功雄外(2001)では「非-・不-・未-・無-・反-・諸-・大-・再-・当-・本-」を接頭辞として挙げている。

上の先行研究から分かるように、三国語での論議の対象に同じ形態素より、違う形態素がもっと多い。中国語では主に「阿-・老-・小-・第-・初-」などの形態素が挙げられるに対し、韓国語と日本語ではいわゆる否定の意味を表す「非-・無-・不-・未-・反-」などの形態素を主として挙げている。

以下、先行研究で論議の対象となっていた形態素の中で、割合に代表的だと考えられる「阿-・老-・小-・第-・初-・非-・無-・不-・未-」などについて検討してみ

103) 前掲書、『新版日本語教育事典』、p.244.

ることとする。

3.1.2.2 字音語系接頭辞の弁別基準

漢字は表意文字であり、一字一字が何らかの意味を持っている。だから、字音語の中で、それが接頭辞であるか否かを弁別する際に、最も重要な基準になるのは、意味の形式化である。意味が形式化されたということは、接頭辞と語基との間には語彙的な意味関係は存在しないということである。接頭辞はただ語基に形式的な意味を添加するだけである。例えば、「老師」は中国語では「教師」の意味を表し、「老-」は尊敬の意味を添加するだけであるが、韓国語と日本語では「年をとった先生(坊さん)」の意味で、「老」と「師」の間には明らかに修飾関係が存在する。従って、この場合において「老-」は中国語では接頭辞と認められるが、韓国語と日本語では認められない。

また、意味が形式化する過程で自立性も失う可能性がある。上の例で「老」はもとも中国語で「年をとっている」という意味の形容詞(自立形式)であるが、「尊敬」の意味を添加する接頭辞(結合形式)としても使われるようになり、自立形式と結合形式の両方の用法を持つようになっていく。このような例から、自立形式か結合形式かということも弁別基準になれると考えられる。しかし結合形式といって、すべてを接頭辞と認めることはできない。語基として用いられる結合形式もあるからである。特に字音語には「結合形式+結合形式」「結合形式+接辞」の構造の合成語が少なくない。例えば、「月食」「椅子」などがそんな構造であるが、もし「月」「食」「椅」を結合形式ということで接辞と認めれば、多くの字音語は「接辞+接辞」の構造になってしまう。

接頭辞を弁別するもう一つの重要な基準として、それが後の語基の文法的範疇を変えるかどうかのことである。秋元美晴(2004)、日本語教育学会編(2005)、Bak Jeongeun(2007)などは、韓国語の固有語と日本語の和語の接頭辞は、語基に意味を

添加するだけで、語基の文法的範疇を変えないが、字音語系接頭辞「無」「不」「未」などは語基の文法的範疇を変えている。このような主張は、韓国語の固有語と日本語の和語の接頭辞は狭義のいわゆる純粋な接頭辞としてとらえようとするのに対し、字音語系接頭辞は広義の接頭辞としてとらえようとする考え方だと思われる。というのは、韓国語と日本語で字音語系接頭辞として挙げた形態素は、ほとんど「実質的な意味を持つ」ことを前提としているからである。本稿では、字音語系接頭辞も語基の文法的範疇を変えないと考える。

以上の論議をもとにして、字音語系接頭辞の弁別基準を(52)のようにまとめることができる。

(52) 字音語系接頭辞の弁別基準

- ① 意味の形式化
- ② 自立性の有無
- ③ 語基の文法的範疇の変化
- ④ 語基につく位置

3.1.2.3 「阿-」「老-」「小-」「第-」「初-」に対する分析

「阿-」は中国語で「ā」「ē」と二つの読み方があるが(助詞で使われる時は「a」と読むが、この場合は普通「啊」と書く)、「ā」と読む場合は、次のような用法で用いられる。

- (53) ① 単音節の名や姓、兄弟順などの前につき、親しみを表す。

阿大・阿宝・阿唐・阿Q

- ② 単音節の親族名称の前につき、親しみを表す。

阿哥・阿爹・阿公・阿姨

- ③ 音訳用字として用いられる。

阿片[opium]・阿尔卑斯山[Alps]・阿拉伯[Arab]・阿门[āmēn]

[(53)-①②]の「阿大」は「長子」、「阿哥」は「あに」の意味であり、「阿-」は名詞性の語基の前について「親しみ」の意味を添加するだけで、語基の品詞性を変える機能はしない。この場合の「阿-」は接頭辞と認められる。韓国語と日本語の「阿翁」「阿兄」などの「阿-」も、これと同じ用法だと言える。また、「阿-」が名前につく場合は、日本語の女性の名前につけて「親しみ」の意味を添加する接頭辞「お」と同じ用法だと思われる。[(53)-③]は中国語で音訳用字として用いられる例であるが、これらの語を構成する一つ一つの漢字は何の意味も持てず、合わせて一つの意味を表すので、単純語の範疇に入れて説明するのがもっとふさわしい。

- (54) ① 阿附・阿諛
② 阿膠

(54)は「阿(e)」と読む例であるが、[(54)-①]は二つとも「こびへつらう」という意味で、類義の動詞を重ねた並列関係の複合語であり、[(54)-②]の「阿(e)」は「中国の山東省東阿県」の略称で、「阿膠」は「山東省東阿県から産出した膠」という意味の連体修飾関係の複合語である。

「老」は中国語で名詞、動詞、形容詞、副詞、接頭辞など、いろいろな用法で用いられているが、その中で接頭辞としての用法だけ例を挙げると次のようである。

- (55) ① 老王・老李・老金・*老諸葛
② *老一・老二・老三・老十
③ 老虎・老鼠・老鷹・老玉米

[(55)-①]は姓の前についた例であるが、一音節の姓の前には自由につけるのに、二音節の姓にはなかなかつかない。この場合は「親しみ」と「尊敬」の意味を添加する。[(55)-②]は「老-」が数字の前について兄弟順を表しているが、「長男/長女」をいう時は「老一」ではなく「老大」という。[(55)-③]は「老-」がいくつかの動

物、植物の名の前について使われる例であるが、この場合「老-」は何の意味も添加せず、ただ二音節の語または三音節の語を構成する機能をするだけである。中国語で(55)のような用法で用いられた「老-」は接頭辞と認められる。

[(55)-①]の「老王」「老李」「老金」のように、姓の前につく「老-」と同じ用法で使われる形態素として「小-」があるが、「老王」と「小王」は相手によって使い分ける。一般的に「老王」は目上の人に、「小王」は同輩あるいは後輩に使う。このことは、「老-」と「小-」にまだ実質的な意味が残っているように思われる。しかし、どんな人にも「老-」と「小-」をつけることはできず、親しい関係にある人にだけ使えるし、「年取る」「若い」という実質的な意味より、「親しみ」「尊敬」という形式的な意味がもっと強く働いているので、接頭辞と認めることができると考えられる。

次は、「第-」について考えてみよう。『大辞林』¹⁰⁴⁾では「第」について次のように記述している。

(56) ① [接頭]数を示す語について、物事の順序を表す。

第一日・第二番目・第五回

② 順序。

次第

③ やしき。

第宅・邸第・聚楽第

④ [古代中国の官吏登用試験の合格者掲示板の意から]試験。

科第・及第・落第

「第」は(56)のように「順序」「やしき」「試験」などの意味を持っているが、[(56)-③④]の「やしき」「試験」の意味を表す語は、現代語ではほとんど使わなくなってしまう、造語力も非常に弱い。[(56)-②]の「順序」を表す例として「次第」があるが、これも日本語で割合によく使われるだけで、韓国語にはない語であり、中

104) 前掲書、『大辞林』、pp.1430-1.

国語でも使用率が非常に低い語である。「第」は[(56)-①]のように、現代語では一般的に数詞の前にくる結合形式として使われ、物事の順序を表す序数詞を造語する機能しかしない。この用法で使われる「第-」は造語力も強く、語基の数詞との語彙的な意味関係もなく、接頭辞と認められる。

「初-」は、「はじめ」「はじめて」「もと」「一番目の」などの意味を持つ形態素である。

(57) ① 初期・初旬・初級・初春

② 最初・年初・当初

③ 初対面・初感染・初一念

④ 初一・初二……初十

[(57)-①]の「初期」は「初めの時期」、「初旬」は「月のはじめの十日間」の意を、[(57)-②]の「最初」は「一番早い時期」、「年初」は「年のはじめ」の意を、[(57)-③]の「初対面」は「はじめて会うこと」の意を表す。いずれも「はじめ」という実質的な意味で使われていることが分かる。[(57)-④]は中国語で「初-」が「一」から「十」までの数字について、陰暦の初旬の日を表す用法である。「初一」は「十一」「二十一」と区別して、「はじめての一」という意味を表し、「初十」は「二十」「三十」と区別して、「はじめての十」という意味を表す。やはり実質的な意味で使われた用法である。また、「初一」「初二」「初三」は中国語で中学校の「一学年」「二学年」「三学年」の意味にも使われる。中学校を中国語で「初級中学校」の略語で「初中」と言うことから、「初一」「初二」「初三」の「初-」は「初級」の意味だと思われる。

「初」と結合する語基との語構成を分析してみると、[(57)-③]の「初対面」と「初感染」は「副詞+動詞(性名詞)」構造の連用修飾関係の複合語であり、以外は全部連体修飾関係の複合語である。

「初」は語基の前につく時と後につく時とで、同じ実質的な意味で使われ、接頭辞

としての機能はほとんどないといえる。

3.1.2.4 「非-」「無-」「不-」「未-」に対する分析

韓国語と日本語で字音語系接頭辞として、よく論議の対象になっている形態素に、否定の意味を表す「非-」「無-」「不-」「未-」などがある。これらは、語基の品詞性を変化させる機能を持つ接頭辞と言われ、このような機能は、韓国語の固有語と日本語の和語の接頭辞にはない字音語系接頭辞の特有の機能であると言われている。それでは、この四つの形態素を、(52)に基づいて考察してみよう。

まず、「非」に対する三国語の辞典での記述を調べてみると、次のようである。

(58) 「非」

① 『옛센스 國語辭典』 105)

- a. [名] 잘못되거나 그른 것(あやまり). ↔시(是)
- b. [接頭] 어떤 말의 머리에 붙어서 부정의 뜻을 나타내는 말(ある語の前について否定の意味を表す語).

② 『现代汉语词典』 106)

- a. 错误(跟"是"相对)(あやまり、"是"と対立する)。
- b. 不合于(…に合致しない)。
- c. 不以为然; 反对; 责备(そうとは思わない、反対する、責める)。
- d. [动(動詞)] 不是(…でない)。
- e. [前缀(接頭辞)] 用在一些名词性成分的前面, 表示不属于某种范围(一部の名詞性成分の前について、ある範囲に属しないことを表す)。
- f. [副] 跟"不"呼应, 表示必须("不"と呼应して、「必ず…しなければならない」という意味を表す)。
- g. [副] 一定要; 偏偏(必ず、どうしても)。
- h. <书(文語)> 不好; 糟(よくない、まずい)。

105) 前掲書、『옛센스 國語辭典』、p.1095.

106) 前掲書、『现代汉语词典』、p.393.

③ 『新明解国語辞典』107)

- a. 道理(道徳)に合っていないこと。
- b. 状況や条件が悪いこと。不利。
- c. あやまり。欠点。
- d. [造語成分] …でない。…しない。[後に続く語の意味を否定する]

(58)をざっと見ると、「非」が自立的に使われる用法として、韓国語と日本語では名詞の用法しかないのに対し、中国語では主に動詞と副詞の用法で使われることが分かる。このようなずれが生じる原因は、三国語の語構造の違いにあると思われる。中国語では漢字一字で名詞にもなり、動詞、形容詞、副詞にもなる。が、韓国語と日本語には一字漢字(字音で読む語に限る)の名詞はあるけれど、動詞、形容詞、副詞¹⁰⁸⁾はない。このため、「非」のような一字漢字は韓国語と日本語に入って、単独では動詞、形容詞、副詞の機能を持たず、名詞に定着したであろう。しかし、造語成分になる場合は違う。漢字は普通他の漢字と結合して造語するのが一般的であるが、この場合は、韓国語の固有語と日本語の和語の語構造の制約を受けない。意味の変化が生じないかぎり、完全に自分のもとの機能を発揮する。つまり、もとの品詞性を持って造語に参加するということである。

- (59) ① 非金属・非売品
② 非礼・非常識・非凡
③ 非公開・非武装
④ 是非・理非・前非

[(59)-①]は「非」が名詞性の語基についた例であるが、「非金属」は「金属でないもの」、「非売品」は「売らない品物」の意を表す。[(59)-②]は名詞性、形容詞性の語基についた例で、「非礼」は「礼儀に合わない様子だ」、「非凡」は「平凡で

107) 前掲書、『新明解国語辞典』、p.1233. p.1235.

108) 韓国語で、「단(但)」は接続副詞で、「영(永)」「혹(或)」は副詞「영영(永永)」「혹시(或是)」の略語形で使われるなど、例外はある。

ない様子だ」の意を表す。この場合は、もとの語基が名詞性、形容詞性にかかわらず、新たに形成された語の品詞性は形容詞性になる。[(59)-③]の「公開」「武装」は動詞性の語基で、「非公開」は「公開(を)しない」、「非武装」は「武装(を)しない」の意を表す。[(59)-①②③]の「非」は全部語基の前につく例であるが、この場合「非」は、「…でない」「…しない」の意味で後につく語基を否定する機能をするから、動詞性の語基だと考えられる。語構成上からみると、これらは「動詞(非)+目的語」構造の複合語である。

[(59)-④]は「非」が語基の後につく例であるが、それぞれ「是非」は「正と不正」、「理非」は「正しいことと正しくないこと」、「前非」は「過去に犯した罪」の意を表し、「是非」と「理非」は「名詞+名詞」構造の対立関係の複合語で、「前非」は「名詞+名詞」構造の連体修飾関係の複合語である。

「無」に対する三国語の辞典的記述は、次のようである。

(60) 「無」

① 『옛센스 國語辭典』 109)

- a. [名·하形] 없음. 존재하지 않음(ない、存在しない). ↔유(有)
- b. [接頭] "없음"의 뜻("ない"という意味).

② 『现代汉语词典』 110)

- a. [动(動詞)] 没有(跟"有"相对)(ない、"有"と対立する)。
- b. 不(…でない)。
- c. [连(接続詞)] 不论(…であろうとあるまいと)。
- d. (略)

③ 『新明解国語辞典』 111)

<ふ>

- a. [造語成分] ない。
- b. [造語成分] [特定の語に冠して]人とのつきあい上、有ってほしいものが欠け

109) 前掲書、『옛센스 國語辭典』、p.827.

110) 前掲書、『现代汉语词典』、p.1436.

111) 前掲書、『新明解国語辞典』、p.1281. p.1442. p.1443.

ていることを表す。

<む>

c. 何も無いこと。↔有

d. むだ。

e. [造語成分] 問題とする物事が欠けていることを表す。

「無」は(60)で分かるように、「有」と対立関係の形態素であり、中国語では主に動詞の用法で使われている。言語類型論の観点からみれば、中国語は孤立語で、基本的な語順はSVO型である。言い換えれば、動詞は目的語と補語の前に来るのが一般的な順序である。字音語の語構成においても、このような特徴が反映されている。例えば、「読書」は「本を読む」ことで、「動詞(読)+目的語(書)」の構造でできている。「無」も動詞の用法で使われる場合は、「読」と同じ機能をすると思われる。

- (61) ① 無音・無事・無頼・無礼
② 無愛想・無遠慮・無作法・無趣味
③ 無情・無数・無線・無尽
④ 無資格・無事故・無抵抗・無能力

[(61)-①②]は「ぶ」、[(61)-③④]は「む」と読む例であるが、「無音」は「たよりがない」、「無愛想」は「愛想がない」、「無情」は「思いやりがない」、「無資格」は「資格がない」の意味で、いずれも同じ実質的な意味で用いられている。水野義道(1987)は「無」の機能について、次のように記述している¹¹²⁾。

- (62) 「無」は、体言類の語基、及び用言類の語基で体言類の特徴をも持つものと結合する。どちらの場合も、語基の表すものやことがないという意味を添加するが、結合形の文法的性格は「無気力」「無関係」のように相言類となるものと「無事故」「無試験」のように体言類となるものがある。

112) 水野義道(1987)「漢語系接辞の機能」『日本語学』2月号、明治書院、p.65.

語構成上からみると、(61)は派生語ではなく、「動詞(無)+目的語」の構造でできた複合語だといえる。

「不」は、「…しない」「…でない」などの意味を表す形態素であるが、他の語基と結合する場合、その語基の前につくのが一般的であり、造語力もとても強い。そのゆえ、韓国語と日本語の多くの論著では、「不」を接頭辞の範疇に入れて論じているらしい。

「不」は中国語では主に副詞の用法で用いられる語であり、たまには名詞性の語基にもつける。副詞というのは動詞と形容詞を修飾する連用修飾語の機能を果たす語であるが、修飾語が被修飾語の前に来るのは三国語で同じである。[(63)-①]は前掲の三国語の辞典¹¹³⁾で抜き出した、三国語に共通する例であり、[(63)-②]は二字字音語に「不」がついた例である。

- (63) ① 不安・不便・不測・不逞・不当・不等・不定・不断・不服・不和・不惑・不羈・不可・不快・不良・不満・不敏・不平・不屈・不善・不適・不詳・不孝・不肖・不幸・不休・不朽・不遜・不要・不意・不用・不在・不振・不正・不治・不足
② 不安心・不合理・不経済・不景気・不必要・不愉快

(63)の例の「不」と結合する語基は全部動詞性、形容詞性の語基であり、「不安」は「安定しない」、「不便」は「便利でない」などの意味を表す。この場合、「不」と結合する語基との関係は、「副詞+動詞性/形容詞性の語基」の修飾と被修飾の関係である。つまり、(63)の例はみな連用修飾関係の複合語になるわけである。ただし、中国語では[(63)-②]の例は語ではなく、「副詞+動詞/形容詞」の連用修飾関係の動詞句または形容詞句の機能をする。

(64)は「不」が名詞性の語基についた例である。

113) 『외산의 國語辭典』、『現代汉语词典』、『新明解國語辭典』を指す。

- (64) ① 不法・不軌・不力・不利・不毛・不日・不時・不一
② 不才

[(64)-①]の「法」「軌」「力」「利」「毛」「日」「時」「一」などの漢字は、それ一字では確かに名詞性の語基であるが、結合形がそれぞれ「不法」は「法にかなわない」、「不軌」は「法を守らない」、「不力」は「力を尽さない」、「不利」は「利益にならない」、「不毛」は「草木が育たない」、「不日」は「多くの日数を経ない」、「不時」は「思いがけない時であること」、「不一」は「一様でない」または「一々詳しく言わない」などの意味を表すことから、それぞれの漢字には「法にかなう」、「力を尽す」、「一様である」などのような句全体の意味が内包されていることが分かる。つまり、「不」が否定するのは名詞性の語基ではなく、それに内包されている動詞句全体であることになる。

[(64)-②]の「不才」は例外で、「不」は「…がない」という、中国語では「没有」と同じ意味で使われている。

「未」は「まだ……していない」という意味を表す形態素であるが、韓国語と日本語では結合形式として使われるのに対し、中国語では自立形式の副詞の用法で使われている。

- (65) ① 未刊・未決・未然・未遂・未熟・未詳・未知・未定・未納・未聞・未来・
未練・未了・未婚
② 未解決・未開発・未完成・未経験・未発表

[(65)-①]は「未」が一字字音語基についた例で、[(65)-②]は二字字音語基についた例であるが、語基の品詞性は全部動詞性と形容詞性である(「未婚」の「婚」は「結婚する」の意味で、名詞性の語基とは言えない)。水野義道(1987)は「未」の機能について、次のように述べている¹¹⁴⁾。

114) 前掲論文、「漢語系接辞の機能」、pp.64-65.

(66)「未」は、基本的に用言類の語基とのみ結合して、その語基の表す動作がまだ行われていないという意味を添加し、結合形全体を相言類にするという明確な機能を持っている。

水野義道(1987)が言う「相言類」というのは、「な」を伴って連体修飾成分となるか、あるいは体言類・用言類・副言類に属さず「の」を伴って連体修飾成分となる¹¹⁵⁾語基を指すが、(65)の例に「相言類」に属しない例もいくつかある。例えば、「未遂」「未了」は日本語では名詞に属し、中国語では動詞に属する。

「未」は「まだ……していない」という実質的な意味で使われ、名詞性の語基の前につくことがなく、動詞性または形容詞性の語基について、その語基を修飾する機能をするから、副詞性の語基と認められる。

3.1.2.5 まとめ

以上、字音語系接頭辞的要素「阿-・老-・小-・第-・初-・非-・無-・不-・未-」などについて考察してきたが、中には純粋な字音語系接頭辞と認められる形態素もあれば、そうでない形態素も少なくない。

「阿-」は中国語で「ā」「ē」二つの読み方があるが、「ā」と読む場合は、名詞性の語基の前について「親しみ」の意味を添加するだけで、語基との語彙的な意味関係がなく、接頭辞と認められる。

「老-」は親しい関係にある人の姓の前について「親しみ」と「尊敬」の意味を添加し、数字の前については兄弟順を表し、いくつかの動物、植物の名の前については二音節の語または三音節の語を構成する機能をするが、この三つの用法で使われる「老-」は接頭辞と認められる。

「小-」は親しい関係にある人の姓の前について「親しみ」の意味を添加する機能をするが、この場合だけは「老-」と同じく接頭辞と認められる。

115) 上掲論文、「漢語系接辞の機能」、p.63.

「第-」は一般的に数詞の前について、物事の順序を表す序数詞を造語する機能をするが、この用法で使われる「第-」は造語力も強く、語基の数詞との語彙的な意味関係もなく、接頭辞と認められる。

「初」は語基の前につく時と後につく時とで、同じ実質的な意味で使われ、名詞と副詞の用法を持つ語基と判断される。

「非」は動詞と名詞の用法を持つ語基であるが、動詞の用法で使われる場合は、「…でない」「…しない」の意味で後につく語基を否定する機能をし、名詞の用法で使われる場合は、普通語基の後につき、「あやまり」「欠点」などの意味を表す。

「無」は動詞の用法で使われる語基で、後にくる目的語の表すものやことがないという意味を表す。

「不」は主として動詞性、形容詞性の語基の前について、その語基を修飾する機能を果たす副詞性の語基である。「不」は一般的に、「…しない」「…でない」などの意味で、動作性、状態性を否定するが、「不才(才能がない)」のように存在性を否定する例もある。

「未」は名詞性の語基の前につくことがなく、動詞性または形容詞性の語基について、「まだ……していない」という実質的な意味でその語基を修飾する機能をするから、副詞性の語基と認められる。

3.1.3 字音語系接尾辞の弁別基準と分析

3.1.3.1 字音語系接尾辞についての先行研究と問題点

字音語系接尾辞としてよく取り上げられている「-的・-化・-性・-子・-儿・-頭…」などの形態素から、純粋な接尾辞と認められるものを弁別するために、接頭辞の場合と同じく、まず接尾辞¹¹⁶⁾についての韓・中・日三国語の辞典的定義を調べて

116) この用語も「接頭辞」と同じく、三国語で使用する用語が少し異なるが、本稿では、便宜上「接尾辞」という

みたが、次のようである。

- (67) ① 接尾辭(接尾語): 어떤 단어의 뒤에 붙어 뜻을 첨가하여 한 다른 단어를 이루는 말(ある単語の後について意味を添加し、別の単語を造る語). (『옛센스 國語辭典』 117)
- ② 后缀(词尾): 加在词根后面的构词成分(語基の後につく造語成分)。(『现代汉语词典』 118)
- ③ 接尾語(接尾辞): [文法で]造語成分の一種。複合語の後の方の要素のうち、それ自体は単語として独立することの無いもの。(『新明解国語辞典』 119)

(67)を分析してみると、接頭辞に対する定義とほとんど同じ問題点があることが分かる。つまり、「意味を添加」ということは、一体実質的な意味を添加するか、形式的な意味を添加するかがはっきりしていないし、「複合語の後の方の要素」で、「単語として独立する」ことができない「造語成分」は、すべて接尾辞ではないという点である。(67)でもう一つ問題になるのは、韓国語の接尾辞は語の後につくだけでなく、語根にもつくことができるということである。例えば、韓国語の接尾辞「-이(i)」「-롭(rop)-」は、「부엌-이(bueong-i)」「날카-롭-다(nalka-rop-da)」のような語を構成する接尾辞であるが、ここで「부엌-(bueong-)」「날카-(nalka-)」は語ではなく、語根である。

このような問題点は、接尾辞の定義だけでなく、字音語系接尾辞の弁別基準、範囲の設定などにもたくさん存在する。

ここでは、既存の研究で字音語系接尾辞として論じてきた形態素の中で、比較的代表的だと考えられる「-的・-性・-化・-子・-頭」などについて、三国語でこれらの形態素が純粋な接尾辞として働いているか、それとも語基として働いているかを検

用語を使用することにする。

117) 前掲書、『옛센스 國語辭典』、p.2028.

118) 前掲書、『现代汉语词典』、p.571.

119) 前掲書、『新明解国語辞典』、p.821.

討してみることにする。

まず、字音語系接尾辞に関する先行研究をもう少し詳しく検討してみると、次のようである。

金圭哲(1990)は、韓国語の「漢字語」における既存の研究に対して体系的に検討し、「漢字語」の接辞に対する研究は(韓)国語形態論で部分的に言及するだけで、「漢字語」の接辞のみを集中的に考察したのは、陳泰夏(1978)の「지(子)」に対する論文と金在玗(1976)の「-的」派生語である「N+的」類名詞に関する論文があるだけだと言い、派生語の部分で問題になるのは誰によっても「漢字語」の接辞を弁別する確実な基準が立てられなかった点であると述べている¹²⁰⁾。

盧明姫(2005)は、既存の論議を検討した上、漢字語の中で接尾辞、語根、依存名詞の弁別基準を提示し、そしてそれを基準にして「接尾漢字語」中、「-的・-性・-化・-視・-然・-者・-家・-嬢・-氏・-上・-別・-師・-手」などを接尾辞と判定している¹²¹⁾。

辛基相(2005)は、「接尾辞を認定すれば自立語の後につく次のようなものが接尾辞性漢字語である」とし、「-家・-街・-間・-係・-系・-界・-公・-課・-觀・-機・-器・-代・-力・-論・-別・-生・-性・-所・-手・-術・-式・-用・-人・-者・-的・-製・-紙・-學・-化」など、29個の形態素を挙げている¹²²⁾。

Charles N. Li外(2006)は「形態素の後につく接辞を接尾辞」とし、「-子・-兒・-头・-們・-学・-家・-化」などの外、中国語では普通「时态助词」と言われる「-了」「-着」「-过」、「结构助词」と言われる「-的」「-地」までを接尾辞の範疇に入れて説明している¹²³⁾。

野村雅昭(1988)は「字音形態素のうち、なにを語基とし、なにを接辞とするかについては定説はない。ここで接辞としたものは、常識的な判断にしたがっている。ま

120) 金圭哲(1990)「漢字語」『國語研究 어디까지 왔나』서울大 大學院 國語研究會編、東亞出版社、p.525.

121) 前掲書、『現代國語 漢字語 研究』、pp.108-111.

122) 前掲書、『現代國語 漢字語』、pp.152-153.

123) 前掲書、『標準中國語文法』、pp.61-66.

た、接辞のなかには、「突如」の「如」、「断乎」の「乎」のように、助字とされるものもあるが、あえて区別をしなかった」とし、字音形態素を六種に分け、接尾辞として「-的・-然・-如・-化・-子・-却・-破…」などを挙げている¹²⁴⁾。

日本語教育学会編(2005)は「接尾辞とは、単独で語を構成することができず、つねに語基の後について語を構成する結合形式をいう。接尾辞には、語基に意味を添加させるだけのものと、意味を添加させると同時に語基の品詞を転換するものがある」とし、字音語系の代表的な接尾辞として、意味を添加させるだけのものに「-君・-士・-師・-人(じん)・-化・-式・-風・-主義・-枚・-台・-册・-本・-匹・-人(にん)・-杯・-階・-羽・-個・-回」、意味を添加させると同時に品詞を変えるものに「-性(名詞をつくるもの)・-的な(形容動詞をつくるもの)」などを挙げている¹²⁵⁾。森山卓郎(2003)も普通助数詞と言われる「-個・-回・-倍」などを接尾辞の範疇に入れて論じている。

その他、Maeng Jueok(1992)では「-子・-头・-者・-性・-員・-化・-手・-家・-品・-度」を、史锡尧・杨庆蕙主编(1998)では「-子・-儿・-头・-们・-者・-性・-員・-化・-手」を、劉月華外(2000)では「-子・-儿・-头・-者・-巴・-然・-性・-化」を、郭振华(2002)では「-子・-儿・-头・-们・-者・-性・-家・-化」を、金琮鎬(2002)では「-夫・-家・-生・-手・-化…」など41個の形態素を、森岡健二(1986)では「-炎・-化・-界・-回・-学・-機・-器・-金・-具・-計・-形・-型・-圈・-膏・-材・-剂・-氏・-質・-者・-手・-術・-症・-錠・-状・-性・-素・-的・-病・-物・-膜・-薬・-油・-論…」などを、庵功雄外(2001)では「-的・-化・-上・-性・-式・-人・-者・-家・-員・-士・-師・-費・-金・-賃・-料・-代・-風・-流・-用・-中・-時」を接尾辞として挙げている。

上の先行研究で分かるように、三国語での論議の対象に同じ形態素もあれば、違う形態素も少なくない。論者によっても、その定義、弁別基準、用語などがやや異なっている。

124) 前掲論文、「二字漢語の構造」、pp.49-52.

125) 前掲書、『新版日本語教育事典』、p.245.

以下、先行研究で論議の対象となっていた形態素の中で、割合に代表的だと考えられる「-的・-性・-化・-子・-頭」などについて検討してみることにする。

3.1.3.2 字音語系接尾辞の弁別基準

字音語系接尾辞の弁別基準と特徴を提示した研究には、韓国語では金圭哲(1980)、盧明姫(2005)、中国語では朱德熙(1997)、日本語では水野義道(1987)などがある。

金圭哲(1980)は、準接尾辞という概念を導入し、多くの準接尾辞の中で純粋な接尾辞を抽出する方法を二つにまとめている。第一、準接尾辞の中で絶断に依らなかったものは接尾辞と認める。例えば、「経営-権」の「権」は「権利」「権限」などで絶断されたものだから準接尾辞であり、「具体化」は「具体変化」と同じではないから「-化」は接尾辞であるというわけである。第二、意味的基準から本来の意味を喪失したのは接尾辞と認める。例えば、「小説-家」の「-家」から「いえ」という意味を見いだすことができないので接尾辞になるわけである。このような抽出方法に基づいて、漢字語の接尾辞は生産性が高く、一音節しかなく、語彙的よりは統辞的だという特徴を提示している。

盧明姫(2005)は、「漢字語」の中で接尾辞、語根、依存名詞の弁別基準を次のように提示している。

- (68) ① 語基に対する依存性
- ② 語基の範疇変化
- ③ 意味の変化
- ④ 単語の第一音節に出現不可
- ⑤ 単語以上の語基に結合可能
- ⑥ 助詞の結合の制約
- ⑦ 生産性
- ⑧ 語基の非自立性

⑨ 名詞を修飾する機能

⑩ 結合の順位

朱徳熙(1997)は接辞は全部定位語素¹²⁶⁾であり、純粹な接辞はただ語基にだけつくことができ、接辞と語基の間には位置の関係は存在するが、意味の関係は存在しないとしている。すなわち、「桌子」の「-子(zi)」は定位語素であるが、「弾性」の「-性」は「性質」「性能」のように前置することもあるので、不定位語素である。また、「弾」と「性」の間には明らかに修飾関係が存在するというわけである。

水野義道(1987)は漢語系接辞の特徴として、(ほとんどが漢字一字に対応する)形態である、主として結合形式である、造語力が強い、意味が形式化している、などの四種を挙げている。

字音語と韓国語の固有語、日本語の和語との根本的な差異は言語の構造的な差異である。字音語は漢字で形成された語であり、そのほとんどが中国語起源の語であり、形態的な性格よりは主として統辞的な意味・機能を有する語であることは周知の通りである。従って、字音語の語構成に関する研究において、中国語の文法的な構造と意味的な構造を理解しなくてはならないと思われる。

漢字は表意文字であり、一字一字が何らかの意味を持っている。だから、字音語の中でそれが接尾辞であるか否かを弁別する際に最も重要な基準になるのは、意味の形式化である。また、意味が形式化する過程で自立性も失い、音韻の変化も生じる可能性がある。それで、自立的に使われるかどうか、音韻の変化があるかどうか、このような事項も弁別基準になれると考えられる。そして、語基に接尾辞がついて新しい語が造られた時、韓国語の固有語と日本語の和語の接尾辞の場合は、語基の文法的範疇を変化させる機能があるが、この機能は字音語系接尾辞にもあると思われる。

以上の論議を基にして、韓・中・日三国語の字音語系接尾辞の弁別基準を(69)のようにまとめることができる。

126) 定位語素というのは、いつも語基の前にまたは語基の後につく形態素を指す。

(69) 字音語系接尾辞の弁別基準

- ① 意味の形式化
- ② 自立性の有無
- ③ 語基の文法的範疇の変化
- ④ 音韻の変化
- ⑤ 語基につく位置

字音語系接尾辞的要素といえ、上に挙げた形態素以外にもたくさん存在すると判断されるが、それらを一一分析するということは非常に難しいことであり、そうする意義もないと思われる。ここでは「-的・-性・-化・-子・-頭」などの形態素を(69)に基づいて検討し、これらが字音語系接尾辞であるか否かを究明することにする。

3.1.3.3 「-的」に対する分析

「-的」は韓国語と日本語で、字音語に接尾辞が存在するという明白な証拠にもなるような形態素である。起源については、明治時代の翻訳家グループが、英語の-ticの翻訳に際して、中国語の「的」を使用したのが始まりである¹²⁷⁾といえよう。それ以後、「-的」は韓国語にも浸透し、甚だしい造語力を誇示しながら多様な語基の後に、さまざまな意味を添加するだけでなく、語基の文法的範疇を変化させる機能をも果たしている。次に、「-的」が韓国語と日本語で、どのような語基の後に、どのような機能を果たしているかを考察してみよう。

- (70) ① 感情的・原則的・世界的・本質的 (中-N、韓日-N)
② 现实的・国際的・典型的・理性的 (中-NA、韓日-N)
③ 主観的・消極的・悲観的・楽観的 (中-A、韓日-NV)
④ 確定的・具体的・固定的・進歩的 (中-VA、韓日-NV)

127) 原由起子(1986)「-的」『日本語学』3月号、明治書院、p.73.

- ⑤ 協力的・総合的・反抗的・批判的(中-V、韓日-NV)
- ⑥ 简单的(*かんたんてき、*간단적)・严重的(*げんじゅうてき、*엄중적)・
 微妙的(*びみょうてき、*미묘적)・勇敢的(*ゆうかんてき、*용감적)
- (中-A、韓日-NA)
- (* 中=中国語、韓=韓国語、日=日本語、N=名詞、V=動詞、A=形容詞)

[(70)-①]は三国語で名詞の用法しかない語基に「-的」がついた形であり、[(70)-②③④]は、中国語には形容詞の用法があるのに、韓国語と日本語には名詞または動詞の用法しかない語基に「-的」がついた形である。[(70)-⑤]は中国語では動詞、韓国語と日本語では名詞あるいは動詞として用いられる語基に「-的」がついた形である。[(70)-⑥]は三国語で全部形容詞¹²⁸⁾の用法がある語基である。(70)で分かるように、韓国語と日本語で形容詞の用法がない語基には普通「-的」がつくことができるが、形容詞の用法がある語基にはつきにくい。

- (71) ① 徹底的(てっていてき、*철저적)
- ② 共通的(*きょうつうてき、공통적)

「徹底」は、中国語では形容詞、韓国語では名詞・形容詞、日本語では名詞・動詞の用法で使用され、「共通」は、中国語では形容詞、韓国語では名詞・動詞、日本語では名詞・動詞・形容詞の用法で使用される。(71)でも「-的」は形容詞の用法がある語基にはつきにくいことが確認できる。

- (72) 比較的(ひかくてき、비교적)

「比較」は、中国語では動詞と副詞の用法で使用されるのに対し、韓国語と日本語では名詞と動詞の用法で使用される。中国語で副詞として用いられ、形容詞の用法の

128) 日本語では和語系の形容詞に対して、字音語系の形容詞は「形容動詞」「ナ形容詞」などの用語で使用されているが、本稿では用語を統一するため、「形容詞」という用語を使うことにする。

ないものは、日本語で「-的」とならない¹²⁹⁾。韓国語では可能な場合と不可能な場合とがある(例えば、故意的・独自の・*果然的・*忽然的など)。「比較」は[(70)-⑤]の類型に属するものだと考えてもよいだろう。

- (73) ① 健康的(けんこうてき、*건강적)
② 自然的(*しぜんてき、자연적)
③ 平和的(へいわてき、평화적)

「健康」「自然」「平和」などの語基は、三国語とも形容詞の用法がある。(73)は形容詞の用法のある語基に「-的」がついた例であるが、韓国語と日本語でずれがあることが分かる。日本語では「-的」がつくことによって、「健康な」「平和な」あるいは「健康だ」「平和だ」とは異なる意味を表す¹³⁰⁾。韓国語では「健康」「自然」「平和」などが連体修飾語となる場合、「건강한 몸(geonganghan mom)・*자연한 환경(jayeonhan hwangyeong)・*평화한 해결(pyeonghwahan haegyeol)」のように「…한(han)…」で活用できない語基に「-的」をつけることができると考えられる。

上に挙げた例は「-的」が二音節字音語基についた場合であるが、一音節の字音語基の後にもつることができる。

- (74) ① 内的・外的・史的・私的・公的・詩的・心的・
神的・人的・知的・性的・病的・量的
② 動的・狂的
③ 静的・全的・美的

(74)は「-的」が一音節の字音語基の後についた形であるが、[(74)-①]では名詞性語基に、[(74)-②]では動詞性語基について、その語基を形容詞化させる働きをす

129) 前掲論文、「-的」、p.75.

130) 上掲論文、「-的」、p.75.

る。[(74)-③]の「静」「全」「美」などの語基は、中国語では自立形式の形容詞として用いられているが、韓国語と日本語では名詞あるいは造語成分としてしか用いられない。また「静的」「全的」の表す意味からみても、「静止した状態」「全面(全体的)」など、動詞(静止する)あるいは名詞(全面)を形容詞化する用法だといえよう。

上の論議から「-的」は韓国語と日本語で、一般的に形容詞の用法がないものの後について、そのような性質・状態にあるという意味を添加し、その名詞あるいは動詞を形容詞化する機能をする接尾辞だと言える。

中国語での「的」の用法は、大きく三つに分けることができる。

第一、構造助詞として用いられる。

「的」は現代中国語の普通话¹³¹⁾で三種の読み方があるが、構造助詞として用いられる場合は「de」と読む。

- (75) ① 我的(de)母亲 (私の母/나의 어머니)
- ② 去的(de)方向 (行く方向/가는 방향)
- ③ 幸福的(de)生活 (幸せな生活/행복한 생활)

(75)は、「的」が連体修飾構造をつくる構造助詞として用いられた例であるが、韓国語と日本語の格助詞「의(ui)」「の」と違い、動詞と形容詞の後にもつくることができるということが分かる。

第二、語基として用いられる。

「的」が語基として用いられる時、二つの読み方があるが、「間違いがない」「たしか」の意味を表す場合は「dí」と読み([(76)-③]は例外で、[(76)-①]の「的(dí)」と同じ意味を表す)、「まと」「めあて」の意味を表す場合は「dì」と読む。例えば、(76)のようである。

131) 中国の漢民族が使用する標準語を指す。

- (76) ① 的(di)確 · 的(di)証
 ② 目的(di) · 標的(di)
 ③ 端的(di)

(76)のように中国語で語基として用いられる「的」は、韓国語と日本語でも接尾辞ではなく、語基と認めるべきである。

第三、外来語の表記に使われる。例えば、(77)のようである。

(77) 的(di)确良[dacron] · 的(di)士[taxi]

3.1.3.4 「-性」「-化」に対する分析

字音語の中に、よく語基の後について接尾辞的に使われる一字形態素が少なくないが、その代表的なものに「-性」「-化」などがある。これらは特に二字字音語の後について何らかの意味を添加したり、文法的範疇を変えたりすることが多い。そのために、「-的」と同じく扱おうとする傾向がよくある。

まず、「性」は三国語でどのような意味で使用されているかを考察してみよう。

(78) 『옛센스 國語辭典』132)

- ① 사람 · 사물의 본바탕이나 본성(人 · 事物の本質や本性).
- ② [철] 사람이 나면서부터 갖고 있는 소질([哲] 人が生まれる時から持っている素質).
- ③ [불] 만유의 본체([物] 万有の本体).
- ④ [생] 남녀 · 자웅 · 암수의 구별([生] 男女 · 雌雄の区別).
- ⑤ 성숙한 남녀가 가지는 본능으로, 이성을 욕구하고 합치하려는 느낌이나 행위(成熟した男女が持つ本能で、異性を欲求し、合致しようとする思いや行為).
- ⑥ 문법상의 남성 · 여성 · 중성(文法上の男性 · 女性 · 中性).

132) 前掲書、『옛센스 國語辭典』、p.1298.

(79) 『現代汉语词典』133)

- ① 性格(性格)。
- ② 物质所具有的性能; 物质因含有某种成分而产生的性质(物質が持っている性能。物質がある成分を含んでいるために生じる性質)。
- ③ 后缀, 加在名词、动词或形容词之后构成抽象名词或属性词, 表示事物的某种性质或性能(接尾辞。名詞、動詞或は形容詞の後について、抽象名詞や属性詞を構成し、事物のある性質や性能を表す)。
- ④ 有关生物的生殖或性欲的(生物の生殖や性欲に関するもの)。
- ⑤ 性别(性別)。
- ⑥ 表示名词(以及代词、形容词)的类别的语法范畴(名詞及び代名詞、形容詞の類別の文法範疇を表す)。

(80) 『新明解国語辞典』134)

- ① 生まれつき(の性質)。
- ② からだの特質から来る、男女・雌雄の区別。
- ③ 成熟した男女が持つ、異性との肉体的な結合を欲求としていただく本能。セックス。
- ④ [インドヨーロッパ語族などで]「性②」に対応した、語尾変化のしかたや、代名詞・冠詞の使い方など。[無生物名詞にまで及ぶ]

(78)~(80)は、三国語の辞典で「性」に対する意味の記述であるが、韓・中・日三国語でほぼ同じ意味で使われている。「性」を造語成分として造られた語の例を挙げると、次のようである。

- (81) ① 植物性・大陸性・神経性・海洋性・人性・天性 (N+ 性)
② 創造性・放射性・流行性・移動性・弾性・耐性 (V+ 性)
③ 重要性・過敏性・可能性・危険性・急性・慢性 (A+ 性)
④ アルカリ性・アレルギー性・알코올性(アルコール性)・암모니아性(アンモニア性) (外来語+ 性)
⑤ 참을性(こらえ性)・고약性(不屈きさ)・脂性(あぶらしょう)・凝性(こりしょう)

133) 前掲書、『現代汉语词典』、p.1528.

134) 前掲書、『新明解国語辞典』、p.795.

(固有語+性)

⑥ 性別・性感・性格・性急・性能・性質(性+語基)

[(81)-①～⑤]は、それぞれ名詞、動詞、形容詞、外来語、固有語に「性」がついた形であり、[(81)-⑥]は形態素「性」が語の前の造語成分となる例である。「-性」の意味を分析してみると、「植物性」は「植物だけに見られる性質」、「創造性」は「創造的な特性」、「重要性」は「物事の重要な要素や性質」、「アルカリ性」は「アルカリの性質」、「참음性」は「耐え忍ぶ性質」など、いずれも「性質」という実質的な意味を失っていない。つまり、語の前の造語成分となる「性」と同じ意味で使われている。語構成上からみても、前の語基と「-性」との関係は連体修飾関係を表し、全体としては名詞あるいは連体修飾語の機能を果たす複合語であることが分かる。

次に、「化」について考えてみよう。田窪行則(1986)は、「-化」の意味は、「ある性状・状態に…すること/なること」であり、実質的な意味はほとんどなく、ほぼ状態変化のサ変動詞語幹を形成する接尾辞の機能を果たしている¹³⁵⁾と述べているが、ここで、「…にすること」「…になること」は元々日本語で変化を表す表現で¹³⁶⁾、「-化」に「実質的な意味はほとんどない」とは言えない。「化」のもとの意味が「変化」を表すからである。

(82) ① 進化・老化・緑化・美化・強化・深化・神化・同化・硬化・文化

② 大衆化・孤立化・合理化・機械化・具体化・特殊化

③ 化身・化石・化纤・化学・化合・化膿・化育・化粧

[(82)-①]は一字字音形態素に「-化」がついた語であり、[(82)-②]は二字字音形態素に「-化」がついた語であるが、「進化」は「生物が高等でない状態から高等と

135) 田窪行則(1986)「-化」『日本語学』3月号、明治書院、p.82.

136) 庵功雄外(2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク、p.72.

いう状態に変化する」という意味を表し、「大衆化」は「ある事柄が一般民衆の間に広く行われなかった状態から広く行われる状態に変化した」という意味を表す。「孤立化」について田窪行則(1986)は、「孤立化する」は、動詞の形では「孤立する」とたいした差がないが、「日本の国際経済での孤立/孤立化」のように名詞の形では「孤立」がより状態、状況的なのに対して「孤立化」がより過程、変化に焦点を当てた表現になっている¹³⁷⁾と述べているが、やはり「-化」のつくことによって、「変化」を表すことが分かる。[(82)-③]は「化」が語の前の造語成分となる例であるが、「変化」の意味を表すことは[(82)-①②]と変わりはない。

上述のことから、「-性」「-化」は、まだ接尾辞としての機能は乏しく、実質的な意味を持つ語基であると考えられる。

3.1.3.5 「-子」「-頭」に対する分析

「-子」「-頭」についての研究は、先行研究からも分かるように、韓国語と日本語の字音語系接尾辞に関する研究においてはほとんど取り上げられず¹³⁸⁾、中国語の接尾辞に関する研究で主として扱っている。

まず「-子」に関する研究を検討してみると、成元慶(1977)は、韓国語の「종지(jongji)」「판지(panji)」「장지(jangji)」などの語も、中国語の「鍾子」「板子」「障子」から来たようであり、「지(ji)」を「자(ja)」と読めば意味が通じるものもあるとし、中国語での「-子」のついた語の例を、(83)のように三種に分けて挙げている¹³⁹⁾。

- (83) ① 元来名詞で「子」がついたもの
刀子・椅子・帽子・孙子……

137) 前掲論文、「-化」、p.83.

138) 成元慶(1977)、荒川清秀(1988)、鄭旼泳(2005)などが挙げられるくらいである。

139) 成元慶(1977)「韓・中兩國에서 現用하는 漢字語彙 比較攷」『省谷論叢』省谷學術文化財團、第8輯、p.300.

- ② 動詞に「子」をつけて名詞になったもの
背子・拍子・扣子・推子……
- ③ 形容詞に「子」をつけて名詞化したもの
辣子・胖子・老子・傻子……

朱德熙(1997)は、「-子」は名詞と量詞(助数詞)の接尾辞であり、いつも「轻声」¹⁴⁰⁾で読むとし、次のような例を挙げている。

- (84) ① 名詞についたもの¹⁴¹⁾
刀子・金子・影子・儿子……
狗腿子・小伙子・澡堂子・鞋拔子……
- ② 量詞についたもの
档子・阵子・下子・股子……

そして、「君子・仙子・原子・孔子・鸡子(儿)・五味子」などのように、重読(重くて強く読むこと)される「子(zǐ)」は、もとの意味が残っているため、接尾辞ではない¹⁴²⁾と述べている。

- (85) ① 椅子・帽子・拍子・扇子・椰子・種子
② 桌子・孫子・箱子・亭子
③ 調子・銚子
④ 様子・骨子・冊子
⑤ 妻子・小子
⑥ 男子・女子・長子・孝子・弟子・父子

[(85)-①~④]は中国語で「-子(zǐ)」と読む例であるが、[(85)-①]は三国語では

140) 中国語で、話す時、ある字の音は非常に軽くて短く発音される場合があるが、それを「轻声」という。ただし、語の第一音節は「轻声」とならない。

141) 「-子」が二字字音語基と量詞(助数詞)についた例は、韓国語と日本語にはないので、本稿では論議の対象から除外する。

142) 前掲書、『現代 中国語 語法論』、p.58.

ほぼ同じ意味で使われる語であり、[(85)-②]は日本語にはないもの、[(85)-③]は韓国語にないものである。[(85)-④]は三国語でよく使われる語であるが、意味のずれがある語であると思われる。「様子」は、韓国語には「顔形、容貌」の意味しかないのに対し、中国語では「見かけ」「表情」「手本」など、日本語では「状態」「形跡」「徴候」「身なり」「態度」などいろいろな意味で用いられている。「骨子」は、中国語では「傘骨子」「扇骨子」のように「骨組み」という割合に具体的な意味で用いられ、韓国語と日本語では「要点、要旨」のような抽象的な意味で使われている。

「冊子」は、韓国語では「책(本)」とほぼ同じ意味で使われているが、中国語と日本語では「糸でとじた本」という意味で、普通の「本」、中国語では「书(shū)」とは区別されているらしい。[(85)-①~④]のそれぞれの語の語彙的な意味は、全部前の語基が表し、「-子(zi)」はただ前の語基について新しい語を造るだけである。

[(85)-⑤]は韓国語と日本語で「妻子」は「妻と子」の意味で、「小子」は「小さな子供」または自分の謙称として用いられる。つまり、「-子」は実質的な意味を持ち、「妻子」は並列関係の複合語、「小子」は連体修飾関係の複合語になるわけである。しかし、中国語では「-子」の読み方によって意味も語構成も異なる。「-子(zi)」と読む場合は、「妻子」は「妻と子」、「小子」は韓国語・日本語と同じ意味になり、「-子(zi)」と読めば、「妻子」は「妻」、「小子」は「男の子(を軽蔑している語)」の意味になる。中国語で「-子(zǐ)」は実質的な意味を持って複合語の語構成に参加し、「-子(zi)」は形式的な意味で派生語の語構成に参加する。派生語を造る接尾辞「-子(zi)」は前の語基の品詞性によってその機能も異なるが、名詞性の語基については、非自立性の語基を自立できる名詞に変え、動詞性の語基については、その動詞を名詞化する機能の外、「…するもの」という意味を添加し、形容詞性の語基については、その形容詞を名詞化する外、「…状態のもの/人」という意味を添加する機能を果たす。

[(85)-⑥]は中国語で「-子(zi)」と読む語であるが、それぞれ「男子」は「男の人」、「女子」は「女の人」、「長子」は「一番上の子」、「孝子」は「孝行な

子」、「弟子」は「師について教えを受ける人」、「父子」は「父とその子」の意味を表す。従って、「男子・女子・長子・孝子・弟子」などは連体修飾関係の複合語で、「父子」は並列関係の複合語である。

次に、「頭」は中国語で「-子(zi)」のように「轻声」で読み、いつも他の語基の後について接尾辞としての機能を果たす時がある。成元慶(1977)、朱德熙(1997)などは、「-頭(tou)」の機能を、前の語基の品詞性によって四種に分けているが¹⁴³⁾、まとめると次のようである。

(86) ① 名詞性の結合形式について名詞を造るもの

石頭・鎖頭・木頭・枕頭・骨頭・罐頭

② 動詞について名詞を造るもの

看頭・吃頭・来頭・说頭・搭頭・喚頭・賺頭

③ 形容詞について名詞を造るもの

甜頭・准頭・苦頭

④ 方位詞につくもの

上頭・下頭・前頭・後頭・東頭・外頭

[(86)-①]は「-頭(tou)」をつけることによって、名詞性の結合形式は自立形式の名詞になるだけで、「-頭(tou)」は語基の文法的範疇を変えるとか、意味を添加する機能はしない。[(86)-②]は動詞に「-頭(tou)」がついて抽象名詞になった例であるが、この場合「-頭(tou)」は、「…する/したもの」という意味と、「有/没有+動詞+頭」の形で「…する値打ちがある/ない」という意味を添加する。[(86)-③]は形容詞に「-頭(tou)」がついて抽象名詞になった例であるが、「-頭(tou)」は日本語の形容詞・形容動詞の語幹につく接尾辞「-さ/-み」と大体同じ意味を表す。[(86)-④]では「-頭(tou)」が方位詞「上・下・前・後・裏・外・東・西・南・北」などについて、「…の方」の意味を添加する。以上の「-頭(tou)」の機能から、(86)のような用

143) 前掲論文、「韓・中兩國에서 現用하는 漢字語彙 比較攷」、p.301.
前掲書、『現代 中國語 語法論』、p.60.

法で使われた「-頭(tou)」は、中国語で接尾辞と認められる。

韓国語と日本語にも「-頭」を造語成分とする字音語は少なくない。例えば、次のようである。

- (87) ① 饅頭・念頭・「木頭」・[路頭]
② 前頭・後頭
③ 街頭・口頭・埠頭・心頭
④ 露頭・出頭・回頭・[没頭] (*「」は日本語に、[]は中国語にない語)

鄭旼泳(2005)は、「街頭・口頭・路頭・馬頭・饅頭・木頭・埠頭・心頭・念頭・園頭・前頭・地頭・津頭・没頭・出頭・等頭」などの語を挙げ、これらの語は二つの音節がみな形態素であり、前の音節だけが語根形態素と機能するから派生語であるとしているが¹⁴⁴⁾、これらの語を何種に分けて分析してみる必要があると思われる。

[(87)-①~②]は中国語で「-頭(tou)」と読む例であるが、[(87)-①]の「饅頭」は「(作る方法、形は少しずつ違うが)小麦粉で作った食べ物」の意味を、「念頭」は「ころろ・考え」、「木頭」は「木(切れ)」、「路頭」は「道ばた」の意味を表す。この場合「-頭(tou)」は、[(86)-①]の「-頭(tou)」と同じ機能をする。[(87)-②]は[(86)-④]でも触れているが、中国語では派生語に属する語である。しかし、韓国語と日本語では「前頭」は「頭の前面」、「後頭」は「頭の後の方」の意味を表し、連体修飾関係の複合語である。[(87)-③~④]は中国語で「-頭(tóu)」と読む例であるが、[(87)-③]の「街頭」は「街角」の意から「通り」の意へ、「口頭」は「口の尖端」の意から「(話す時の)口」の意へと、意味の変化が生じ、「-頭(tóu)」の音韻はまだ変化していない語である。「埠頭」は中国語で同じ意味として使われる「碼頭」があり、この「碼頭」の「-頭」は「tou」と読む。「心頭」は「心(の中)」の意味を表し、「-頭(tóu)」と読むのは例外である。[(87)-③]の「-頭(tóu)」は意味の形式化からみると、語基としての機能はもう失い、接尾辞の範疇に入れるのが当然だと考

144) 鄭旼泳(2005)「漢字語 接尾辭 ‘-頭’에 대하여」『言語學』第9號、중원言語學會、pp.109-110.

えられる。[(87)-④]はみな「V+頭」の構造であるが、ここで「頭」は目的語に当たり、全体としては根底に「頭を…する」の意味が潜んでいる。従って、[(87)-④]は「述語+目的語」の構造の複合語に属するわけである。

3.1.3.6 まとめ

以上、韓・中・日三国語での字音語系接尾辞的要素「-的・-性・-化・-子・-頭」などについて考察してきたが、「-的」は韓国語と日本語で、一般的に形容詞の用法がないものの後について、そのような性質・状態にあるという意味を添加し、その名詞あるいは動詞を形容詞化する機能をする接尾辞だと言することができる。中国語では構造助詞として用いられる場合と、語基として用いられる場合があるが、構造助詞として用いられる場合は「de」と読み、語基として用いられる場合は「dì」「dì」と読む。中国語で語基として用いられる「的」は韓国語と日本語でも接尾辞ではなく、語基と認めるべきである。

「-性」は語の前の造語成分となる「性」と同じ意味で使われ、語構成上からも、前の語基と「-性」との関係は連体修飾関係を表すので、接尾辞の機能をするというより、語基としての機能を果たしているというのがもっとふさわしい。

「-化」も「-性」と同じく、語の前の造語成分となる「化」と同じ意味で使われ、まだ接尾辞としての機能は乏しく、実質的な意味を持つ語基であると考えられる。

「-子」は中国語で二つの読み方があるが、「-子(zǐ)」と読む時は、実質的な意味を持って複合語の語構成に参与する語基、「-子(zì)」と読む時は、形式的な意味で派生語の語構成に参与する接尾辞と認められる。接尾辞「-子(zì)」は前の語基の品詞性によってその機能も異なるが、名詞性の語基につく場合は、非自立性の語基を自立できる名詞に変える機能をする。しかし、動詞性の語基については、その動詞を名詞化する機能の外、「…するもの」という意味を添加し、形容詞性の語基については、その形容詞を名詞化する外、「…状態のもの/人」という意味を添加する機能を

果たす。

「-頭」も中国語で二つの読み方があるが、「-頭(tou)」と読む場合は、必ず語基の後につき、語彙的な意味はなく、前の語基を名詞化する機能をするので、接尾辞と認められる。「-頭(tóu)」は、「街頭」のように意味の変化が認められる場合は接尾辞、そうでなければ語基と判定すべきである。

3.1.4 助字による二字字音語

助字とは「漢文で、主として名詞・動詞・形容詞などの実質的な意味を表す語を実字というのに対して、実字を助けてある種の意味をそえる働きをする語」をいう。助字は、①語と語の関係を示すもの(例えば、「於」「乎」など)、②受身・使役などの意味を表すもの(例えば、「所」「使」など)、③文全体に断定・疑問などの意味を添える働きをするもの(例えば、「矣」「也」など)、④接続詞の働きをするもの(例えば、「唯」「雖」など)、⑤疑問詞・指示詞などの働きをするもの(例えば、「何」「此」など)、⑥動詞や形容詞などの直後について、その語にある種の意味をそえる働きをするもの(例えば、「然」「破」など)に分けられ¹⁴⁵⁾、実字を助けて漢文を作るのにさまざまな働きをするが、それらの中には字音語の語構成に参与するものも少なくない。例えば、次のようである。

- (88) ① 可能・可憐
② 所属・所有
③ 唯一
④ 以後・以来・以内・以上
⑤ 必然・当然・天然・突然

[(88)-①~④]は、「可」「所」「唯」「以」などの助字が他の語基の前についた

145) 前掲書、『新漢語林』、p.173.

例で、[(88)-⑤]は、助字「然」が語基の後についた例である。[(88)-①]の「可」は「…できる」「受動」などの意味(中国語の場合は「能動」の意味とも)を表す助字で、「可能」は同義の助字「能」と結合して「…できる」という意味を表し、「可憐」は「かわいそう」という受動的な意味を表す(中国語では「あわれむ」という能動的な意味をも表す)。[(88)-②]の「所」は「…のもの」「…のこと」「…される」などの意味を表す助字で、「所属」「所有」はそれぞれ「属されるもの」「有すること」などの意味を表す。[(88)-③]の「唯」は「ただ…だけ」という限定の意味を表す助字で、「唯一」は「ただひとつだけである」という意味を表す。[(88)-④]の「以」は「…から」「…より」などの意味を表し、「以後」は「…よりこのかた」、「以来」は「…からずっと」、「以内」は「…より内側」、「以上」は「…より上」という意味を表す。[(88)-⑤]の「然」は他の語基の下について状態を表す助字で、「必然」は「必ずそうなること」、「当然」は「もともとであるさま」、「天然」は「本来の姿であること」、「突然」は「だしぬけに」という意味を表す。

助字は上の例のように、その語に何らかの意味を添える機能をもって字音語の語構成に参加しているが、現代語では造語力があまり強くはない。しかし、現代中国語で「可」「所」「以」などの助字は、文を作るのにはやはり重要な役割を果たしているといえよう。

3.2 統語的な構成による二字字音語

単純語と派生語及び助字による語が形態的な構成による字音語だとすると、複合語は統語的な構成による字音語だといえることができる。字音語における複合語の語構成に関する韓・中・日三国語の先行研究を調べてみると、複合語を語構成要素間の結合関係によって大きく並列関係・主述関係・修飾関係・述目関係・述補関係などの五種に分けている。が、その下位分類は論者によって少しずつ異なり、用語などもまちまちである。従って、本稿ではこの五種の複合語の結合関係と下位分類についてもう少

し詳しく考察してみることにする。

3.2.1 並列関係の二字字音語

並列関係の二字字音語の下位分類として、割合に具体的に分類されたと思われる研究には、鄭攸泳(1994、1999)、日本語教育学会編(2005)などがあるが、比べてみると[表7]のようである。

[表7] 並列関係の二字字音語に対する下位分類の比較

鄭攸泳 (1994、1999)	N+N	反義関係	上下・男女・天地・兄弟	
		類義関係	土地・言語・意味・根本	
		対等関係	花鳥・風水・風雨	
	V+V	反義関係	授受・生死・起伏・興亡	
		類義関係	達成・逃走・信任・結束	
		対等関係	飲食・殺傷	
	A+A	反義関係	大小・強弱・長短・早晚	
		類義関係	正直・困難・貴重・明白	
		対等関係	正大・秀麗・遠大・宏壯	
	AD+AD		相互・恒常・何必・惟獨	
日本語教育学会編 (2005)	対等	並列(類義の語 基を重ねる)	N+N	道路・河川・身体
			V+V	増加・尊敬・破壊
			A+A	広大・温暖・善良
		対立(対義の語 基を重ねる)	N+N	天地・父母・左右
			V+V	売買・往復・愛憎
			A+A	強弱・大小・善悪

[表7]で分かるように、語基の品詞性によって、鄭攸泳(1994、1999)は「N+N」「V+V」「A+A」「AD+AD」など四種に分けているのに対し、日本語教育学会編(2005)は「N+N」「V+V」「A+A」など三種に下位分類している。また、語基の意味的な関係によっては、鄭攸泳(1994、1999)は「AD+AD」構造を除いた三種の構造は、二つの語基が「反義(=対義)関係」「類義関係」「対等関係」で結合しているとし、日本語教育学会編(2005)は「類義」も「対義」もみな「対等」関係だとい

う立場をとっている。

[表7]で挙げた語例を検討してみると、語基の品詞性による分類は「N+N」「V+V」「A+A」「AD+AD」など四種に分類されるのが正しいといえよう。ただ、「何必」の「何」は「どうして……か」という疑問を表す助字で、「AD+AD」構造の字音語ではないと思われる。

語基の意味的な関係による分類は、両者とも細分されていないと考えられ、もう少し検討してみることにする。

- (89) ① N+N……根本・身体・土地・意味
② V+V……変化・習慣・増加・尊敬
③ A+A……安静・困難・明白・温暖
④ AD+AD……交互・惟獨・相互・再三
⑤ N+N……見識・権利・文芸・知能
⑥ V+V……観測・監督・教訓・信頼
⑦ A+A……貴重・健全・精密・奇妙
⑧ N+N……兄弟・利害・前後・宇宙
⑨ V+V……出入・呼吸・勝敗・問答
⑩ A+A……長短・大小・多少・早晚

[(89)-①⑤⑧]は同じ「N+N」構造の二字字音語で、[(89)-②⑥⑨]は同じ「V+V」構造の二字字音語、[(89)-③⑦⑩]は同じ「A+A」構造の二字字音語である。しかし、同じ名詞性・動詞性・形容詞性の構造でも、語基と語基との意味的な関係は全部異なる。

まず、[(89)-①]の「根」「身」「土」「意」はそれぞれ「もと/ね」「み/からだ」「つち」「わけ/おもむき」などの意味を表し、「本」「体」「地」「味」はそれぞれ「もと/ね」「み/からだ」「つち」「おもむき」などの意味を表す。つまり、「根」と「本」、「身」と「体」、「土」と「地」、「意」と「味」は同義の語基であり、「根本」「身体」「土地」「意味」は同義の名詞性の語基で構成された二字字

音語である。

次に、[(89)-⑤]の「見識」は「見聞と学識」、「権利」は「権力と利益」、「文芸」は「学問と技芸/文学と芸術」、「知能」は「知恵と才能」などの意味を表す。

「見聞」と「学識」、「権力」と「利益」などは、それが表す意味が明らかに違う。つまり、語を構成している二つの語基は同義ではないのである。とって、対義の語基とも言いにくい。これらは並列関係にある同類の二つの語のまとまりから、それぞれ代表される字を選んで結合させた、いわゆる縮約して作られた略語のような語だと考えられる。このような結合方式が可能であるのは、漢字が表意文字であるからにはほかならない。この結合方式は字音語の語構成の一つの重要な特徴だと言えよう。

[(89)-⑧]は対義の二つの名詞性の語基が結合して構成された字音語であるが、「兄弟」は「あにとおとうと」、「利害」は「利益と損害」、「前後」は「まえとうしろ」、「宇宙」は「空間と時間」の意味を表す。ここで、「利害」のような語は[(89)-⑤]と同じく、縮約して作られた略語ともいえるが、「利益」と「損害」が対義であるという意味で[(89)-⑤]と異なる。

これまでは「N+N」構造の二字字音語に対する分析であるが、これと同じ分析方法で(89)の「V+V」「A+A」「AD+AD」構造の二字字音語を分析してみると、[(89)-②③④]は[(89)-①]と同じ同義の語基で構成された二字字音語に属し、[(89)-⑥⑦]は[(89)-⑤]と同じ類義¹⁴⁶⁾の語基で構成された二字字音語に、また[(89)-⑨⑩]は[(89)-⑧]と同じ対義の語基で構成された二字字音語に属するということが分かる。

(90) ① 処処・一一

② 匆匆・紛紛・茫茫・默默・堂堂・悠悠

③ 暗暗・僅僅・徐徐

146) 狭義では、「見聞」と「学識」、「権力」と「利益」などは類義とはいえないが、本稿では「同義」「対義」と区別するために広義で「類義」という用語を使うことにする。

(90)は、同一語基を重ねてできた疊語であるが、[(90)-①]は名詞性の語基を重ねた疊語、[(90)-②]は形容詞性の語基を重ねた疊語、[(90)-③]は副詞性の語基を重ねた疊語である¹⁴⁷⁾。多くの論著では疊語を単純語の範疇に入れて記述しているが、これらの疊語が表す意味と、もとの漢字の意味はほとんど一致しているし、同じ意味で他の語基と結合する例も少なくないから、疊語は複合語の範疇に入れて記述するのがもっともふさわしいと判断される。例えば、「悠」は「ゆったりしているさま」の意味を表す語基であるが、重複された形の「悠悠」も同じ意味で使われ、この外に「悠然」「悠長」「悠揚」などの語例が挙げられる。

3.2.2 主述関係の二字字音語

主述関係の語といえば、「主語＋述語」構造の語をいうが、主語と述語が文中で置かれる位置をみると、韓・中・日三国語の基本的な語順は、主語が前に、述語が後にと、三国語とも同じである。主述関係の二字字音語の構造も、文中での主語と述語の語順と同じく、主語にあたる名詞性の語基が前に置かれ、述語にあたる動詞性・形容詞性の語基が後に置かれる。従って、主述関係の二字字音語は、「N＋V」構造と「N＋A」構造とに分けることができる。

- (91) ① 公共・国有・人造・優勝
② 年少・性急・日常・頭痛

[(91)-①]は「N＋V」構造で構成された二字字音語で、[(91)-②]は「N＋A」構造で構成された二字字音語である。[(91)-①]の「公共」は「公衆が共にすること」、「国有」は「国家が所有すること」、「人造」は「人間がつくること」などの意味を表す。「優勝」の「優」は、「役者」「すぐれる」「やさしい」など、いろん

147) 動詞性の語基を重ねた例として、中国語に「看看」「想想」「走走」などがあるが、これらは語彙的な機能をするのではなく、主に動作の量を表す文法的な機能をすると思われるので、本稿では考察の対象から除外する。

な品詞性を持つ語基であるが、この場合は「すぐれたもの」という意味で、「優勝」は「すぐれたものが勝つ」という意味を表し、主述関係の字音語だといえる。

[(91)-②]の「年少」は「年齢が少ない」、「性急」は「性質が急だ」という意味を表し、「日常」は現代語では「ふだん/つねひごろ」の意味を表すが、語源をたどってみると、元来は「太陽はいつも同じだ/変わらない」という意味であると考えられる。「頭痛」は「頭が痛い」と解釈される場合は「N+A」構造の語になるが、「頭部の痛み」と解釈される場合は「N+N」構造の連体修飾関係の語になる。「頭痛」は、中国語では「N+A」構造の語として使われるのに対し、韓国語と日本語では「N+N」構造の語として使われるようである。

3.2.3 修飾関係の二字字音語

修飾関係の二字字音語の分類に関する先行研究を検討してみると、大部分は修飾語と被修飾語の最も基礎的な結合関係に着目して分類を行なっている。つまり、まず名詞性の語基を修飾する連体修飾関係と、動詞性・形容詞性の語基を修飾する連用修飾関係に大別し、また連体修飾関係は「N+N」「V+N」「A+N」など三種の構造に、連用修飾関係は「AD+V」構造と「AD+A」構造に下位分類している。しかし、漢字と漢文法の特性上、既存の分類よりもっと複雑な結合関係を有すると思われる。次に連体修飾関係の二字字音語と連用修飾関係の二字字音語に分けて考察してみることとする。

3.2.3.1 連体修飾関係の二字字音語

- (92) ① N+N……風力・牛乳・水圧・四季
② V+N……産地・進路・生物・引力
③ A+N……大陸・近所・難題・幼児

(92)は既存の研究で挙げられた連体修飾関係の三種の構造と語例であるが、[(92)-①]の「風力」は「風の力」、「牛乳」は「牛の乳汁」、「水圧」は「水の圧力」、「四季」は「四つの季節」の意味を表し、[(92)-②]の「産地」は「物を産出する土地」、「進路」は「進んでゆく道」、「生物」は「生きているもの」、「引力」は「他を引きつける力」の意味を表し、[(92)-③]の「大陸」は「地球上の広大な陸地」、「近所」は「近いところ」、「難題」は「むずかしい問題」、「幼児」は「おさない子供」などの意味を表す。このように、(92)はいずれもはっきりした直接的な結合関係で構成されていることが分かる。しかし、そうでないものもある。

(93) 電車・方針・詩人・水産

(93)を分析してみると、前の語基、つまり修飾する語基である「電」「方」「詩」「水」は、みな名詞性の語基である。しかし、これらが被修飾の語基である「車」「針」「人」「産」と結合した場合、「電車」は「電気の車」ではなく「電力で走る車」、「方針」は「方位の針」ではなく「方位を指し示す針」、「詩人」は「詩の人」ではなく「詩を作る人」、「水産」は「水の産物」ではなく「水からとれる産物」の意味を表し、名詞性から動詞性に変わる現象が起こる。従って、このような構造は「N+N」構造ではなく、「(N→V)+N」構造の連体修飾関係の二字字音語と言ふべきである。

(94) 最初・最後

副詞は、文中では韓・中・日三国語ともに、連用修飾語になる品詞であって、連体修飾語にはならない。しかし、字音語の語構成においては、まれな例ではあるが、副詞性の語基が名詞性の語基を修飾することが可能なようである。(94)の「最」は「もっとも」「一番」という意味を表す副詞性の語基で、「最初」は「一番はじ

め」、「最後」は「もっともあと/もっともうしろ」の意味を表し、副詞性の語基が名詞性の語基を修飾している。つまり、(94)は「AD+N」構造の連体修飾関係の二字字音語になるわけである。

(95) 最近

(95)の「最」「近」二つの漢字は、中国語では語と語基の両方の機能を持つ字である。例えば、「最近的将来(もっとも近い将来)」の場合は語の機能をし、「最近」は二つの語で構成された句であり、「最近我很少看电影(このごろ私はあまり映画を見ない)」の場合は「最近」が一つの語で、「最」と「近」は語基の機能をする。韓国語と日本語では、後者の語基の機能だけで、「最近」は一語としてしか使われない。この場合、「最近」は「一番近い過去」などの意を表すが、この構造は「(一番+近い)+過去」「一番+(近い+過去)」のように両方の解釈ができる。本稿では、「近」は「近い過去」の意味を代表する語基と思われ、「最近」を「AD+N」構造の連体修飾関係の二字字音語の範疇に入れて述べることにする。

3.2.3.2 連用修飾関係の二字字音語

連用修飾語といえは、「用言を中心とする成分を被修飾語とする修飾語で、用言にかかっていて、その用言の意味を詳しく限定する」語である。連用修飾語は、韓・中・日三国語でさまざまな形で現れているが、日本語での連用修飾語の末尾の文節は、①副詞(例えば、「もっとも新しい」「ぼつぼつ降る」など)、②用言の連用形(例えば、「急ぎ参れ」「美しく咲く」「穏やかに話す」など)、③名詞+助詞(例えば、「東京へ行く」「外国から帰る」など)の三つの型が基本である¹⁴⁸⁾。字音語の研究において、漢文法に用言の活用とか格助詞というような文法的な形式がないので、連用

148) 前掲書、『日本語文法大辞典』、p.852.

修飾関係の語を弁別することは非常に難しいことであるが、意味的に上のような三つの型で解釈できる語であれば、連用修飾関係の二字字音語と認めることができると判断される。

連用修飾関係の二字字音語に関する先行研究を検討してみると、大体次のように二種に下位分類している。

- (96) ① AD+V……必要・独立・予感・再発
② AD+A……極悪・特大・絶大・最高

[(96)-①]は副詞性の語基と動詞性の語基を結合した構造であるが、「必要」は「必ず要る」、「独立」は「ひとりで立っている」、「予感」は「前もって感ずる」、「再発」は「再び発生する」の意味を表す。[(96)-②]は副詞性の語基と形容詞性の語基を結合した構造で、「極悪」は「きわめて悪い」、「特大」は「特別に大きい」、「絶大」は「きわめて大きい」、「最高」は「最も高い」という意味を表す。(96)は上の三つの型で①にあたる連用修飾関係の二字字音語と言える。

この外に、野村雅昭(1988)と日本語教育学会編(2005)などは、(97)のような構造も連用修飾関係の二字字音語に含めさせているが、次に連用修飾関係か否かを弁別してみることにする。

- (97) ① A+V……静観・細分・新任・精製
② V+V……代弁・競走・焼死・議決

[(97)-①]の「静観」は「静かに観察すること」、「細分」は「細かく分けること」、「新任」は「新しく任命されること」、「精製」は「念入りに製造すること」の意味を表し、上の三つの型で②にあたる連用修飾関係の二字字音語である。この類は、修飾する語基が意味的に形容詞性から副詞性に変わっているため、厳密に言うと「A+V」構造ではなく、「(A→AD)+V」構造とすべきである。

[(97)-②]は「V+V」構造の二字字音語で、それぞれ「代弁」は「本人に代わって言うこと」、「競走」は「競って走ること」、「焼死」は「焼けて死ぬこと」、「議決」は「合議して決定すること」の意味を表し、前の動詞性の語基は後の動作・作用が行われる原因・理由・状態などいろいろな意味を表し、後の動詞性の語基はその結果を表す。この類は、修飾関係の字音語とは言えず、述補関係の二字字音語に属すると思われる。

(98) 筆記・前進・実用・文化

(98)は名詞性の語基と動詞性の語基が結合して構成された二字字音語で、「筆記」は「筆で記すること」、「前進」は「前へ進むこと」、「実用」は「実際に用いること」、「文化」は「(世の中が開ける)状態に化すること」の意味を表し、上の三つの型で③にあたる連用修飾関係の二字字音語である。この構造の前の修飾する語基は、意味的にもう名詞性から副詞性に変わっているため、「(N→AD)+V」構造とすることが出来る。

3.2.4 述目関係の二字字音語

述目関係の二字字音語を考察するためには、まず目的語の定義について検討して見る必要がある。

南基心・高永根(2002)は「目的語は他動詞によって表現される行為の対象を表す文の成分」¹⁴⁹⁾と定義し、山口明穂・秋本守英編(2001)は、目的語というのは「動詞の表す動作・行為の対象となってその動作・行為を受ける人やものを表す語」¹⁵⁰⁾であると定義している。

一方、北京大学中文系編(2007)は「目的語は述語動詞の支配と制約を受ける対象で

149) 南基心・高永根(2002)『標準國語文法論』改訂版、塔出版社、p.258.

150) 前掲書、『日本語文法大辞典』、p.788.

ある」とし、目的語と述語動詞の意味的な関係は多様であるが、主なものには次のような類型があると述べている¹⁵¹⁾。

- (99) ① 目的語は動詞の表す動作・行為の対象である(例: 看电影/映画を見る)。
- ② 目的語が指し示す事物はこのような動作・行為によって生じたものである(例: 写信/手紙を書く)。
- ③ 目的語は動作・行為の道具である(例: 洗凉水/冷たい水で洗う)。
- ④ 目的語は場所や位置を表す(例: 上树/木にのぼる、进城/町へ行く)。
- ⑤ 目的語は動作・行為の行為者である(例: 住人/人が住む)。

上の目的語の定義から、韓国語と日本語では[(99)-①②]の類型だけを目的語と認めるのに対し、中国語では[(99)-③④⑤]の類型までを目的語の範疇に属させていることが分かる。

語順においては、文中での目的語と述語の順序は、韓国語と日本語では名詞に助詞「을(eul)/를(reul)」「を」が付いて後の動詞にかかる形をとるのが一般的であるが、中国語では反対に述語の後に直接目的語が付く形をとるのが基本的な順序である。述目関係の二字字音語は、中国語での述語と目的語の順序と同じく、動詞性の語基と名詞性の語基が結合して構成された「V+N」構造でできている。

(100) 発電・加熱・开会・作文

(100)の「発電」は「電流を起こすこと」、「加熱」は「熱を加えること」、「开会」は「会議を始めること」、「作文」は「文章を作ること」の意味を表すが、いずれも「…を…する」の形をとっている。従って、(100)は三国語ともに述目関係の二字字音語と認められる類であると言える。

151) 前掲書、北京大学中文系編『現代汉语』、pp.358-359.

(101) 出席・発病・徹底・当選

(101)の「出席」は「席に出る」、「発病」は「病気がおこる」、「徹底」は「底まで貫き通る」、「当選」は「選挙で選ばれる」の意味で、(101)は韓国語と日本語の基準では述目関係と認められないが、中国語では認められる類型である。

本稿では、字音語の語構成というのは、あくまでも漢文法に準ずるものと考えられ、述目関係の二字字音語の弁別においては、(99)の中国語での目的語と述語の意味的な関係を基準にして弁別することにする。

3.2.5 述補関係の二字字音語

補語は目的語と同じく、語順において韓国語と日本語では述語の前に置かれ、中国語では述語の後に付くのが一般的である。述補関係の二字字音語は、中国語の語順に従い、「述語+補語」の構造で構成されたと思われ、まず中国語の補語について考察してみることにする。

北京大学中文系編(2007)は「補語は動詞または形容詞の後に付いて補充説明する成分である」と定義し、補語を①結果補語(例えば、「学会/学んで分かる」「推倒/押し倒す」など)、②方向補語(例えば、「走进/歩いて入る」「送来/送ってくる」など)、③可能補語(例えば、「听得懂/聞いて理解できる」「听不懂/聞いても理解できない」など)、④程度補語(例えば、「写得好/よく書いた」「好极了/非常によい」など)、⑤前置詞句補語(例えば、「生于一八一八年/1818年に生まれた」「等到昨天/昨日まで待った」など)のように五種に分類している¹⁵²⁾。

上の五種の中で、③～⑤は述語の後に補語がつくためには、その間に「得」「不」「于」などの語が入らなければならないので、漢字数からいって、二字字音語にはこの類型で構成された語はまずないと判断される。

152) 上掲書、北京大学中文系編『現代汉语』、pp.369-378.

結果補語は動作・変化の結果を表し、その結果は動詞または形容詞から成る。方向補語は動詞の後に方向を表す動詞「上」「下」「進」「出」「回」「過」「起」と「来」「去」などが付いて、事物の運動の方向を表す¹⁵³⁾。従って、述補関係の二字字音語は、「V+V」構造と「V+A」構造で構成されるということが分かる。

- (102) ① 参議・測定・代理・会談
② 改良・革新・減少・拡大

[(102)-①]の「参議」は「参与して議する」、「測定」は「はかってきめる」、「代理」は「本人に代わって処理する」、「会談」は「会って話し合う」の意味を表し、この類は「V+V」構造の述補関係の二字字音語に属する。

[(102)-②]の「改良」は「改めてよくする」、「革新」は「改めて新しくする」、「減少」は「減って少なくなる」、「拡大」は「拡げて大きくする」の意味を表し、後の語基は形容詞性ではなく、動詞性の語基として使用されていることが分かる。従って、[(102)-②]の類型は「V+A」構造というより、「V+(A→V)」構造の述補関係の二字字音語というほうが最もふさわしい。

153) 前掲書、劉月華外著『現代中國語文法』、pp.261-267.

3.3 二字字音語の語構成による分類

本章では、韓・中・日三国語の二字字音語を、形態的な構成による二字字音語と統語的な構成による二字字音語に分けて考察してみたが、二字字音語を語構成上から分類すると、次のようである。

(103) 二字字音語の語構成による分類

① 形態的な構成による二字字音語

- a. 単純語……刹那・躊躇・徘徊・葡萄
- b. 派生語
 - ア. 接頭辞+語基……第一・老師
 - イ. 語基+接尾辞……街頭・饅頭・帽子・拍子
- c. 助字による二字字音語……所有・唯一・以前・自然

② 統語的な構成による二字字音語(複合語)

- a. 並列関係の二字字音語
 - a) 同義の語基を重ねた二字字音語
 - ア. N+N……道路・児童・服装・根本
 - イ. V+V……変化・測量・居住・増加
 - ウ. A+A……豊富・恐怖・良好・詳細
 - エ. AD+AD……交互・相互・再三
 - b) 類義の語基を重ねた二字字音語
 - ア. N+N……見解・権利・文芸・性能
 - イ. V+V……観測・監督・捜査・信仰
 - ウ. A+A……貴重・健全・精密・軽快
 - c) 対義の語基を重ねた二字字音語
 - ア. N+N……夫婦・左右・利害・前後
 - イ. V+V……出入・呼吸・勝敗・問答
 - ウ. A+A……長短・大小・黑白・早晚
 - d) 暈語……处处・茫茫・往往・悠悠
- b. 主述関係の二字字音語

- ア. N+V……公共・国産・民主・人工
 イ. N+A……日常・頭痛・性急
- c. 修飾関係の二字字音語
- a) 連体修飾関係の二字字音語
- ア. N+N……地球・電圧・物質・紙幣
 イ. (N→V)+N……電話・劇場・詩人・現金
 ウ. V+N……愛情・産地・歌手・孝子
 エ. A+N……長期・大陸・緑茶・速度
 オ. AD+N……最初・最後
- b) 連用修飾関係の二字字音語
- ア. AD+V……交流・特定・予想・再生
 イ. (N→AD)+V……筆記・前進・実験・自覚
 ウ. (A→AD)+V……広告・楽観・強化・確認
 エ. AD+A……不安・不幸・独特
- d. 述目関係の二字字音語
- ア. V+N……徹底・出席・当選・発電
- e. 述補関係の二字字音語
- ア. V+V……保護・改造・教育・座談
 イ. V+(A→V)……発明・革新・減少・延長

第4章 韓・中・日三国語の二字字音語と品詞性

(7)の三種の辞典から抽出した同形二字字音語は11470語で、(4)の三種の資料で再抽出した同形二字字音語は4191語である。本章では、その中から使用率が最も高いと思われる同形二字字音語1557語を選定し、それを語構成によって分類した上、語構成と品詞性の類型との対応関係の様相を究明することにする。

4.1 形態的な構成による二字字音語と品詞性

4.1.1 単純語と品詞性

同形二字字音語1557語の中で、単純語は12語であるが、単純語とその品詞性を表であらわすと[表8]のようである。

[表8] 単純語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
玻璃	N	玻璃	N	玻璃	N
刹那	N	刹那	N	刹那	N
躊躇	NV	躊躇・踌躇	VA	躊躇	NV
彷彿・髣髴	A	仿佛・彷彿・髣髴	VAD	彷彿・髣髴	NA
胡蝶・蝴蝶	N	胡蝶・蝴蝶	N	胡蝶	N
喇叭	N	喇叭	N	喇叭	N
琉璃	N	琉璃	N	琉璃	N
駱駝	N	骆驼	N	駱駝	N
徘徊	NV	徘徊	V	徘徊	NV
葡萄	N	葡萄	N	葡萄	N
珊瑚	N	珊瑚	N	珊瑚	N
鴉片・阿片	N	鴉片・雅片・阿片	N	鴉片・阿片	N

[表9] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(一) (総語数: 12語)

品詞性	名 詞			動 詞			形 容 詞			副 詞			その他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語 語数	11	9	12	2	3	2	1	1	1	0	1	0	0	0	0
%	91.7	75	100	16.7	25	16.7	8.3	8.3	8.3	0	8.3	0	0	0	0

[表9]で分かるように、単純語は三国語ともに名詞の用法で使われる語が最も多く、次いで動詞、形容詞、副詞の順であるが、その中で外来語はすべて名詞の用法しかないようである。

4.1.2 派生語と品詞性

4.1.2.1 接頭辞による派生語と品詞性

[表10] 接頭辞による派生語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
第一	NAD	第一	N	第一	NAD
老師	N	老师	N	老師	N

[表11] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(二) (総語数: 2語)

品詞性	名 詞			動 詞			形 容 詞			副 詞			その他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語 語数	2	2	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
%	100	100	100	0	0	0	0	0	0	50	0	50	0	0	0

上の表のように、接頭辞による派生語は2語しかないが、その中で「第一」は韓国語と日本語では名詞の外に副詞としても使われる。「老師」は中国語では派生語に属するが、韓国語と日本語では「年をとった師匠」の意味で、「A+N」構造の連体修飾関係の二字字音語に属する。

4.1.2.2 接尾辞による派生語と品詞性

[表12] 接尾辞による派生語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
後頭	N	后头	N	後頭	N
街頭	N	街头	N	街頭	N
饅頭	N	馒头	N	饅頭	N
帽子	N	帽子	N	帽子	N
念頭	N	念头	N	念頭	N
拍子	N	拍子	N	拍子	N
妻子	N	妻子	N	妻子	N
前頭	N	前头	N	前頭	N
扇子	N	扇子	N	扇子	N
杓子	N	勺子	N	杓子	N
舌頭	N	舌头	N	舌頭	N
獅子	N	狮子	N	獅子	N
様子	N	样子	N	様子・容子	N
椅子	N	椅子	N	椅子	N
枕頭	N	枕头	N	枕頭	N
種子	N	种子	N	種子	N

[表13] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(三) (総語数: 16語)

品詞性	名詞			動詞			形容詞			副詞			その他		
	韓国	中国	日本	韓国	中国	日本	韓国	中国	日本	韓国	中国	日本	韓国	中国	日本
国語	16	16	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
語数	16	16	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
%	100	100	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

「-子(zi)」「-頭(tou)」は前の語基を名詞化する接尾辞で、この二つの接尾辞で構成された派生語はすべて名詞の用法しかないということが上の表で確認できる。

4.1.3 助字による二字字音語と品詞性

[表14] 助字による二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
可能	NA	可能	NAAD	可能	NA
可憐	A	可憐	VA	可憐	NA
所屬	NV	所属	A	所属	NV
所有	NV	所有	NVA	所有	NV
所在	NV	所在	N	所在	N
唯一	NA	唯一・惟一	A	唯一	N
必然	NAAD	必然	NA	必然	N
當然	A	当然	AAD	当然	NAAD
偶然	NA	偶然	AAD	偶然	NAD
天然	NAAD	天然	A	天然	N
突然	AAD	突然	A	突然	AD
依然	A	依然	VAD	依然	NA
自然	NAAD	自然	NAAD(接統詞)	自然	NAAD
以後	NAD	以后	N	以後	N
以來	N	以来	N	以来	N
以内	N	以内	N	以内	N
以前	N	以前	N	以前	N
以上	N	以上	N	以上	N
以外	N	以外	N	以外	N
以下	N	以下	N	以下	N

[表15] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(四) (総語数: 20語)

品詞性	名詞			動詞			形容詞			副詞			その他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語 語数	16	12	19	3	3	2	10	11	5	5	5	4	0	1	0
%	80	60	95	15	15	10	50	55	25	25	25	20	0	5	0

助字による二字字音語の品詞性は、助字によって異なるが、上の表を検討してみると、「可」「然」などの助字で構成された語は主に形容詞・副詞で使用され、「所」で構成された語は主に動詞で、「以」で構成された語は主に名詞で使用されていることが分かる。

4.2 統語的な構成による二字字音語と品詞性

4.2.1 並列関係の二字字音語と品詞性

4.2.1.1 同義の語基を重ねた二字字音語と品詞性

4.2.1.1.1 「N+N」構造の二字字音語と品詞性

[表16] 同義の語基を重ねた「N+N」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
比例	NV	比例	N	比例	NV
標準	N	标准	NA	標準	N
部分	N	部分	N	部分	N
才能	N	才能	N	才能	N
材料	N	材料	N	材料	N
財産	N	财产	N	財産	N
倉庫	N	仓库	N	倉庫	N
差別	NV	差別	N	差別	NV
差異	N	差异	N	差異・差違	N
車輛	N	车辆	N	車両・車輛	N
道德	N	道德	NA	道德	N
道理	N	道理	N	道理	N
道路	N	道路	N	道路	N
都市	N	都市	N	都市	N
兒童	N	儿童	N	兒童	N
法規	N	法规	N	法規	N
法律	N	法律	N	法律	N
法則	N	法则	N	法則	N
範圍	N	范围	NV	範圍	N
方法	N	方法	N	方法	N
方面	N	方面	N	方面	N
方向	N	方向	N	方向	N
用費	N	费用	N	費用	N
風景	N	风景	N	風景	N
服裝	N	服装	N	服装	N
符號	N	符号	N	符号	N
根本	N	根本	NAAD	根本	N

根據	NV	根据	NV(前置詞)	根拠	N
功績	N	功績	N	功績	N
孤獨	NA	孤独	A	孤独	NA
故障	N	故障	N	故障	NV
官僚	N	官僚	N	官僚	N
規律	NV	规律	N	規律·紀律	N
規則	N	规则	NA	規則	N
規模	N	规模	N	規模	N
國家	N	国家	N	国家	N
果實	N	果实	N	果实	N
過失	N	过失	N	過失	N
海洋	N	海洋	N	海洋	N
行列	NV	行列	N	行列	NV
貨幣	N	货币	N	貨幣	N
機會	N	机会	N	機會	N
機械	N	机械	NA	機械	N
基本	N	基本	NAAD	基本	N
基礎	N	基础	N	基礎	N
極端	NA	极端	NAAD	極端	NA
技術	N	技术	N	技術	N
季節	N	季节	N	季節	N
家庭	N	家庭	N	家庭	N
價值	N	价值	N	價值	N
階段	N	阶段	N	階段	N
階級	N	阶级	N	階級	N
街道	N	街道	N	街道	N
金錢	N	金钱	N	金錢	N
精神	N	精神	NA	精神	N
景色	N	景色	N	景色	N
境界	N	境界	N	境界	N
科目	N	科目	N	科目·課目	N
蠟燭	N	蜡烛	N	蠟燭	N
理由	N	理由	N	理由	N
利息	N	利息	N	利息	N
利益	N	利益	N	利益	N
輪廓	N	轮廓	N	輪廓·輪郭	N
名稱	N	名称	N	名稱	N
名譽	NA	名誉	NA	名譽	NA
模範	N	模范	NA	模範	N
年齡	N	年龄	N	年齡	N
皮膚	N	皮肤	NA	皮膚	N
氣力	N	气力	N	氣力	N
器具	N	器具	N	器具·機具	N
器械	N	器械	N	器械	N

親戚	N	亲戚	N	親戚	N
情況	N	情况	N	情況·狀況	N
情緒	N	情绪	N	情緒	N
區域	N	区域	N	区域	N
趣味	N	趣味	N	趣味	N
缺陷	N	缺陷	N	欠陷	N
人口	N	人口	N	人口	N
人民	N	人民	N	人民	N
若干	NVAAD	若干	N	若干	N
色彩	N	色彩	N	色彩	N
森林	N	森林	N	森林	N
沙漠·砂漠	N	沙漠	N	沙漠·砂漠	N
身體	N	身体	N	身体	N
紳士	N	绅士	N	紳士	N
時代	N	时代	N	時代	N
時刻	N	时刻	NAD	時刻	N
時期	N	时期	N	時期	N
世代	N	世代	N	世代	N
世紀	N	世纪	N	世紀	N
事故	N	事故	N	事故	N
事件	N	事件	N	事件	N
事務	N	事务	N	事務	N
事物	N	事物	N	事物	N
事業	NV	事业	N	事業	N
手段	N	手段	N	手段	N
首腦	N	首脑	N	首腦	N
壽命	N	寿命	N	壽命	N
書籍	N	书籍	N	書籍	N
順序	N	顺序	NAD	順序	N
態度	N	态度	N	態度	N
體系	N	体系	N	體系	N
體制	N	体制	N	體制	N
條件	N	条件	N	条件	N
通常	NAD	通常	A	通常	N
頭腦	N	头脑	N	頭腦	N
土地	N	土地	N	土地	N
文章	N	文章	N	文章	N
文字	N	文字	N	文字	N
物件	N	物件	N	物件	N
犧牲	NV	牺牲	NV	犧牲	N
系統	N	系统	NA	系統	N
線路	N	线路	N	線路	N
憲法	N	宪法	N	憲法	N
項目	N	项目	N	項目	N

消息	N	消息	N	消息	N
效果	N	效果	N	效果	N
信號	NV	信号	N	信号	NV
形式	N	形式	N	形式	N
形態	N	形态	N	形態·形体	N
幸福	NA	幸福	NA	幸福	NA
性質	N	性质	N	性質	N
言語	N	言语	NV	言語	N
沿岸	N	沿岸	N	沿岸	N
要領	N	要领	N	要領	N
衣服	N	衣服	N	衣服	N
衣裳	N	衣裳	N	衣裳·衣装	N
儀式	N	仪式	N	儀式	N
意見	N	意见	N	意見	NV
意味	NV	意味	N	意味	NV
意義	N	意义	N	意義	N
意志	N	意志	N	意志·意思	N
音樂	N	音乐	N	音樂	N
英雄	N	英雄	NA	英雄	N
元素	N	元素	N	元素·原素	N
原始·元始	N	原始	A	原始·元始	N
災害	N	灾害	N	災害	N
災難	N	灾难	N	災難	N
責任	N	责任	N	責任	N
丈夫	N	丈夫	N	丈夫	NA
知識	N	知识	N	知識	N
脂肪	N	脂肪	N	脂肪	N
職業	N	职业	NA	職業	N
制度	N	制度	N	制度	N
秩序	N	秩序	N	秩序	N
中間	N	中间	N	中間	N
中心	NV	中心	N	中心	N
中央	N	中央	N	中央	N
種類	N	种类	N	種類	N
周圍	N	周围	N	周圍	N
傳記	N	传记	N	伝記	N
狀況	N	状况	N	狀況·情況	N
狀態	N	状态	N	狀態·情態	N
姿勢	N	姿势	N	姿勢	N
資本	N	资本	N	資本	N
資格	N	资格	N	資格	N
資金	N	资金	N	資金	N
自己	N	自己	N	自己	N
自身	N	自身	N	自身	N

宗教	N	宗教	N	宗教	N
祖先	N	祖先	N	祖先	N

[表17] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(五) (総語数: 161語)

品詞性	名 詞			動 詞			形容詞			副 詞			その他		
国語	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
語数	161	158	161	11	4	7	5	18	5	2	5	0	0	1	0
%	100	98.1	100	6.8	2.5	4.4	3.1	11.2	3.1	1.2	3.1	0	0	0.6	0

[表17]で分かるように、同義の語基を重ねた「N+N」構造の二字字音語は、三国語ともに主として名詞の用法で使用され、動詞・形容詞などの品詞性を持つ語は非常にまれである。中国語で形容詞の語数が18語で11.2%を占めているのも、その半分は「属性詞」¹⁵⁴⁾で、実際に形容詞の用法で使用されるのは「精神」「系統」「幸福」などいくつかの語しかない。

4.2.1.1.2 「V+V」構造の二字字音語と品詞性

[表18] 同義の語基を重ねた「V+V」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
報道	NV	报道	NV	報道	NV
報告	NV	报告	NV	報告	NV
崩潰	NV	崩溃	V	崩潰・崩壊	NV
比較	NV	比较	VAD(前置詞)	比較	NV
編輯	NV	编辑	NV	編輯・編集	NV
變革	NV	变革	V	變革	NV
變更	NV	变更	V	變更	NV
變化	NV	变化	V	變化	NV
辯論	NV	辩论	V	辯論・弁論	NV
表現	NV	表现	NV	表現	NV
裁判	NV	裁判	NV	裁判	NV
參加	NV	参加	V	參加	NV
參與	NV	参与・参預	V	参与	NV

154) 中国語で「属性詞」は「非谓形容词」とも呼ばれ、述語にはなれなく、主に連体修飾語になる語を指す。例えば、「原始社会」「通常的方法」で「原始」「通常」など。

參照	NV	参照	V	参照	NV
操作	NV	操作	V	操作	NV
測量	NV	测量	V	測量	NV
超過	NV	超过	V	超過	NV
陳列	NV	陈列	V	陳列	NV
承認	NV	承认	V	承認	NV
衝突	NV	冲突	V	衝突	NV
出產	NV	出产	NV	出產	NV
出生	NV	出生	V	出生	NV
出現	NV	出现	V	出現	NV
處理	NV	处理	V	處理	NV
儲蓄·貯蓄	NV	储蓄	NV	儲蓄·貯蓄	NV
存在	NV	存在	NV	存在	NVA
打擊	N	打击	V	打擊	N
待遇	NV	待遇	NV	待遇	NV
逮捕	NV	逮捕	V	逮捕	NV
誕生	NV	诞生	V	誕生	NV
到達	NV	到达	V	到達	NV
抵抗	NV	抵抗	V	抵抗	NV
彫刻·雕刻	NV	雕刻	NV	彫刻	NV
調查	NV	调查	V	調查	NV
動作	NV	动作	NV	動作	NV
發表	NV	发表	V	發表	NV
發生	NV	发生	V	發生	NV
翻譯·翻譯	NV	翻译	NV	翻譯	NV
繁殖·蕃殖	NV	繁殖	V	繁殖	NV
反對	NV	反对	V	反對	NVA
販賣	NV	贩卖	V	販賣	NV
妨礙	NV	妨碍	V	妨礙·妨害	NV
沸騰	NV	沸腾	V	沸騰	NV
分布	NV	分布	V	分布	NV
分解	NV	分解	V	分解	NV
分析	NV	分析	V	分析	NV
負擔	NV	负担	NV	負擔	NV
附近	N	附近	NA	附近·付近	N
附屬	NV	附属	VA	附屬·付屬	NV
複雜	A	复杂	A	複雜	NA
改革	NV	改革	V	改革	NV
干涉	NV	干涉	V	干涉	NV
感覺	NV	感觉	NV	感覺	NV
工作	NV	工作	NV	工作	NV
共同	NV	共同	AAD	共同	NV
攻擊	NV	攻击	V	攻擊	NV
供給	NV	供给	V	供給	NV

貢獻	NV	贡献	NV	貢獻	NV
購買	NV	购买	V	購買	NV
關係	NV	关系	NV	關係	NV
觀察	NV	观察	V	觀察	NV
管理	NV	管理	V	管理	NV
合併	NV	合并	V	合併	NV
合同	NV	合同	N	合同	NVA
化粧	NV	化妆	V	化粧	NV
緩和	NV	缓和	VA	緩和	NV
恢復·回復	NV	恢复·回复	V	恢復·回復	NV
回答	NV	回答	V	回答	NV
會見	NV	会见	V	會見	NV
繪畫	N	绘画	V	繪画	N
混合	NV	混合	V	混合	NV
混亂	NA	混乱	A	混乱	NV
獲得	NV	获得	V	獲得	NV
集合	NV	集合	NV	集合	NV
嫉妬·嫉妒	NV	嫉妒	V	嫉妬	NV
給與	NV	给与·给予	V	給与	NV
計劃·計畫	NV	计划	NV	計畫	NV
計算	NV	计算	V	計算	NV
記錄	NV	记录·纪录	NV	記錄	NV
記念·紀念	NV	纪念·纪念	NV	記念·紀念	NV
記憶	NV	记忆	NV	記憶	NV
繼續	NVAD	继续	V	繼續	NV
檢查	NV	检查	NV	檢查	NV
檢討	NV	检讨	V	檢討	NV
間隔	N	间隔	NV	間隔	N
建設	NV	建设	V	建設	NV
建築	NV	建筑	NV	建築	NV
交付·交附	NV	交付	V	交付	NV
接觸	NV	接触	V	接觸	NV
節約	NV	节约	V	節約	NV
結構	NV	结构	NV	結構	NAAD
解除	NV	解除	V	解除	NV
解放	NV	解放	V	解放	NV
解散	NV	解散	V	解散	NV
解釋	NV	解释	V	解釋	NV
禁止	NV	禁止	V	禁止	NV
經過	NV	经过	NV	經過	NV
經營	NV	经营	V	經營	NV
警戒	NV	警戒	V	警戒	NV
競爭	NV	竞争	V	競爭	NV
居住	NV	居住	V	居住	NV

拒絕	NV	拒绝	V	拒絕	NV
距離	N	距离	NV	距離	N
決定	NV	决定	NV	決定	NV
覺悟	NV	觉悟	NV	覺悟	NV
開始	NV	开始	NV	開始	NV
開拓	NV	开拓	V	開拓	NV
考慮	NV	考虑	V	考慮	NV
會計	NV	会计	N	會計	NV
擴張	NV	扩张	V	擴張	NV
勞動	NV	劳动	NV	労働	NV
類似	NA	类似	V	類似	NV
理解	NV	理解	V	理解·理会	NV
連續	NV	连续	V	連續	NV
聯合	NV	联合	VA	聯合·連合	NV
聯絡·連絡	NV	联络	V	聯絡·連絡	NV
練習·鍊習	NV	练习	NV	練習	NV
戀愛	NV	恋爱	NV	戀愛	NV
旅行	NV	旅行	V	旅行	NV
麻痺·癱瘓	NV	麻痺·癱瘓	VA	麻痺	NV
貿易	NV	贸易	N	貿易	NV
迷惑	NV	迷惑	VA	迷惑	NVA
免除	NV	免除	V	免除	NV
描寫	NV	描写	V	描写	NV
命令	NV	命令	NV	命令	NV
摩擦	NV	摩擦·磨擦	NV	摩擦	NV
排列·配列	NV	排列	V	排列·配列	NV
派遣	NV	派遣	V	派遣	NV
判斷	NV	判断	NV	判断	NV
賠償	NV	赔偿	V	賠償	NV
膨脹	NV	膨胀	V	膨脹·膨張	NV
批評	NV	批评	V	批評	NV
期待	NV	期待	V	期待	NV
傾斜	N	倾斜	V	傾斜	NV
請求	NV	请求	NV	請求	NV
區別	NV	区别	NV	區別	NV
區分	NV	区分	V	區分	NV
忍耐	NV	忍耐	V	忍耐	NV
認識	NV	认识	NV	認識	NV
申請	NV	申请	V	申請	NV
審查	NV	审查	V	審查	NV
生產	NV	生产	V	生產	NV
生存	NV	生存	V	生存	NV
生活	NV	生活	NV	生活	NV
生長	NV	生长	V	生長	NV

省略	NV	省略	V	省略	NV
勝利	NV	胜利	V	勝利·捷利	NV
失敗	NV	失败	V	失敗	NV
使用	NV	使用	V	使用	NV
試驗	NV	试验	V	試驗	NV
收穫	NV	收获	NV	收穫·收獲	NV
輸送	NV	输送	V	輸送	NV
束縛	NV	束缚	V	束縛	NV
樹立	NV	树立	V	樹立	NV
睡眠	NV	睡眠	N	睡眠	NV
思想	N	思想	NV	思想	N
死亡	NV	死亡	V	死亡	NV
訴訟	NV	诉讼	V	訴訟	NV
損害	N	损害	V	損害	NV
損失	NV	损失	NV	損失	N
調和	NV	调和	VA	調和	NV
調節	NV	调节	V	調節	NV
停留	NV	停留	V	停留	NV
停止	NV	停止	V	停止	NV
停滯	NV	停滞	V	停滯	NV
通過	NV	通过	V(前置詞)	通過	NV
通行	NV	通行	V	通行	NV
團結	NV	团结	VA	團結	NV
推測	NV	推测	V	推測	NV
推薦	NV	推荐	V	推薦	NV
完成	NV	完成	V	完成	NV
違反	NV	违反	V	違反	NV
維持	NV	维持	V	維持	NV
委託	NV	委托	V	委託·依託	NV
位置	NV	位置	N	位置	NV
希望	NV	希望	NV	希望·冀望	NV
習慣	N	习惯	NV	習慣	N
襲擊	NV	袭击	V	襲擊	NV
消費	NV	消费	V	消費	NV
消耗	NV	消耗	NV	消耗	NV
攜帶	NV	携带	V	攜帶	NV
興奮	NV	兴奋	NVA	興奮	NV
行動	NV	行动	NV	行動	NV
行爲	N	行为	N	行為	N
休息	NV	休息	V	休息	NV
修理	NV	修理	V	修理	NV
需要	N	需要	NV	需要	N
許可	NV	许可	V	許可	NV
選舉	NV	选举	V	選舉	NV

選擇	NV	选择	V	選扨	NV
循環	NV	循环	V	循環	NV
言論	N	言论	N	言論	N
研究	NV	研究	V	研究	NV
要求	NV	要求	NV	要求	NV
醫療	N	医疗	V	医療	N
依賴	NV	依赖	V	依賴	NV
移動	NV	移动	V	移動	NV
議論	NV	议论	NV	議論	NV
印刷	NV	印刷	V	印刷	NV
優先	NV	优先	V	優先	NV
優秀	NA	优秀	A	優秀	NA
誘惑	NV	诱惑	V	誘惑	NV
娛樂	NV	娱乐	NV	娛樂	N
欲望	NV	欲望	N	欲望	N
援助	NV	援助	V	援助	NV
約束	NV	约束	V	約束	NV
運動	NV	运动	NV	運動	NV
運輸	NV	运输	V	運輸	N
運用	NV	运用	V	運用	NV
增加	NV	增加	V	增加	NV
展開	NV	展开	V	展開	NV
展望	NV	展望	V	展望	NV
占領	NV	占领	V	占領	NV
戰爭	NV	战争	N	戰爭	NV
障礙	N	障碍	NV	障礙·障害	N
徵收	NV	征收	V	徵收	NV
整理	NV	整理	V	整理	NV
證明	NV	证明	NV	証明	NV
支持	NV	支持	V	支持	NV
支出	NV	支出	NV	支出	NV
制定	NV	制定	V	制定	NV
制約	NV	制约	V	制約	NV
製造	NV	制造	V	製造	NV
製作	NV	制作	V	制作·製作	NV
治療	NV	治疗	V	治療	NV
主張	NV	主张	NV	主張	NV
注射	NV	注射	V	注射	NV
裝飾	NV	装饰	NV	裝飾	NV
裝置	NV	装置	NV	裝置	NV
綜合	NV	综合	V	綜合·総合	NV
總理	NV	总理	NV	總理	N
組織	NV	组织	NV	組織	NV
尊敬	NV	尊敬	VA	尊敬	NV

尊重	NV	尊重	VA	尊重	NV
作用	NV	作用	NV	作用	NV

[表19] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(六) (総語数: 235語)

品詞性	名詞			動詞			形容詞			副詞			その他		
国語	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
語数	234	73	235	217	221	215	4	15	7	1	2	1	0	2	0
%	99.6	31.1	100	92.3	94	91.5	1.7	6.4	2.9	0.4	0.9	0.4	0	0.9	0

同義の語基を重ねた「V+V」構造の二字字音語は、韓国語と日本語では90%以上名詞と動詞の両方の品詞性を有するのに対し、中国語では名詞で使われる語は30%ぐらいしかなく、動詞の用法を持つ語が94%で、主に動詞で使われることが分かる。

4.2.1.1.3 「A+A」構造の二字字音語と品詞性

[表20] 同義の語基を重ねた「A+A」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
安靜	NVA	安静	A	安静	NA
安全	NA	安全	A	安全	NA
悲慘	NA	悲慘	A	悲慘・悲酸	NA
便利	NA	便利	VA	便利	NVA
殘酷	NA	殘酷	A	殘酷	NA
誠實	NA	诚实	A	誠実	NA
充實	NA	充实	VA	充実	NV
純粹	NA	纯粹	AAD	純粹	NA
聰明	NA	聰明	A	聰明	NA
繁榮	NVA	繁荣	VA	繁榮	NV
豐富	A	丰富	VA	豐富	NA
乾燥	NVA	干燥	A	乾燥	NV
公平	NA	公平	A	公平	NA
公正	NA	公正	A	公正	NA
活潑	A	活泼	A	活潑・活発	NA
簡單	A	简单	A	簡單	NA
健康	NA	健康	A	健康	NA
巨大	NA	巨大	A	巨大	NA
恐怖	N	恐怖	A	恐怖	NV

空白	N	空白	N	空白	N
困難	NA	困难	NA	困難	NA
冷淡	NA	冷淡	VA	冷淡	NA
冷靜	NA	冷静	A	冷静	NA
良好	NA	良好	A	良好	NA
滿足	NVA	满足	V	满足	NVA
猛烈	A	猛烈	A	猛烈	NA
祕密	NA	秘密	NA	秘密	NA
明白	A	明白	VA	明白	NA
疲勞	NA	疲劳	A	疲劳	NV
貧乏	NA	贫乏	A	貧乏	NVA
平等	NA	平等	A	平等	NA
平凡	A	平凡	A	平凡	NA
平均	NV	平均	VA	平均	NV
謙虛	NA	谦虚	VA	謙虛	NA
謙遜	NA	谦逊	A	謙遜	NV
強烈	A	强烈	A	強烈	NA
巧妙	A	巧妙	A	巧妙	NA
親切	NA	亲切	A	親切·深切	NA
清潔	NA	清洁	A	清潔	NA
確實	A	确实	AAD	確實	NA
容易	A	容易	A	容易	NA
深刻	NVA	深刻	A	深刻	NA
慎重	NA	慎重	A	慎重	NA
適當	A	适当	A	適當	NVA
適宜	A	适宜	A	適宜	AD
特殊	NA	特殊	A	特殊	NA
同一	NA	同一	A	同一	NA
透明	NA	透明	A	透明	NA
完全	NA	完全	AAD	完全	NA
頑固	A	顽固	A	頑固	NA
危險	NA	危险	A	危險	NA
偉大	A	伟大	A	偉大	NA
溫暖	NA	温暖	VA	溫暖	NA
詳細	A	详细	A	詳細	NA
新鮮	A	新鲜	A	新鮮	NA
嚴密	A	严密	VA	嚴密	NA
嚴重	NA	严重	A	嚴重	NA
野蠻	N	野蛮	A	野蠻	NA
永久	NA	永久	A	永久	N
永遠	NA	永远	AD	永遠	N
勇敢	A	勇敢	A	勇敢	NA
憂鬱	NA	忧郁	A	憂鬱	NA
友好	N	友好	NA	友好·友交	N

幼稚	A	幼稚	A	幼稚	NA
愉快	A	愉快	A	愉快	NA
圓滿	A	圓滿	A	圓滿	NA
眞實	NA	眞實	A	眞實	NAAD
智慧・知慧	N	智慧	N	智慧・知恵	N
重大	NA	重大	A	重大	NA
重要	NA	重要	A	重要	NA
主要	NA	主要	A	主要	NA

[表21] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(七) (総語数: 71語)

品詞性	名詞			動詞			形容詞			副詞			その他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語	50	5	70	6	11	11	65	67	58	0	4	2	0	0	0
語数	50	5	70	6	11	11	65	67	58	0	4	2	0	0	0
%	70.4	7.0	98.6	8.5	15.5	15.5	91.6	94.4	81.7	0	5.6	2.8	0	0	0

同義の語基を重ねた「A+A」構造の二字字音語は、韓国語と日本語の場合は形容詞と名詞の両方の品詞性で使われる語が最も多いが、中国語の場合は形容詞で使われる語が94.4%で圧倒的に多く、次いで動詞、名詞、副詞の順で、特に名詞性の語は韓国語と日本語に比べれば、はるかに少ないほうである。

4.2.1.1.4 「AD+AD」構造の二字字音語と品詞性

[表22] 同義の語基を重ねた「AD+AD」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
交互	NV	交互	VAD	交互	NAD
全都	N	全都	AD	全都	N
相互	NAD	相互	AAD	相互	N
再三	AD	再三	AD	再三	AD

[表23] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(八) (総語数: 4語)

品詞性	名詞			動詞			形容詞			副詞			その他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語	3	0	3	1	1	0	0	1	0	2	4	2	0	0	0
語数	3	0	3	1	1	0	0	1	0	2	4	2	0	0	0
%	75	0	75	25	25	0	0	25	0	50	100	50	0	0	0

上の表で分かるように、同義の語基を重ねた「AD+AD」構造の二字字音語の中で、「再三」は三国語ともに副詞の用法で使われ、「相互」は韓国語と中国語で、「交互」は中国語と日本語で副詞の用法を持っている。「全都」の「全」「都」両語基は、中国語ではみな「すべて」という意味を表す副詞で、「全都」は「AD+AD」構造の二字字音語と言えるが、韓国語と日本語では「全体の都市」という意味しかなく、「N+N」構造の連体修飾関係の二字字音語に属する語である。従って、同義の語基を重ねた「AD+AD」構造の二字字音語は、三国語で主に副詞の用法で使われているといえることができる。

4.2.1.2 類義の語基を重ねた二字字音語と品詞性

4.2.1.2.1 「N+N」構造の二字字音語と品詞性

[表24] 類義の語基を重ねた「N+N」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
見解	N	見解	N	見解	N
見識	N	见识	NV	見識	N
權利	N	权利	N	權利	N
權威	N	权威	N	權威	N
圖書	N	图书	N	圖書	N
文藝	N	文艺	N	文芸	N
性能	N	性能	N	性能	N
知能	N	智能	N	智能・知能	N

[表25] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(九) (総語数: 8語)

品詞性	名 詞			動 詞			形 容 詞			副 詞			そ の 他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語 語数	8	8	8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
%	100	100	100	0	12.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

類義の語基を重ねた「N+N」構造の二字字音語は、「见识」が中国語で名詞と動詞の二つの品詞性を持つ外、その他の語は三国語ともに名詞の用法で使われている。

4.2.1.2.2 「V+V」構造の二字字音語と品詞性

[表26] 類義の語基を重ねた「V+V」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
観測	NV	观测	V	観測	NV
激勵	NV	激励	V	激励	NV
監督	NV	监督	NV	監督	NV
講演	NV	讲演	V	講演	NV
教訓	NV	教训	NV	教訓	NV
經濟	NV	经济	NVA	經濟	NA
警察	N	警察	N	警察	N
搜查	NV	搜查	V	搜查	NV
信賴	NV	信赖	V	信賴	NV
信仰	NV	信仰	V	信仰	NV
信用	NV	信用	NVA	信用	NV

[表27] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(十) (総語数: 11語)

品詞性	名詞			動詞			形容詞			副詞			その他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語 語数	11	5	11	10	10	9	0	2	1	0	0	0	0	0	0
%	100	45.5	100	90.9	90.9	81.8	0	18.2	9.1	0	0	0	0	0	0

類義の語基を重ねた「V+V」構造の二字字音語は、三国語で主に名詞と動詞の二つの品詞性で使われているが、その中で、中国語で名詞として使われる語の比率が45.5%で、韓国語と日本語に比べてずっと少ない。

4.2.1.2.3 「A+A」構造の二字字音語と品詞性

[表28] 類義の語基を重ねた「A+A」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
單純	NA	单纯	A	單純	NA
貴重	A	贵重	A	貴重	NVA
豪華	NA	豪华	A	豪華	NA
健全	NA	健全	VA	健全	NA
緊急	NA	紧急	A	緊急	NA
精密	NA	精密	A	精密	NA
明確	A	明确	VA	明確	NA
奇妙	A	奇妙	A	奇妙	NA
輕快	A	轻快	A	輕快	NVA
盛大	A	盛大	A	盛大	NA
妥當	A	妥当	A	妥当	NVA
正確	NA	正确	A	正確	NA
忠實	NA	忠实	A	忠実	NA

[表29] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(十一) (総語数: 13語)

品詞性	名詞			動詞			形容詞			副詞			その他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語語数	7	0	13	0	2	3	13	13	13	0	0	0	0	0	0
%	53.9	0	100	0	15.4	23.1	100	100	100	0	0	0	0	0	0

類義の語基を重ねた「A+A」構造の二字字音語は、韓国語と日本語では主に名詞と形容詞の用法で使われるのに対し、中国語では名詞の用法はなく、主に形容詞として使われている。

4.2.1.3 対義の語基を重ねた二字字音語と品詞性

4.2.1.3.1 「N+N」構造の二字字音語と品詞性

[表30] 対義の語基を重ねた「N+N」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
標本	N	标本	N	標本	N
東西	N	东西	N	東西	N
夫婦	N	夫妇	N	夫婦	N
夫妻	N	夫妻	N	夫妻	N
左右	NV	左右	NVAD	左右	NV
利害	N	利害	N	利害	N
矛盾	N	矛盾	NVA	矛盾	NV
前後	NV	前后	N	前後	NV
人物	N	人物	N	人物	N
兄弟	N	兄弟	N	兄弟	N
影響	N	影响	NVA	影響	NV
宇宙	N	宇宙	N	宇宙	N
子孫	N	子孙	N	子孫	N
姉妹	N	姊妹	N	姉妹	N

[表31] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(十二) (総語数: 14語)

品詞性	名詞			動詞			形容詞			副詞			その他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
語数	14	14	14	2	3	4	0	2	0	0	1	0	0	0	0
%	100	100	100	14.3	21.4	28.6	0	14.3	0	0	7.1	0	0	0	0

対義の語基を重ねた「N+N」構造の二字字音語は、三国語で主に名詞として使われ、「左右」「矛盾」などの語は動詞の用法でも用いられる。

4.2.1.3.2 「V+V」構造の二字字音語と品詞性

[表32] 対義の語基を重ねた「V+V」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
出入	NV	出入	NV	出入	NV
呼吸	NV	呼吸	V	呼吸	NV
上下	NV	上下	NV	上下	NV
勝敗	N	胜敗	N	勝敗	N
始終	NVAD	始终	NAD	始終	NAD
是非	NV	是非	N	是非	NAD
收支	N	收支	N	收支	N
問答	NV	问答	V	問答	NV
學問	NV	学问	N	学問	NV

[表33] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(十三) (総語数: 9語)

品詞性	名詞			動詞			形容詞			副詞			その他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語 語数	9	7	9	7	4	5	0	0	0	1	1	2	0	0	0
%	100	77.8	100	77.8	44.4	55.6	0	0	0	11.1	11.1	22.2	0	0	0

対義の語基を重ねた「V+V」構造の二字字音語は、三国語ともに名詞の用法で使われる語が最も多く、次いで動詞、副詞の順である。

4.2.1.3.3 「A+A」構造の二字字音語と品詞性

[表34] 対義の語基を重ねた「A+A」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
長短	N	长短	NAD	長短	N
大小	N	大小	NAD	大小	N
多少	NAD	多少	NAD	多少	NAD
黑白	N	黑白	N	黑白	N
早晚	N	早晚	NAD	早晚	AD

[表35] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(十四) (総語数: 5語)

品詞性	名詞			動詞			形容詞			副詞			その他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語	5	5	4	0	0	0	0	0	0	1	4	2	0	0	0
語数	5	5	4	0	0	0	0	0	0	1	4	2	0	0	0
%	100	100	80	0	0	0	0	0	0	20	80	40	0	0	0

対義の語基を重ねた「A+A」構造の二字字音語は、語基としてのもとの形容詞性を失い、結合形態は三国語ともに主として名詞の用法で使われ、中国語では副詞の用法でも多く用いられる。

4.2.1.4 疊語と品詞性

[表36] 疊語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
暗暗	A	暗暗	AD	暗暗	N
處處	N	处处	AD	处处	N
恣恣	AAD	匆匆	A	匆匆	N
紛紛	A	纷纷	AAD	紛紛	NA
浩浩	A	浩浩	A	浩浩	NA
津津	A	津津	A	津津	NA
僅僅	AD	仅仅	AD	僅僅	AD
茫茫	A	茫茫	A	茫茫	NA
默默	A	默默	AD	默默	NA
堂堂	A	堂堂	A	堂堂	NA
滔滔	A	滔滔	A	滔滔	NA
往往	AD	往往	AD	往往	AD
徐徐	AD	徐徐	AD	徐徐	AD
一一	AD	一一	AD	一一	NAD
悠悠	A	悠悠	A	悠悠	NA

[表37] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(十五) (総語数: 15語)

品詞性	名詞			動詞			形容詞			副詞			その他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語	1	0	12	0	0	0	10	8	8	5	8	4	0	0	0
語数	1	0	12	0	0	0	10	8	8	5	8	4	0	0	0
%	6.7	0	80	0	0	0	66.7	53.3	53.3	33.3	53.3	26.7	0	0	0

上の表で分かるように、疊語は三国語で一般的に形容詞と副詞として使われているが、日本語の場合は名詞の用法で使われる疊語も少なくない。

4.2.2 主述関係の二字字音語と品詞性

4.2.2.1 「N+V」構造の二字字音語と品詞性

[表38] 「N+V」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
公共	N	公共	A	公共	N
國産	N	国产	A	国産	N
國營	NV	国营	A	国营	N
國有	N	国有	V	国有	N
民主	N	民主	NA	民主	N
人工	N	人工	NA	人工	N
人造	N	人造	A	人造	N
優勝	NVA	优胜	A	優勝	NV

[表39] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(十六) (総語数: 8語)

品詞性	名 詞			動 詞			形 容 詞			副 詞			そ の 他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語 語数	8	2	8	2	1	1	1	7	0	0	0	0	0	0	0
%	100	25	100	25	12.5	12.5	12.5	87.5	0	0	0	0	0	0	0

主述関係の「N+V」構造の二字字音語は、韓国語と日本語では主に名詞の用法で使用され、中国語では主に形容詞の用法で使われているが、「民主」を除いた外の形容詞はみな述語になれない「属性詞 / 非谓形容词」で、その用法は韓国語と日本語の名詞の用法とほぼ同様であると考えられる。

4.2.2.2 「N+A」構造の二字字音語と品詞性

[表40] 「N+A」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
日常	NAD	日常	A	日常	N
頭痛	N	头痛	A	頭痛	N
性急	A	性急	A	性急	NA

[表41] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(十七) (総語数: 3語)

品詞性	名 詞			動 詞			形容詞			副 詞			その他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語 語数	2	0	3	0	0	0	1	3	1	1	0	0	0	0	0
%	66.7	0	100	0	0	0	33.3	100	33.3	33.3	0	0	0	0	0

[表40]の「日常」は、元は「太陽はいつも同じだ」という意味であったと思われるが、現在は三国語ともに「ふだん」という意味で使われる語である。「頭痛」は中国語では「頭が痛い」という意味の主述関係の「N+A」構造の二字字音語であるが、韓国語と日本語では「頭の痛み」という意味の連体修飾関係の二字字音語であると思われる。

4.2.3 修飾関係の二字字音語と品詞性

4.2.3.1 連体修飾関係の二字字音語と品詞性

4.2.3.1.1 「N+N」構造の二字字音語と品詞性

[表42] 連体修飾関係の「N+N」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
半島	N	半島	N	半島	N
半徑	N	半徑	N	半徑	N
背景	N	背景	N	背景	N
本來	NAD	本来	AAD	本来	N
本能	N	本能	NAD	本能	N
本人	N	本人	N	本人	N
本質	N	本质	N	本質	N
表面	N	表面	N	表面	N
財政	N	财政	N	財政	N
草原	N	草原	N	草原	N
側面	N	側面	N	側面	N
程度	N	程度	N	程度	N
初歩	N	初歩	A	初歩	N
初級	N	初級	A	初級	N
辭典	N	辭典・词典	N	辞典	N
單調	NA	单调	A	单調	NA
單位	N	单位	N	单位	N
當時	N	当时	NVAD	当時	N
地帶	N	地带	N	地帶	N
地點	N	地点	N	地点	N
地方	N	地方	N	地方	N
地理	N	地理	N	地理	N
地面	N	地面	N	地面	N
地球	N	地球	N	地球	N
地區	N	地区	N	地区	N
地勢	N	地势	N	地勢	N
地圖	N	地图	N	地図	N
地位	N	地位	N	地位	N
地下	N	地下	NA	地下	N
地形	N	地形	N	地形	N
地震	N	地震	NV	地震	N

地質	N	地质	N	地質	N
弟子	N	弟子	N	弟子	N
電池	N	电池	N	電池	N
電力	N	电力	N	電力	N
電流	N	电流	N	電流	N
電氣	N	电气	N	電氣	N
電壓	N	电压	N	電圧	N
電源	N	电源	N	電源	N
電子	N	电子	N	電子	N
店員	N	店员	N	店員	N
典型	N	典型	NA	典型	N
豆腐	N	豆腐	N	豆腐	N
法人	N	法人	N	法人	N
法廷·法庭	N	法庭	N	法廷	N
佛教	N	佛教	N	仏教	N
夫人	N	夫人	N	夫人	N
婦人	N	妇人	N	婦人	N
幹部	N	干部	N	幹部	N
個人	N	个人	N	個人	N
個性	N	个性	N	個性	N
各自	NAD	各自	N	各自	N
工夫	NV	工夫·功夫	N	工夫	NV
公式	N	公式	N	公式	NA
公務	N	公务	N	公務	N
公園	N	公园	N	公園	N
光線	N	光线	N	光線	N
軌道	N	轨道	N	軌道	N
國會	N	国会	N	国会	N
國籍	N	国籍	N	国籍	N
國際	N	国际	NA	國際	N
國民	N	国民	N	国民	N
國旗	N	国旗	N	国旗	N
國土	N	国土	N	国土	N
海岸	N	海岸	N	海岸	N
海外	N	海外	N	海外	N
海峽	N	海峡	N	海峽	N
漢語	N	汉语	N	漢語	N
漢字	N	汉字	N	漢字	N
後方	N	后方	N	後方	N
後期	N	后期	N	後期	N
話題	N	话题	N	話題	N
環境	N	环境	N	環境	N
會員	N	会员	N	會員	N
火山	N	火山	N	火山	N

火災	N	火灾	N	火災	N
機構	N	机构	N	機構	N
機關	N	机关	NA	機關	N
積極	NAD	积极	A	積極	N
基地	N	基地	N	基地	N
價格	N	价格	N	價格	N
醬油	N	酱油	N	醬油	N
角度	N	角度	N	角度	N
教會	N	教会	N	教會	N
今後	NAD	今后	N	今後	N
今日	N	今日	N	今日	N
金額	N	金额	N	金額	N
金融	N	金融	N	金融	N
金屬	N	金属	N	金屬	N
金魚	N	金鱼	N	金魚	N
軍備	N	军备	N	軍備	N
軍隊	N	军队	N	軍隊	N
軍艦	N	军舰	N	軍艦	N
軍人	N	军人	N	軍人	N
軍事	N	军事	N	軍事	N
科學	N	科学	NA	科學	N
客觀	N	客观	A	客觀	NV
課程	N	课程	N	課程	N
空氣	N	空气	N	空氣	N
空中	N	空中	NA	空中	N
口頭	N	口头	NA	口頭	N
鑛物	N	矿物	N	鈹物·礦物	N
理想	N	理想	NA	理想	N
歷史	N	历史	N	歷史	N
例外	N	例外	NV	例外	N
面積	N	面积	N	面積	N
面目	N	面目	N	面目	N
民間	N	民间	N	民間	N
民族	N	民族	N	民族	N
名字	N	名字	N	名字	N
模型·模形	N	模型	N	模型	N
模樣	N	模样	N	模樣	N
木材	N	木材	N	木材	N
目錄	N	目录	N	目錄	N
男性	N	男性	N	男性	N
男子	N	男子	N	男子	N
內部	N	内部	N	內部	N
內閣	N	内阁	N	內閣	N
內科	N	内科	N	內科	N

内容	N	内容	N	内容	N
内心	NAD	内心	N	内心	N
年代	N	年代	N	年代	N
年度	N	年度	N	年度	N
女性	N	女性	N	女性	N
女子	N	女子	N	女子	N
盆地	N	盆地	N	盆地	N
品質	N	品质	N	品質	N
期間	N	期间	N	期間	N
期限	NV	期限	N	期限	N
氣候	N	气候	N	氣候	N
氣體	N	气体	N	氣體	N
氣味	N	气味	N	氣味	N
氣溫	N	气温	N	氣溫	N
氣象	N	气象	N	氣象・気性	N
氣壓	N	气压	N	氣压	N
汽車	N	汽车	N	汽車	N
鉛筆	N	铅笔	N	鉛筆	N
前方	N	前方	N	前方	N
前期	N	前期	N	前期	N
情報	N	情报	N	情報	N
權力	N	权力	N	權力	N
權限	N	权限	N	權限	N
全部	NAD	全部	N	全部	N
全力	N	全力	N	全力	N
全面	N	全面	NA	全面	N
全體	N	全体	N	全体	NAD
人材・人才	N	人材・人才	N	人材	N
人間	N	人間	N	人間	N
人類	N	人类	N	人類	N
人蔘	N	人参	N	人蔘	N
人生	N	人生	N	人生	N
人事	NV	人事	N	人事	N
日程	N	日程	N	日程	N
日光	N	日光	N	日光	N
日記	N	日记	N	日記	N
日用	NV	日用	NA	日用	N
三角	N	三角	NA	三角	N
山脈	N	山脉	N	山脈	N
上等	N	上等	A	上等	NA
上級	N	上级	N	上級	N
上旬	N	上旬	N	上旬	N
社會	N	社会	N	社會	N
社員	N	社员	N	社員	N

神話	N	神话	N	神話	N
神經	N	神经	N	神經	N
石油	N	石油	N	石油	N
時機	N	时机	N	時機	N
時間	N	时间	N	時間	N
實際	N	实际	NA	實際	NAD
實力	N	实力	N	實力	N
世界	N	世界	N	世界	N
市民	N	市民	N	市民	N
勢力	N	势力	N	勢力	N
事情	NV	事情	N	事情	N
事實	NAD	事实	N	事實	NAD
事態	N	事态	N	事態	N
首都	N	首都	N	首都	N
首相	N	首相	N	首相	N
數學	N	数学	N	数学	N
數字	N	数字	N	數字	N
水分	N	水分	N	水分	N
水力	N	水力	N	水力	N
水平	N	水平	NA	水平	NA
四方	N	四方	NA	四方	N
四季	N	四季	N	四季	N
素質	N	素质	N	素質	N
他人	N	他人	N	他人	N
颱風	N	台风	N	颱風	N
體操	NV	体操	N	體操	NV
體積	N	体积	N	體積	N
體力	N	体力	N	體力	N
體溫	N	体温	N	體溫	N
體重	NA	体重	N	體重	N
天氣	N	天气	N	天氣	N
條約	N	条约	N	條約	N
鐵道	N	铁道	N	鐵道	N
圖表	N	图表	N	圖表	N
外部	N	外部	N	外部	N
外國	N	外国	N	外國	N
外交	N	外交	N	外交	N
外科	N	外科	N	外科	N
萬歲	N(感動詞)	万岁	NV	萬歲	NV(感動詞)
萬一	NAD	万一	N(接統詞)	萬一	NAD
文學	NV	文学	N	文學	N
武器	N	武器	N	武器	N
物價	N	物价	N	物價	N
物理	N	物理	N	物理	N

物體	N	物体	N	物体	N
物質	N	物质	N	物質	N
物資	N	物资	N	物資	N
系列	N	系列	N	系列	N
下旬	N	下旬	N	下旬	N
現代	N	现代	N	現代	N
現實	N	现实	NA	現實	N
現狀	N	现状	N	現狀	N
消極	N	消极	A	消極	NA
效力	N	效力	NV	効力	N
效率	N	效率	N	効率	N
心理	N	心理	N	心理	N
心臟	N	心脏	N	心臟	N
性別	N	性别	N	性別	N
性格	N	性格	N	性格	N
學科	N	学科	N	学科	N
學年	N	学年	N	學年	N
學期	N	学期	N	學期	N
學術	N	学术	N	學術	N
學說	N	学说	N	學說	N
血管	N	血管	N	血管	N
血壓	N	血压	N	血壓	N
血液	N	血液	N	血液	N
藥品	N	药品	N	藥品	N
夜間	N	夜间	N	夜間	N
液體	N	液体	N	液體	N
一般	N	一般	NA	一般	N
一旦	AD	一旦	NAD	一旦	AD
一連	N	一连	AD	一連	N
一面	NV	一面	NVAD	一面	N
一齊	N	一齐	AD	一齊	N
一切	NAD	一切	N	一切	NAD
一生	N	一生	N	一生	NAD
一時	NAD	一时	NAD	一時	N
一同	N	一同	AD	一同	N
一樣	N	一样	A	一樣	NA
醫學	N	医学	N	医学	N
義務	N	义务	NA	義務	N
藝術	NV	艺术	NA	芸術	N
議員	N	议员	N	議員	N
意外	N	意外	NA	意外	NA
意向	N	意向	N	意向·意嚮	N
銀行	N	银行	N	銀行	N
友情	N	友情	N	友情	N

原理	N	原理	N	原理	N
原料	N	原料	N	原料	N
原因	N	原因	N	原因	NV
原油	N	原油	N	原油	N
原則	N	原则	N	原則	N
原子	N	原子	N	原子	N
樂器	N	乐器	N	樂器	N
哲學	N	哲学	N	哲学	N
正月	N	正月	N	正月	N
正裝	NV	正装	N	正裝	NV
證券	N	证券	N	証券	N
政策	N	政策	N	政策	N
政黨	N	政党	N	政党	N
政府	N	政府	N	政府	N
政權	N	政权	N	政權	N
症狀	N	症状	N	症狀	N
紙幣	N	纸币	N	紙幣	N
中年	N	中年	N	中年	N
中途	N	中途	N	中途	N
中學	N	中学	N	中学	N
中旬	N	中旬	N	中旬	N
週末	N	周末	N	週末	N
主觀	N	主观	A	主觀	N
主人	N	主人	N	主人	N
主體	N	主体	N	主体	N
資料	N	资料	N	資料	N
資源	N	资源	N	資源	N
祖父	N	祖父	N	祖父	N
祖國	N	祖国	N	祖国	N
祖母	N	祖母	N	祖母	N

[表43] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(十八) (総語数: 281語)

品詞性	名詞			動詞			形容詞			副詞			その他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語	280	268	280	10	6	6	2	29	7	11	9	7	1	1	1
語数	280	268	280	10	6	6	2	29	7	11	9	7	1	1	1
%	99.6	95.4	99.6	3.6	2.1	2.1	0.7	10.3	2.5	3.9	3.2	2.5	0.4	0.4	0.4

連体修飾関係の「N+N」構造の二字字音語は、韓国語と日本語では「一旦」を除いたすべての語に名詞の用法があり、中国語でも95%以上の語が名詞の用法で用いられ、三国語で主に名詞として使われていることが分かる。

4.2.3.1.2 「(N→V)+N」構造の二字字音語と品詞性

[表44] 連体修飾関係の「(N→V)+N」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
電報	NV	电报	N	電報	N
電車	N	电车	N	電車	N
電燈	N	电灯	N	電灯	N
電話	NV	电话	N	電話	NV
電線	N	电线	N	電線	N
方針	N	方针	N	方針	N
化學	N	化学	N	化学	N
會場	N	会场	N	会場	N
家畜	N	家畜	N	家畜	N
家具	N	家具	N	家具	N
劇場	N	剧场	N	劇場	N
口語	N	口语	N	口語	N
林業	N	林业	N	林業	N
旅館	N	旅馆	N	旅館	N
美術	N	美术	N	美術	N
詩人	N	诗人	N	詩人	N
實物	N	实物	N	実物	N
手術	NV	手术	NV	手術	NV
水産	N	水产	N	水産	N
體育	N	体育	N	体育	N
天才	N	天才	N	天才	N
現金	N	现金	N	現金	NA
刑事	N	刑事	A	刑事	N
職員	N	职员	N	職員	N

[表45] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(十九) (総語数: 24語)

品詞性	名詞			動詞			形容詞			副詞			その他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語	24	23	24	3	1	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0
語数	24	23	24	3	1	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0
%	100	95.8	100	12.5	4.2	8.3	0	4.2	4.2	0	0	0	0	0	0

上の表で、連体修飾関係の「(N→V)+N」構造の二字字音語も、三国語ともに主に名詞として使われていることが分かる。

4.2.3.1.3 「V+N」構造の二字字音語と品詞性

[表46] 連体修飾関係の「V+N」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
愛情	N	爱情	N	愛情	N
報酬	NV	报酬	N	報酬	N
繃帶	N	绷带	N	繃帶	N
標識	N	标识·标志	NV	標識	N
表情	N	表情	NV	表情	N
病人	N	病人	N	病人	N
産地	N	产地	N	産地	N
産業	N	产业	N	産業	N
成分	N	成分·成份	N	成分	N
成果	N	成果	N	成果	N
成績	N	成绩	N	成績	N
成人	NV	成人	NV	成人	NV
乗客	N	乘客	N	乗客	N
出身	N	出身	NV	出身	N
傳説	N	传说	NV	伝説	N
傳統	N	传统	NA	伝統	N
炊事	NV	炊事	N	炊事	NV
答案	N	答案	N	答案	N
導師	N	导师	N	導師	N
導體	N	导体	N	導體	N
定價	NV	定价	NV	定価	N
定期	N	定期	VA	定期	N
動機	N	动机	N	動機	N
動力	N	动力	N	動力	N
動物	N	动物	N	動物	N
讀者	N	读者	N	読者	N
對策	N	对策	NV	対策	N
對話	NV	对话	NV	対話	NV
對象	N	对象	N	対象	N
反感	N	反感	NA	反感	N
反面	NV	反面	NA	反面	NAD
犯人	N	犯人	N	犯人	N
肥料	N	肥料	N	肥料	N
分母	N	分母	N	分母	N
分數	N	分数	N	分数	N
分子	N	分子·份子	N	分子	N
概念	N	概念	N	概念	N
感情	N	感情	N	感情	N

感想	N	感想	N	感想	N
歌手	N	歌手	N	歌手	N
耕地	N	耕地	NV	耕地	N
工事	N	工事	N	工事	NV
工業	N	工业	N	工業	N
工藝	N	工艺	N	工芸	N
觀點	N	观点	N	觀點	N
觀念	N	观念	N	觀念	NV
過程	N	过程	N	過程	N
畫家	N	画家	N	画家	N
患者	N	患者	N	患者	N
貨物	N	货物	N	貨物	N
集會	NV	集会	NV	集会	NV
集團	N	集团	N	集团	N
記號	N	记号	N	記号	N
記者	N	记者	N	記者	N
講座	N	讲座	N	講座	N
焦點	N	焦点	N	焦点	N
教師	N	教师	N	教師	N
教室	N	教室	N	教室	N
教員	N	教员	N	教員	N
結局	NVAD	结局	N	結局	AD
結論	NV	结论	N	結論	N
經費	N	经费	N	經費	N
經歷	NV	经历	NV	經歷	N
課題	N	课题	N	課題	N
來年	N	来年	N	來年	N
理論	N	理论	NV	理論	N
聯邦	N	联邦	N	聯邦·連邦	N
列車	N	列车	N	列車	N
臨時	N	临时	AAD	臨時	N
領土	N	领土	N	領土	N
領域	N	领域	N	領域	N
流域	N	流域	N	流域	N
旅客	N	旅客	N	旅客	N
論文	N	论文	N	論文	N
祕書	N	秘书	N	祕書	N
目標	NV	目标	N	目標	N
目的	NV	目的	N	目的	N
牧場	N	牧场	N	牧場	N
能力	N	能力	N	能力	N
農場	N	农场	N	農場	N
農村	N	农村	N	農村	N
農民	N	农民	N	農民	N

農業	N	农业	N	農業	N
起點	N	起点	N	起点	N
起源·起原	NV	起源	NV	起源·起原	N
去年	N	去年	N	去年	N
缺點	N	缺点	N	欠点	N
燃料	N	燃料	N	燃料	N
任務	N	任务	N	任務	N
容積	N	容积	N	容積	N
容器	N	容器	N	容器	N
溶液	N	溶液	N	溶液	N
商店	N	商店	N	商店	N
商品	N	商品	N	商品	N
商人	N	商人	N	商人	N
商業	NV	商业	N	商業	N
生理	NV	生理	N	生理	N
生命	N	生命	N	生命	N
生物	N	生物	N	生物	N
食品	N	食品	N	食品	N
食堂	N	食堂	N	食堂	N
食物	N	食物	N	食物	N
食慾	N	食欲	N	食欲·食慾	N
市場	N	市场	N	市場	N
視覺	N	视觉	N	視覺	N
視力	N	视力	N	視力	N
視線	N	视线	N	視線	N
視野	N	视野	N	視野	N
死刑	NV	死刑	N	死刑	N
通貨	N	通货	N	通貨	N
同盟	NV	同盟	NV	同盟	NV
團體	N	团体	N	团体	N
委員	N	委员	N	委員	N
衛星	N	卫星	NA	衛星	N
問題	N	问题	N	問題	N
舞臺	N	舞台	N	舞台	N
先生	N	先生	N	先生	N
現象	N	现象	N	現象	N
限度	N	限度	N	限度	N
孝子	N	孝子	N	孝子	N
選手	N	选手	N	選手	N
學費	N	学费	N	學費	N
學會	N	学会	N	学会	N
學歷	N	学历	N	學歷	N
學生	N	学生	N	學生	N
學校	N	学校	N	學校	N

學者	N	学者	N	学者	N
壓力	N	压力	N	压力	N
宴會	N	宴会	N	宴会	N
養分	N	养分	N	养分	N
議會	N	议会	N	議會	N
印象	N	印象	N	印象	N
用法	NV	用法	N	用法	N
用途	N	用途	N	用途	N
漁業	N	渔业	N	漁業	N
浴室	N	浴室	N	浴室	N
蒸氣	N	蒸气	N	蒸氣	N
證據	N	证据	N	証拠	N
植物	N	植物	N	植物	N
製品	NV	制品	N	製品	N
終點	N	终点	N	終点	N
助手	N	助手	N	助手	N
住所	N	住所	N	住所	N
住宅	N	住宅	N	住宅	N
作法	NV	作法	NV	作法	N
作家	N	作家	N	作家	N
作品	N	作品	N	作品	N
作物	N	作物	N	作物	N
作者	N	作者	N	作者	N

[表47] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(二十) (総語数: 149語)

品詞性	名 詞			動 詞			形 容 詞			副 詞			その他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語 語数	149	147	148	20	16	7	0	6	0	1	1	2	0	0	0
%	100	98.7	99.3	13.4	10.7	4.7	0	4.0	0	0.7	0.7	1.3	0	0	0

連体修飾関係の「V+N」構造の二字字音語も、三国語で主に名詞として用いられているが、前の「N+N」構造と「(N→V)+N」構造に比べて動詞の用法で使われる語が割合に多いのが特徴である。これらの動詞の用法で使われる語の多くは述目関係の「V+N」構造の二字字音語と見なすことができる。例えば、「作法」は「作る方法」という意味で使われる場合は連体修飾関係の語になり、「法を作る」という意味で使われる場合は述目関係の語になる。

4.2.3.1.4 「A+N」構造の二字字音語と品詞性

[表48] 連体修飾関係の「A+N」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
白菜	N	白菜	N	白菜	N
寶石	N	宝石	N	宝石	N
悲劇	N	悲剧	N	悲劇	N
暴力	N	暴力	N	暴力	N
博士	N	博士	N	博士	N
博物	N	博物	N	博物	N
長期	N	长期	N	長期	N
常識	N	常识	N	常識	N
誠意	N	诚意	N	誠意	N
赤道	N	赤道	N	赤道	N
大半	N	大半	NAD	大半	N
大臣	N	大臣	N	大臣	N
大膽	NA	大胆	A	大胆	NA
大概	NAD	大概	NAAD	大概	NAD
大會	NV	大会	N	大会	N
大家	N	大家	N	大家	N
大量	N	大量	A	大量	N
大陸	N	大陆	N	大陸	N
大使	N	大使	N	大使	N
大體	NAD	大体	NAD	大体	NAD
大學	N	大学	N	大学	N
大衆	N	大众	N	大衆	N
低溫	N	低温	N	低溫	N
短期	N	短期	N	短期	N
多數	NA	多数	N	多数	N
高等	NA	高等	A	高等	NA
高度	NA	高度	NA	高度	NA
高級	NA	高级	A	高級	NA
高速	N	高速	A	高速	N
古代	N	古代	N	古代	N
古典	N	古典	NA	古典	N
固體	N	固体	N	固体	N
故郷	N	故乡	N	故郷	N
黑板	N	黑板	N	黑板	N
紅茶	N	红茶	N	紅茶	N
洪水	N	洪水	N	洪水	N
幻想	N	幻想	NV	幻想	NV
黃金	N	黄金	NA	黃金	N

活力	N	活力	N	活力	N
傑作	N	杰作	N	傑作	NA
近代	N	近代	N	近代	N
空間	N	空间	N	空間	N
空想	NV	空想	NV	空想	NV
昆蟲	N	昆虫	N	昆虫	N
老人	N	老人	N	老人	N
良心	N	良心	N	良心	N
綠茶	N	绿茶	N	綠茶	N
密度	N	密度	N	密度	N
敏感	A	敏感	A	敏感	NA
名人	N	名人	N	名人	N
暖氣· 煖氣	N	暖气	N	暖氣	NA
平面	N	平面	N	平面	N
平日	N	平日	N	平日	N
奇蹟	N	奇迹	N	奇跡· 奇蹟	N
親友	N	亲友	N	親友	N
青春	N	青春	N	青春	N
青年	N	青年	N	青年	N
曲線	N	曲线	N	曲線	N
熱帶	N	热带	N	熱帶	N
熱心	N	热心	A	熱心	NA
弱點	N	弱点	N	弱点	N
少數	N	少数	N	少数	N
少年	N	少年	N	少年	N
少女	N	少女	N	少女	N
深夜	N	深夜	N	深夜	N
濕度	N	湿度	N	湿度	N
速度	N	速度	N	速度	N
太陽	N	太阳	N	太陽	N
特色	N	特色	N	特色	N
特徵	NV	特征	N	特徵	N
同時	N	同时	N(接續詞)	同時	N
同樣	N	同样	A	同樣	NA
同志	N	同志	N	同志	N
晚年	N	晚年	N	晚年	N
危機	N	危机	N	危機	N
溫帶	N	温带	N	温帶	N
溫度	N	温度	N	溫度	N
小便	N	小便	NV	小便	NV
小數	N	小数	N	小數	N
小說	N	小说	N	小說	N
小學	N	小学	N	小學	N
新年	N	新年	N	新年	N

新人	N	新人	N	新人	N
新聞	N	新闻	N	新聞	N
幸運	N	幸运	NA	幸運・好運	NA
要點	N	要点	N	要点	N
要素	N	要素	N	要素	N
野心	N	野心	N	野心	N
疑問	NV	疑问	N	疑問	N
勇氣	N	勇气	N	勇氣	N
友人	N	友人	N	友人	N
幼兒	N	幼儿	N	幼兒	N
輿論	N	舆论	N	輿論	N
雜誌	N	杂志	N	雜誌	N
眞理	N	真理	N	眞理	N
眞相	N	真相	N	眞相	N
整數	N	整数	N	整数	N
正常	N	正常	A	正常	NA
正面	N	正面	NA	正面	NV
正式	N	正式	A	正式	NA
正義	N	正义	NA	正義	N
直徑	N	直径	N	直径	N
直線	N	直线	NA	直線	N
重點	N	重点	NAD	重点	N
重量	N	重量	N	重量	N
主任	N	主任	N	主任	N
主食	N	主食	N	主食	N
主題	N	主题	N	主題	N
主義	N	主义	N	主義	N

[表49] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(二十一) (総語数: 109語)

品詞性	名詞			動詞			形容詞			副詞			その他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語	108	99	109	4	3	4	6	18	12	2	4	2	0	1	0
語数	108	99	109	4	3	4	6	18	12	2	4	2	0	1	0
%	99.1	90.8	100	3.7	2.8	3.7	5.5	16.5	11.0	1.8	3.7	1.8	0	0.9	0

連体修飾関係の「A+N」構造の二字字音語は、三国語で主として名詞で使用される外に、形容詞の用法で使われる語も少なくないが、その中で中国語の半分以上の語(18語中12語)は「属性詞 / 非谓形容词」として使われる語である。

4.2.3.1.5 「AD+N」構造の二字字音語と品詞性

[表50] 連体修飾関係の「AD+N」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
最初	N	最初	N	最初	N
最後	N	最后	N	最後	N
最近	N	最近	N	最近	N

[表51] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(二十二) (総語数: 3語)

品詞性	名詞			動詞			形容詞			副詞			その他		
	韓国	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語語数	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
%	100	100	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

連体修飾関係の「AD+N」構造の二字字音語は、上の表で分かるように、3語全部名詞の用法で使われている。

4.2.3.2 連用修飾関係の二字字音語と品詞性

4.2.3.2.1 「AD+V」構造の二字字音語と品詞性

[表52] 連用修飾関係の「AD+V」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
必需	N	必需	V	必需	N
必要	NA	必要	A	必要	NA
不可	NA	不可	V(助詞)	不可	N
不要	A	不要	AD	不要・不用	NA
常用	NV	常用	A	常用	NV
獨裁	NV	独裁	V	独裁	NV
獨立	NV	独立	V	独立	NV
否定	NV	否定	VA	否定	NV
共和	NV	共和	N	共和	N
固有	NA	固有	A	固有	NA
假定	NV	假定	NV	假定	NV

將來	NAD	将来	N	将来	NV
交換	NV	交换	V	交換	NV
交際	NV	交际	V	交際	NV
交流	NV	交流	V	交流	NV
交渉	NV	交涉	V	交渉	NV
交替	NV	交替	V	交替	NV
交通	NV	交通	NV	交通	NV
肯定	NV	肯定	VAAD	肯定	NV
特別	NA	特別	AAD	特別	NA
特定	NVA	特定	A	特定	NV
通用	NV	通用	V	通用	NV
未來	N	未来	NA	未来	N
誤解	NV	误解	NV	誤解	NV
現在	N	现在	N	現在	NV
相當	NA	相当	VAAD	相当	NVAAD
相對	NV	相对	VA	相對・相待	N
相應	NV	相应	V	相應	NVA
豫報	NV	预报	V	予報	NV
豫備	NV	预备	V	予備	N
豫測	NV	预测	V	予測	NV
豫定	NV	预定	V	予定	NV
豫防	NV	预防	V	予防	NV
豫期	NV	预期	V	予期	NV
豫算	NV	预算	NV	予算	N
豫習	NV	预习	V	予習	NV
豫想	NV	预想	NV	予想	NV
豫約	NV	预约	V	予約	NV
再會	NV	再会	V	再会	NV
再生	NV	再生	V	再生	NV
直接	NAD	直接	A	直接	NVAD
專用	NV	专用	V	專用	NV

[表53] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(二十三) (総語数: 42語)

品詞性	名詞			動詞			形容詞			副詞			その他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語	41	9	42	31	31	31	7	11	6	2	4	2	0	1	0
語数	41	9	42	31	31	31	7	11	6	2	4	2	0	1	0
%	97.6	21.4	100	73.8	73.8	73.8	16.7	26.2	14.3	4.8	9.5	4.8	0	2.4	0

連用修飾関係の「AD+V」構造の二字字音語の品詞性は、三国語でさまざまな様相を呈している。韓国語と日本語の場合は名詞の用法が最も多く、次いで動詞、形容

詞、副詞の順であるが、中国語の場合は動詞の用法で使われる語が最も多く、次いで形容詞、名詞、副詞の順で、名詞の用法で使われる語の比率は韓国語と日本語に比べてはるかに少ない。

4.2.3.2.2 「(N→AD)+V」構造の二字字音語と品詞性

[表54] 連用修飾関係の「(N→AD)+V」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
筆記	NV	笔记	NV	筆記	NV
敵對	NV	敌对	A	敵対	NV
敵視	NV	敌视	V	敵視	NV
低下	NV	低下	A	低下	NV
公開	NV	公开	VA	公開	NV
後悔	NV	后悔	V	後悔	NV
後退	NV	后退	V	後退	NV
間接	N	间接	A	間接	N
前進	NV	前进	V	前進	NV
前提	NV	前提	N	前提	N
上昇・上升	NV	上升	V	上昇	NV
實施	NV	实施	V	実施	NV
實習	NV	实习	V	實習	NV
實現	NV	实现	V	實現	NV
實行	NV	实行	V	实行	NV
實驗	NV	实验	NV	実験	NV
實用	NV	实用	VA	实用	N
體驗	NV	体验	V	体験	NV
外出	NV	外出	V	外出	NV
外觀	N	外观	N	外觀	N
文化	N	文化	N	文化	N
文明	N	文明	NA	文明	N
形成	NV	形成	V	形成	NV
一定	NA	一定	AAD	一定	NVAD
一致	NV	一致	AAD	一致	NV
意識	NV	意识	NV	意識	NV
意圖	NV	意图	N	意図	NV
政治	NV	政治	N	政治	N
中斷	NV	中断	V	中断	NV
中立	N	中立	V	中立	NV
自動	NV	自动	AAD	自動・自働	N

自覺	NV	自覚	VA	自覺	NV
自殺	NV	自杀	V	自殺	NV
自衛	NV	自卫	V	自衛	NV
自信	NV	自信	V	自信	N
自由	N	自由	NA	自由	NA
自主	N	自主	V	自主	N

[表55] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(二十四) (総語数: 37語)

品詞性	名詞			動詞			形容詞			副詞			その他		
	韓国	中	日	韓国	中	日	韓国	中	日	韓国	中	日	韓国	中	日
国語語数	37	10	37	29	24	26	1	11	1	0	3	1	0	0	0
%	100	27.0	100	78.4	64.9	70.3	2.7	29.7	2.7	0	8.1	2.7	0	0	0

連用修飾関係の「(N→AD)+V」構造の二字字音語は、韓国語と日本語では主に名詞と動詞の用法で使われる反面、中国語では主に動詞の用法で使われ、名詞と形容詞の用法で使われる語もほぼ30%に達し、少なくない比率を占めている。

4.2.3.2.3 「(A→AD)+V」構造の二字字音語と品詞性

[表56] 連用修飾関係の「(A→AD)+V」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
安定	NV	安定	VA	安定	NV
暗示	NV	暗示	V	暗示	NV
沈黙	NV	沉默	VA	沈黙	NV
悪化	NV	恶化	V	悪化	NV
孤立	NV	孤立	VA	孤立	NV
固定	NV	固定	VA	固定	NV
廣告	NV	广告	N	広告	NV
歡迎	NV	欢迎	V	歓迎	NV
活動	NV	活动	NVA	活動	NV
活躍	NV	活跃	VA	活躍	NV
緊張	NV	紧张	A	緊張	NV
朗讀	NV	朗读	V	朗読	NV
浪費	NV	浪费	V	浪費	NV
樂觀	NV	乐观	A	樂觀	NV
利用	NV	利用	V	利用	NV

平行	NV	平行	VA	平行	NV
普及	NV	普及	V	普及	NV
普通	NAD	普通	A	普通	NAAD
強盗	N	強盗	N	強盗	N
強調	NV	強調	V	強調	NV
強化	NV	強化	V	強化	NV
強制	NV	強制	V	強制	NV
勤勞	NV	勤勞	A	勤勞	NV
確保	NV	確保	V	確保	NV
確定	NV	確定	VA	確定	NV
確立	NV	確立	V	確立	NV
確認	NV	確認	V	確認	NV
確信	NV	確信	NV	確信	NV
散歩	NV	散歩	V	散歩	NV
適應	NV	适应	V	適應	NV
適用	NV	适用	A	適用	NV
妥協	NV	妥協	V	妥協	NV
微笑	NV	微笑	NV	微笑	NV
汚染	NV	汚染	V	汚染	NV
正當	A	正当	VA	正当	NA
重視	NV	重视	V	重視	NV

【表57】韓・中・日三国語の品詞性の比較(二十五) (総語数: 36語)

品詞性	名詞			動詞			形容詞			副詞			その他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語語数	35	5	36	33	29	33	1	14	2	1	0	1	0	0	0
%	97.2	13.9	100	91.7	80.6	91.7	2.8	38.9	5.6	2.8	0	2.8	0	0	0

連用修飾関係の「(A→AD)+V」構造の二字字音語も、「(N→AD)+V」構造の二字字音語と大体同じく、韓国語と日本語では主に名詞と動詞の用法で使われるのに対し、中国語では主に動詞の用法で使われ、形容詞の用法で使われる語も38.9%で、割合に大きい比率を占めている。

4.2.3.2.4 「AD+A」構造の二字字音語と品詞性

[表58] 連用修飾関係の「AD+A」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
不安	NA	不安	A	不安	NA
不利	NA	不利	A	不利	NA
不良	NA	不良	A	不良	NA
不満	NA	不満	A	不満	NA
不平	NVA	不平	NA	不平	NA
不幸	NA	不幸	NA	不幸	NA
不足	NA	不足	VA	不足	NVA
獨特	NA	独特	A	独特	NA

[表59] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(二十六) (総語数: 8語)

品詞性	名 詞			動 詞			形 容 詞			副 詞			そ の 他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語 語数	8	2	8	1	1	1	8	8	8	0	0	0	0	0	0
%	100	25	100	12.5	12.5	12.5	100	100	100	0	0	0	0	0	0

上の表で、連用修飾関係の「AD+A」構造の二字字音語は、韓国語と日本語では主として名詞と形容詞の用法で使われ、中国語では主として形容詞の用法で使われていることが分かる。

4.2.4 述目関係の「V+N」構造の二字字音語と品詞性

[表60] 述目関係の「V+N」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
安心	NV	安心	VA	安心・安神	NVA
保健	N	保健	V	保健	N
保険	N	保险	NVA	保険	N
徹底	NA	彻底・澈底	A	徹底	NV
成功	NV	成功	VA	成功	NV
充分	A	充分	A	充分	NA
抽象	N	抽象	VA	抽象	NV
出版	NV	出版	V	出版	NV
出世	NV	出世	V	出世	NV
出席	NV	出席	V	出席	NV
除外	NV	除外	V	除外	NV
創作	NV	创作	NV	創作	NV
辭職	NV	辞职	V	辭職	NV
從事	NV	从事	V	從事	NV
當選	NV	当选	V	当選	NV
到底	A	到底	VAD	到底	AD
讀書	NV	读书	V	讀書	NV
發病	NV	发病	V	發病	NV
發電	NV	发电	V	發電	NV
發言	NV	发言	NV	發言	NV
犯罪	NV	犯罪	V	犯罪	N
非常	NA	非常	AAD	非常	NA
分類	NV	分类	V	分類	NV
負傷	NV	负伤	V	負傷	NV
乾杯	NV	干杯	V	乾杯	NV
革命	NV	革命	VA	革命	N
關心	NV	关心	V	關心	N
觀光	NV	观光	V	觀光	N
航海	NV	航海	V	航海	NV
航空	NV	航空	V	航空	N
合格	NV	合格	A	合格	NV
合理	NA	合理	A	合理	N
集中	NV	集中	VA	集中・集注	NV
加工	NV	加工	V	加工	NV
加熱	NV	加热	V	加熱	NV
加速	NV	加速	V	加速	NV
講義	NV	讲义	N	講義	NV
接近	NV	接近	V	接近	NV

結果	N	结果	NV(接統詞)	結果	NV
結婚	NV	结婚	V	結婚	NV
結晶	NV	结晶	NV	結晶	NV
進步	NV	进步	VA	進步	NV
經驗	NV	经验	NV	經驗	NV
就職	NV	就职	V	就職	NV
具體	N	具体	VA	具体	N
決算	NV	决算	N	決算	NV
決心	NV	决心	NV	決心	NV
決議	NV	决议	N	決議	NV
絕對	NAD	绝对	AAD	絕對·絕待	NAD
絕望	NV	绝望	V	絕望	NV
開會	NV	开会	V	開会	NV
看病	NV	看病	V	看病	NV
抗議	NV	抗议	V	抗議	NV
離婚	NV	离婚	V	離婚	NV
理髮	NV	理发	V	理髮	NV
領事	N	领事	N	領事	N
錄音	NV	录音	NV	錄音	NV
冒險	NV	冒险	V	冒險	NV
努力	NV	努力	VA	努力	NV
評價	NV	评价	NV	評價	NV
破產	NV	破产	V	破產	NV
企業	NV	企业	N	企業	N
切實	A	切实	A	切實	NA
缺席	NV	缺席	V	欠席	NV
讓步	NV	让步	V	讓步	NV
任命	NV	任命	V	任命	NV
入手	NV	入手	V	入手	NV
入學	NV	入学	V	入學	NV
設計	NV	设计	NV	設計	NV
攝影	NV	摄影	V	攝影	NV
失望	NV	失望	VA	失望	NV
失業	NV	失业	V	失業	NV
算數	N	算数	V	算数	N
提案	NV	提案	N	提案	NV
挑戰	NV	挑战	V	挑戰	NV
通話	NV	通话	V	通話	NV
通信	NV	通信	V	通信	NV
同情	NV	同情	V	同情	NV
同意	NV	同意	V	同意	NV
投票	NV	投票	V	投票	NV
投資	NV	投资	NV	投資	NV
推理	NV	推理	V	推理	NV

衛生	N	卫生	NA	衛生	N
握手	NV	握手	V	握手	NV
無理	NVA	无理	V	無理	NVA
無論・毋論	NAD	无论	(接統詞)	無論	AD
無數	A	无数	VA	無数	NA
無限	NA	无限	A	無限	NA
無効	NA	无效	V	無効	NA
想像	NV	想像・想象	NV	想像	NV
象徴	NV	象征	NV	象徴	NV
消毒	NV	消毒	V	消毒	NV
行政	N	行政	NV	行政	N
宣言	NV	宣言	NV	宣言	NV
延期	NV	延期	V	延期	NV
移民	NV	移民	NV	移民	NV
異常	NA	异常	AAD	異常	NA
營業	NV	营业	V	營業	NV
用心	NV	用心	NA	用心	NV
用意	NV	用意	N	用意	NV
有力	NA	有力	A	有力	NA
有利	NA	有利	A	有利	NA
有名	NA	有名	A	有名	NA
有効	NA	有效	V	有効	NA
有益	NA	有益	A	有益	NA
注意	NV	注意	V	注意	NV
専門	NV	专门	AAD	専門	N
着手	NV	着手	V	着手	NV
作文	NV	作文	NV	作文	NV
作業	NV	作业	NV	作業	NV

[表61] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(二十七) (総語数: 110語)

品詞性	名詞			動詞			形容詞			副詞			その他		
	韓国語	中国語	日本語	韓国語	中国語	日本語	韓国語	中国語	日本語	韓国語	中国語	日本語	韓国語	中国語	日本語
語数	106	27	108	84	86	80	16	27	14	2	5	3	0	2	0
%	96.4	24.6	98.2	76.4	78.2	72.7	14.6	24.6	12.7	1.8	4.6	2.7	0	1.8	0

述目関係の「V+N」構造の二字字音語は、韓国語と日本語では名詞の用法で使われる語が最も多く、次いで動詞、形容詞、副詞の順であり、主に名詞と動詞の用法で使われていることが分かる。中国語では動詞の用法で使われる語が最も多く、次いで名詞、形容詞、副詞、接統詞の順であり、主として動詞の用法で使われているという

ことができる。

4.2.5 述補関係の二字字音語と品詞性

4.2.5.1 「V+V」構造の二字字音語と品詞性

[表62] 述補関係の「V+V」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
包装	NV	包装	NV	包装	NV
保存	NV	保存	V	保存	NV
保護	NV	保护	V	保護	NV
保守	NV	保守	VA	保守	NV
保障	NV	保障	NV	保障	NV
保證	NV	保证	NV	保証	NV
暴露	NV	暴露	V	暴露	NV
爆發	NV	爆发	V	爆発	NV
辯護	NV	辩护	V	辯護・弁護	NV
補助	NV	补助	NV	補助	NV
採集	NV	采集	V	採集	NV
採用	NV	采用	V	採用	NV
參觀	NV	参观	V	參觀	NV
參考	NV	参考	V	参考	NV
參議	N	参议	NV	參議	NV
測定	NV	测定	V	測定	NV
成立	NV	成立	V	成立	NV
成長	NV	成长	V	成長	NV
持續	NV	持续	V	持續	NV
崇拜	NV	崇拜	V	崇拜	NV
出發	NV	出发	V	出發	NV
傳染	NV	传染	V	伝染	NV
創立	NV	创立	V	創立	NV
創造	NV	创造	V	創造	NV
促進	NV	促进	V	促進	NV
代表	NV	代表	NV	代表	NV
代理	NV	代理	V	代理	NV
登記	NV	登记	V	登記	NV
斷定	NV	断定	V	断定	NV
對抗	NV	对抗	V	對抗	NV
對立	NV	对立	V	對立	NV

對應	NV	对应	VA	対応	NV
對照	NV	对照	V	対照	NV
發達	NV	发达	VA	発達	NV
發行	NV	发行	V	発行	NV
發揮	NV	发挥	V	發揮	NV
發育	NV	发育	V	發育	NV
發展	NV	发展	V	發展	NV
反抗	NV	反抗	V	反抗	NV
反應	NV	反应	NV	反応	NV
反映	NV	反映	V	反映	NV
防止	NV	防止	V	防止	NV
訪問	NV	访问	V	訪問	NV
飛行	NV	飞行	V	飛行	NV
復活	NV	复活	V	復活	NV
復習	NV	复习	V	復習	NV
改造	NV	改造	V	改造	NV
感動	NV	感动	VA	感動	NV
感激	NV	感激	V	感激	NV
感染	NV	感染	V	感染	NV
感謝	NVA	感谢	V	感謝	NV
構成	NV	构成	NV	構成	NV
構想	NV	构想	NV	構想	NV
構造	NV	构造	NV	構造	N
規定	NV	规定	NV	規定	NV
過去	N	过去	NV	過去	N
合唱	NV	合唱	V	合唱	NV
合成	NV	合成	V	合成	NV
候補	N	候补	V	候補	N
會話	NV	会话	V	會話	NV
會談	NV	会谈	V	會談	NV
會議	NV	会议	N	會議	NV
獎勵	NV	奖励	V	獎勵	NV
教授	NV	教授	NV	教授	NV
教養	NV	教养	NV	教養	N
教育	NV	教育	NV	教育	NV
揭示	NV	揭示	V	揭示	NV
結合	NV	结合	V	結合	NV
解答	NV	解答	V	解答	NV
解決	NV	解决	V	解決	NV
進行	NV	进行	V	進行	NV
警告	NV	警告	NV	警告	NV
開發	NV	开发	V	開發	NV
開放	NV	开放	VA	開放	NV
克服	NV	克服	V	克服	NV

聯想	NV	联想	V	聯想·連想	NV
留學	NV	留学	V	留学	NV
流通	NV	流通	V	流通	NV
流行	NV	流行	V	流行	NV
迷信	NV	迷信	V	迷信	N
批判	NV	批判	V	批判	NV
評論	NV	评论	NV	評論	NV
破壞	NV	破坏	V	破壞	NV
侵略	NV	侵略	V	侵略·侵掠	NV
侵入	NV	侵入	V	侵入	NV
傾向	N	倾向	NV	傾向	N
掃除	NV	扫除	V	掃除	NV
設備	NV	设备	NV	設備	NV
設立	NV	设立	V	設立	NV
審判	NV	审判	V	審判	NV
收集·蒐集	NV	收集	V	收集·蒐集	NV
收入	NV	收入	NV	收入	N
輸出	NV	输出	V	輸出	NV
輸入	NV	输入	V	輸入	NV
提供	NV	提供	V	提供	NV
調整	NV	调整	V	調整	NV
通知	NV	通知	NV	通知	NV
統計	N	统计	V	統計	NV
統一	NV	统一	VA	統一	NV
突破	NV	突破	V	突破	NV
吸收	NV	吸收	V	吸收	NV
消化	NV	消化	V	消化	NV
協定	NV	协定	NV	協定	NV
協議	NV	协议	NV	協議	NV
休養	NV	休养	V	休養	NV
宣傳	NV	宣传	V	宣傳	NV
削減	NV	削减	V	削減	NV
學習	NV	学习	V	學習	NV
訓練·訓練	NV	训练	V	訓練	NV
壓迫	NV	压迫	V	壓迫	NV
壓縮	NV	压缩	V	壓縮	NV
演出	NV	演出	V	演出	NV
演說	NV	演说	NV	演說	NV
演習	NV	演习	V	演習	NV
演奏	NV	演奏	V	演奏	NV
遺傳	NV	遗传	V	遺傳	NV
抑制	NV	抑制	V	抑制	NV
引用	NV	引用	V	引用	NV
營養	N	营养	N	營養·榮養	N

應用	NV	应用	VA	応用	NV
運轉	NV	运转	V	運轉	NV
栽培	NV	栽培	V	栽培	NV
贊成	NV	赞成	V	贊成	NV
展覽	NV	展览	V	展覽	NV
展示	NV	展示	V	展示	NV
招待	NV	招待	V	招待	NV
診斷	NV	诊断	V	診斷	NV
振動	NV	振动	V	振動	NV
蒸發	NV	蒸发	V	蒸發	NV
支配	NV	支配	V	支配	NV
指導	NV	指导	V	指導	NV
指定	NV	指定	V	指定	NV
指揮・指麾	NV	指挥	NV	指揮	NV
指示	NV	指示	NV	指示	NV
注目	NV(感動詞)	注目	V	注目	NV
準備	NV	准备	V	準備	NV
座談	NV	座谈	V	座談	NV

[表63] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(二十八) (総語数: 137語)

品詞性	名詞			動詞			形容詞			副詞			その他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語語数	137	28	137	131	135	129	1	7	0	0	0	0	1	0	0
%	100	20.4	100	95.6	98.5	94.2	0.7	5.1	0	0	0	0	0.7	0	0

述補関係の「V+V」構造の二字字音語は、韓国語と日本語では主に名詞と動詞の用法で使われている。中国語では主に動詞の用法で使われ、名詞の用法で使われる語は20.4%で、韓国語と日本語に比べてその比率は非常に低い。

4.2.5.2 「V+(A→V)」構造の二字字音語と品詞性

[表64] 述補関係の「V+(A→V)」構造の二字字音語と品詞性

韓国語	品詞性	中国語	品詞性	日本語	品詞性
垂直	N	垂直	V	垂直	NA
發明	NV	发明	NV	發明	NVA
改良	NV	改良	V	改良	NV
改善	NV	改善	V	改善	NV
改正	NV	改正	V	改正	NV
革新	NV	革新	V	革新	NV
減少	NV	減少	V	減少	NV
擴大	NV	扩大	V	拡大	NV
聲明	NV	声明	NV	声明	NV
説明	NV	说明	NV	説明	NV
縮小	NV	缩小	V	縮小	NV
修正	NV	修正	V	修正	NV
延長	NV	延长	V	延長	NV
照明	NV	照明	V	照明	NV

[表65] 韓・中・日三国語の品詞性の比較(二十九) (総語数: 14語)

品詞性	名詞			動詞			形容詞			副詞			その他		
	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日
国語	14	3	14	13	14	13	0	0	2	0	0	0	0	0	0
語数	14	3	14	13	14	13	0	0	2	0	0	0	0	0	0
%	100	21.4	100	92.9	100	92.9	0	0	14.3	0	0	0	0	0	0

述補関係の「V+(A→V)」構造の二字字音語は、述補関係の「V+V」構造の二字字音語と同じく、韓国語と日本語では主に名詞と動詞の用法で使われ、中国語では主に動詞の用法で使われている。

第5章 結 論

本稿では、韓・中・日三国語の現代語に共通して存在する同形二字字音語1557語を中心に、二字字音語の語構成による分類及び語構成と三国語の品詞性の対応関係を究明し、その共通点と相違点を明らかにすることを目的として考察を行った。

韓・中・日三国語の二字字音語の語構成による分類及び語構成と品詞性の対応関係を表であらわすと、次のようである。

品詞性		名 詞			動 詞			形 容 詞			副 詞			その他				
国語		韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日	韓	中	日		
形態的な構成による二字字音語	単純語 (12語)	語数	11	9	12	2	3	2	1	1	1	0	1	0	0	0	0	
		%	91.7	75	100	16.7	25	16.7	8.3	8.3	8.3	0	8.3	0	0	0	0	
	派生語	接頭辞+語基 (2語)	語数	2	2	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
		%	100	100	100	0	0	0	0	0	0	50	0	50	0	0	0	
	語基+接尾辞 (16語)	語数	16	16	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
%		100	100	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
助字によるもの (20語)	語数	16	12	19	3	3	2	10	11	5	5	5	4	0	1	0		
	%	80	60	95	15	15	10	50	55	25	25	25	20	0	5	0		
統語的な構成による二字字音語	同義	N+N (161語)	語数	161	158	161	11	4	7	5	18	5	2	5	0	0	1	0
			%	100	98.1	100	6.8	2.5	4.4	3.1	11.2	3.1	1.2	3.1	0	0	0.6	0
		V+V (235語)	語数	234	73	235	217	221	215	4	15	7	1	2	1	0	2	0
			%	99.6	31.1	100	92.3	94	91.5	1.7	6.4	2.9	0.4	0.9	0.4	0	0.9	0
	A+A (71語)	語数	50	5	70	6	11	11	65	67	58	0	4	2	0	0	0	
		%	70.4	7.0	98.6	8.5	15.5	15.5	91.6	94.4	81.7	0	5.6	2.8	0	0	0	
	AD+AD (4語)	語数	3	0	3	1	1	0	0	1	0	2	4	2	0	0	0	
		%	75	0	75	25	25	0	0	25	0	50	100	50	0	0	0	
	並列関係	類義	N+N (8語)	語数	8	8	8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				%	100	100	100	0	12.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		V+V (11語)	語数	11	5	11	10	10	9	0	2	1	0	0	0	0	0	0
			%	100	45.5	100	90.9	90.9	81.8	0	18.2	9.1	0	0	0	0	0	0
	A+A (13語)	語数	7	0	13	0	2	3	13	13	13	0	0	0	0	0	0	
		%	53.9	0	100	0	15.4	23.1	100	100	100	0	0	0	0	0	0	
	対義	N+N (14語)	語数	14	14	14	2	3	4	0	2	0	0	1	0	0	0	0
			%	100	100	100	14.3	21.4	28.6	0	14.3	0	0	7.1	0	0	0	0
		V+V (9語)	語数	9	7	9	7	4	5	0	0	0	1	1	2	0	0	0
			%	100	77.8	100	77.8	44.4	55.6	0	0	0	11.1	11.1	22.2	0	0	0
	A+A (5語)	語数	5	5	4	0	0	0	0	0	0	1	4	2	0	0	0	
		%	100	100	80	0	0	0	0	0	0	20	80	40	0	0	0	
量語 (15語)	語数	1	0	12	0	0	0	10	8	8	5	8	4	0	0	0		
	%	6.7	0	80	0	0	0	66.7	53.3	53.3	33.3	53.3	26.7	0	0	0		

主 述 関 係	N+V (8語)	語数	8	2	8	2	1	1	1	7	0	0	0	0	0	0		
		%	100	25	100	25	12.5	12.5	12.5	87.5	0	0	0	0	0	0	0	
主 述 関 係	N+A (3語)	語数	2	0	3	0	0	0	1	3	1	1	0	0	0	0		
		%	66.7	0	100	0	0	0	33.3	100	33.3	33.3	0	0	0	0	0	
修 飾 関 係	連 体 修 飾 関 係	N+N (281語)	語数	280	268	280	10	6	6	2	29	7	11	9	7	1	1	
			%	99.6	95.4	99.6	3.6	2.1	2.1	0.7	10.3	2.5	3.9	3.2	2.5	0.4	0.4	0.4
		(N→V)+N (24語)	語数	24	23	24	3	1	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0
			%	100	95.8	100	12.5	4.2	8.3	0	4.2	4.2	0	0	0	0	0	0
		V+N (149語)	語数	149	147	148	20	16	7	0	6	0	1	1	2	0	0	0
			%	100	98.7	99.3	13.4	10.7	4.7	0	4.0	0	0.7	0.7	1.3	0	0	0
		A+N (109語)	語数	108	99	109	4	3	4	6	18	12	2	4	2	0	1	0
			%	99.1	90.8	100	3.7	2.8	3.7	5.5	16.5	11.0	1.8	3.7	1.8	0	0.9	0
		AD+N (3語)	語数	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			%	100	100	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	連 用 修 飾 関 係	AD+V (42語)	語数	41	9	42	31	31	31	7	11	6	2	4	2	0	1	0
			%	97.6	21.4	100	73.8	73.8	73.8	16.7	26.2	14.3	4.8	9.5	4.8	0	2.4	0
		(N→AD)+V (37語)	語数	37	10	37	29	24	26	1	11	1	0	3	1	0	0	0
			%	100	27.0	100	78.4	64.9	70.3	2.7	29.7	2.7	0	8.1	2.7	0	0	0
		(A→AD)+V (36語)	語数	35	5	36	33	29	33	1	14	2	1	0	1	0	0	0
			%	97.2	13.9	100	91.7	80.6	91.7	2.8	38.9	5.6	2.8	0	2.8	0	0	0
AD+A (8語)	語数	8	2	8	1	1	1	8	8	8	0	0	0	0	0	0		
	%	100	25	100	12.5	12.5	12.5	100	100	100	0	0	0	0	0	0		
述 目 関 係	V+N (110語)	語数	106	27	108	84	86	80	16	27	14	2	5	3	0	2	0	
		%	96.4	24.6	98.2	76.4	78.2	72.7	14.6	24.6	12.7	1.8	4.6	2.7	0	1.8	0	
述 補 関 係	V+V (137語)	語数	137	28	137	131	135	129	1	7	0	0	0	0	1	0	0	
		%	100	20.4	100	95.6	98.5	94.2	0.7	5.1	0	0	0	0	0.7	0	0	
	V+(A→V) (14語)	語数	14	3	14	13	14	13	0	0	2	0	0	0	0	0	0	
		%	100	21.4	100	92.9	100	92.9	0	0	14.3	0	0	0	0	0	0	

韓・中・日三国語の二字字音語を語構成上から分類すると、まず形態的な構成による二字字音語と統語的な構成による二字字音語に大別することができる。

形態的な構成による二字字音語は、単純語・派生語・助字による語などに分類されるが、単純語と三国語の品詞性の対応関係を考察してみると、三国語ともに名詞の用法で使われる語が最も多く、次いで動詞、形容詞、副詞の順で、単純語は三国語で主に名詞として使われていることが分かる。

派生語は接頭辞による派生語と接尾辞による派生語に分けられる。字音語系接頭辞としては「阿-」「老-」「小-」「第-」など四つの形態素が挙げられるが、それぞれ次のような機能をする。

「阿-」は中国語で「ā」「ē」二つの読み方があるが、「ā」と読む場合は、名詞性の語基の前について「親しみ」の意味を添加する機能をする。

「老-」は親しい関係にある人の姓の前について「親しみ」と「尊敬」の意味を添加し、数字の前については兄弟順を表し、いくつかの動物、植物の名の前については二音節の語または三音節の語を構成する機能をする。

「小-」は親しい関係にある人の姓の前について「親しみ」の意味を添加する機能をし、「第-」は一般的に数詞の前について、物事の順序を表す序数詞を造語する機能をする。これを表であらわすと次のようである。

形態素		阿	老	小	第
韓国語	接頭辞	○	×	×	○
	接続と機能	名詞性の語基の前について「親しみ」の意味を添加する	×	×	数詞の前について物事の順序を表す序数詞を造語する
	語基	○	○	○	○
中国語	接頭辞	○	○	○	○
	接続と機能	名詞性の語基の前について「親しみ」の意味を添加する	①親しい関係にある人の姓の前について「親しみ」と「尊敬」の意味を添加する ②数字の前について兄弟順を表す ③いくつかの動物、植物の名の前については二音節の語または三音節の語を構成する	親しい関係にある人の姓の前について「親しみ」の意味を添加する	数詞の前について物事の順序を表す序数詞を造語する
	語基	○	○	○	○
日本語	接頭辞	○	×	×	○
	接続と機能	名詞性の語基の前について「親しみ」の意味を添加する	×	×	数詞の前について物事の順序を表す序数詞を造語する
	語基	○	○	○	○

(* 語基の場合は、接続と機能は略す。)

接頭辞による派生語は三国語で一般的に名詞の用法で使われるが、「第一」のように韓国語と日本語で名詞の外に副詞として使われる場合もある。

三国語でともに認められる字音語系接尾辞としては、「-子」「-頭」など二つの形態素が挙げられ、それぞれ次のような機能をする。

「-子(zi)」は前の語基の品詞性によってその機能も異なるが、名詞性の語基につく場合は、非自立性の語基を自立できる名詞に変える機能をする。しかし、動詞性の語基については、その動詞を名詞化する機能の外、「…するもの」という意味を添加し、形容詞性の語基については、その形容詞を名詞化する外、「…状態のもの/人」という意味を添加する機能をする。

「-頭」は中国語で二つの読み方があるが、「-頭(tou)」と読む場合は、必ず語基の後につき、語彙的な意味はなく、前の語基を名詞化する機能をする。

この外に、「-的」は韓国語と日本語で、一般的に形容詞の用法がないものの後について、そのような性質・状態にあるという意味を添加し、その名詞あるいは動詞を形容詞化する機能をする。中国語では、「的」は構造助詞または語基として用いられる。これを表であらわすと次のようである。

形態素	子	頭	的
韓国語	○	○	○
接尾辞	○	○	○
接続と機能	①名詞性の語基について、非自立性の語基を自立できる名詞に変える ②動詞性の語基について、その動詞を名詞化し、「…するもの」という意味を添加する ③形容詞性の語基について、その形容詞を名詞化し、「…状態のもの/人」の意味を添加する	語基の後について、その語基を名詞化する	形容詞の用法がないものの後について、そのような性質・状態にあるという意味を添加し、その名詞あるいは動詞を形容詞化する
語基	○	○	○
中国語	○	○	×
接尾辞	○	○	×
接続と機能	①名詞性の語基について、非自立性の語基を自立できる名詞に変える ②動詞性の語基について、その動詞を名詞化し、「…するもの」という意味を添加する ③形容詞性の語基について、その形容詞を名詞化し、「…状態のもの/人」の意味を添加する	語基の後について、その語基を名詞化する	×
語基	○	○	○(構造助詞)

日本語	接尾辞	○	○	○
	接続と機能	①名詞性の語基について、非自立性の語基を自立できる名詞に変える ②動詞性の語基について、その動詞を名詞化し、「…するもの」という意味を添加する ③形容詞性の語基について、その形容詞を名詞化し、「…状態のもの/人」の意味を添加する	語基の後について、その語基を名詞化する	形容詞の用法がないものの後について、そのような性質・状態にあるという意味を添加し、その名詞あるいは動詞を形容詞化する
	語基	○	○	○

(* 語基または助詞の場合は、接続と機能は略す。)

接尾辞「-子」「-頭」で構成された派生語は、三国語ですべて名詞の用法で用いられている。

助字による二字字音語の品詞性は、助字によって異なるが、「可」「然」などの助字で構成された語は主に形容詞・副詞で使用され、「所」で構成された語は主に動詞で、「以」で構成された語は主に名詞で使用されていることが確認できる。

統語的な構成による二字字音語は、語構成要素間の結合関係によって大きく並列関係の二字字音語・主述関係の二字字音語・修飾関係の二字字音語・述目関係の二字字音語・述補関係の二字字音語などの五種に分類することができる。

並列関係の二字字音語は、さらに同義の語基を重ねた二字字音語、類義の語基を重ねた二字字音語、対義の語基を重ねた二字字音語、豊語などに分けられる。

同義の語基を重ねた二字字音語は、「N+N」「V+V」「A+A」「AD+AD」など四つの構造で構成されているが、「N+N」構造の二字字音語は、三国語ともに主として名詞の用法で使用され、動詞・形容詞などの品詞性を持つ場合は非常にまれである。「V+V」構造の二字字音語は、韓国語と日本語では90%以上名詞と動詞の両方の品詞性を有するのに対し、中国語では名詞で使われる語は30%ぐらいしかなく、動詞の用法を持つ語が94%で、主に動詞で使われている。「A+A」構造の二字字音語は、韓国語と日本語の場合は形容詞と名詞の両方の品詞性で使われる語が最も多いが、中国語の場合は形容詞で使われる語が94.4%で、外の品詞性で使われる語に比べて圧倒的に多い。「AD+AD」構造の二字字音語は、三国語で主に副詞の用法で使わ

れている。

類義の語基を重ねた二字字音語は、「N+N」「V+V」「A+A」など三つの構造で構成されているが、「N+N」構造の二字字音語は、三国語で主に名詞の用法で使われている。「V+V」構造の二字字音語は、三国語で主に名詞と動詞の二つの品詞性で使われているが、その中で、中国語で名詞として使われる語の比率は45.5%で、韓国語と日本語の100%に比べてずっと少ない。「A+A」構造の二字字音語は、韓国語と日本語では主に名詞と形容詞の用法で使われるのに対し、中国語では名詞の用法はなく、主に形容詞として使われている。

対義の語基を重ねた二字字音語も、「N+N」「V+V」「A+A」など三つの構造で構成されているが、「N+N」構造の二字字音語は、三国語で主に名詞として使われ、「V+V」構造の二字字音語は、三国語ともに名詞の用法で使われる語が最も多く、次いで動詞、副詞の順である。「A+A」構造の二字字音語も、三国語ともに主として名詞の用法で使われ、中国語では副詞の用法でも多く用いられる。

疊語は三国語で一般的に形容詞と副詞として使われているが、日本語の場合は名詞の用法で使われる疊語も少なくない。

主述関係の二字字音語は、「N+V」「N+A」など二つの構造で構成されているが、「N+V」構造の二字字音語は、韓国語と日本語では主に名詞の用法で使用され、中国語では主に形容詞の用法で使われているが、大部分の形容詞は述語になれない「属性詞 / 非谓形容词」で、その用法は韓国語と日本語の名詞の用法とほぼ同様であると考えられる。「N+A」構造の二字字音語は、三国語で主に形容詞の用法で使われると思われるが、名詞の用法もあると判断される。

修飾関係の二字字音語は、連体修飾関係の二字字音語と連用修飾関係の二字字音語に下位分類することができる。

連体修飾関係の二字字音語は、「N+N」「(N→V)+N」「V+N」「A+N」「AD+N」など五つの構造で構成されているが、「N+N」構造の二字字音語と「(N→V)+N」構造の二字字音語、そして「AD+N」構造の二字字音語は、三国語で主に名詞

として使われる。「V+N」構造の二字字音語も、三国語で主に名詞として用いられているが、前の三種の構造に比べて動詞の用法で使われる場合が比較的多い。これらの動詞の用法で使われる語の多くは述目関係の「V+N」構造の二字字音語と見なすことができる。「A+N」構造の二字字音語は、三国語で主として名詞で使用される外に、形容詞の用法で使われる場合も少なくないが、その中で中国語の半分以上の語は「属性詞 / 非谓形容词」として使われる語である。

連用修飾関係の二字字音語は、「AD+V」「(N→AD)+V」「(A→AD)+V」「AD+A」など四つの構造で構成されているが、「AD+V」構造の二字字音語の品詞性は、三国語でさまざまな様相を呈している。韓国語と日本語の場合は名詞の用法が最も多く、次いで動詞、形容詞、副詞の順であるが、中国語の場合は動詞の用法で使われる語が最も多く、次いで形容詞、名詞、副詞の順で、名詞の用法で使われる語の比率は韓国語と日本語に比べてはるかに少ない。「(N→AD)+V」構造の二字字音語は、韓国語と日本語では主に名詞と動詞の用法で使われるのに対し、中国語では主に動詞の用法で使われるが、名詞と形容詞の用法で使われる語もほぼ30%に達し、少なくない比率を占めている。「(A→AD)+V」構造の二字字音語も、韓国語と日本語では主に名詞と動詞の用法で使われるのに対し、中国語では主に動詞の用法で使われ、形容詞の用法で使われる語も38.9%で、割合に大きい比率を占めている。「AD+A」構造の二字字音語は、韓国語と日本語では主として名詞と形容詞の用法で使われ、中国語では主として形容詞の用法で使われている。

述目関係の「V+N」構造の二字字音語は、韓国語と日本語では名詞の用法で使われる語が最も多く、次いで動詞、形容詞、副詞の順で、主に名詞と動詞の用法で使われている。中国語では動詞の用法で使われる語が最も多く、次いで名詞、形容詞、副詞、接続詞の順で、主として動詞の用法で使われている。

述補関係の二字字音語は、「V+V」「V+(A→V)」など二つの構造で構成されている。「V+V」構造の二字字音語は、韓国語と日本語では主に名詞と動詞の用法で使われているが、中国語では主に動詞の用法で使われ、名詞の用法で使われる語は

20.4%で、韓国語と日本語に比べてその比率は非常に低い。「V+(A→V)」構造の二字字音語は、上の「V+V」構造の二字字音語と同じく、韓国語と日本語では主に名詞と動詞の用法で使われ、中国語では主に動詞の用法で使われている。

以上、韓・中・日三国語の二字字音語の語構成による分類及び語構成と品詞性の対応関係について考察してみたが、語構成と品詞性の間には密接な対応関係が成立するということができる。

参 考 文 献

(韓國語文献)

- 姜榮勳(1987)『中學生의 語彙擴張을 위한 漢字語 指導方法 研究』忠北大學校 教育大學院 碩士學位論文
- 權純久(1996)『漢字語 語形成 研究』忠南大學校 大學院 碩士學位論文
- 金光海(1989)「固有語와 漢字語의 對應現象」『國語學叢書 16』塔出版社
- 金圭哲(1980)「漢字語 單語形成에 관한 研究」『國語研究』第41號、國語研究會
- 金圭哲(1990)「漢字語」『國語研究 어디까지 왔나』서울大 大學院 國語研究會編、東亞出版社
- 金敏洙(1971、1998)『國語文法論』一潮閣
- Kim Minyeong(2002)『漢字語 形態素의 類型 分析에 관한 研究』延世大學校 大學院 碩士學位論文
- 金鮮花(2004)『日中韓 日本製漢語의 意味·用法에 대한 對照研究』檀國大學校 大學院 碩士學位論文
- 金仁炫(1993)「韓日兩語의 音聲·音韻의 比較研究」『外國文化研究 16』朝鮮大學校 外國文化研究所
- 金仁炫(2001)『韓·日語의 對照言語學的研究』J&C
- 金仁炫(2004)『韓·日語의 對照研究と日本語教育』語文學社
- 金宗澤(1972)「複合 漢字語의 語素 配合 構造」『語文學 27』韓國語文學會
- 金宗澤(1993)『國語 語彙論』塔出版社
- 金昌植(1986)「國語 漢字語의 構成에 對한 한 考察」『論文集 8』安東大學
- 金慧順(2005)『中·韓·日 漢字語 比較研究』嶺南大學校 大學院 博士學位論文
- 金慧娟(1999)『韓·日 漢字語 對照 分析』啓明大學校 國際學大學院 碩士學位論文

- 南基心·高永根(2002)『標準國語文法論』改訂版、塔出版社
- 盧明姬(1990)『漢字語의 語彙形態論的 特性에 관한 研究』서울大學校 大學院 碩士學位論文
- 盧明姬(2005)『現代國語 漢字語 研究』國語學會
- 盧明姬(2007)「漢字語의 語彙 範疇와 內的 構造」『震檀學報 103』
- 劉昌錫(1990)『韓·日 漢字語의 比較研究』建國大學校 大學院 碩士學位論文
- 柳玄京(2007)『韓·中國 漢字語의 比較研究』圓光大學校 教育大學院 碩士學位論文
- Ma Sukhong(2004)『韓國語와 中國語의 漢字語 造語法 對照研究』祥明大學校 大學院 碩士學位論文
- 朴英燮(1995)『國語漢字語彙論』博而精
- Bak Jeongeun(2007)『外國語로서의 韓國語 接頭派生語 研究』慶熙大學校 大學院 碩士學位論文
- 朴青國(1989)「日本語 省略表現法 研究」『人文學研究』第11輯、朝鮮大學校 人文學研究所
- 朴青國(2002)「日本語 縮約形 發話의 構造分析」『人文學研究』第28輯、朝鮮大學校 人文學研究所
- 潘憶影著·Ju Yanggon·Go Dandan譯(2005)『8840 HSK 單語集』CHINA PRESS
- 成元慶(1977)「韓·中兩國에서 現用하는 漢字語彙 比較放」『省谷論叢』第8輯、省谷學術文化財團
- 孫惠波(2004)『現代 韓國 漢字語 語彙와 中國語 語彙의 意味論的 比較 研究』崇實大學校 大學院 碩士學位論文
- 宋基中(1992)「現代國語 漢字語의 構造」『韓國語文 1』韓國精神文化研究院
- 宋晚翼(1991)「現代日本語における待遇表現の選択過程について—日本語教育の観点から—」『日本學年報 3』日本文化研究會
- 宋晚翼(1996)「日本語の"既製の發話"の取り扱いについて—日本語教育の立場からの

一考察一 『論文集 13,1』 大田産業大學校

辛基相(2005) 『現代國語 漢字語』 북스 힐

申昌淳(1969) 「漢字語小考」 『國語國文學42·43』 國語國文學會

Sim Soyeon(2004) 『形態論的 分析을 통한 中國語 語彙 教育 研究』 仁荷大學校
教育大學院 碩士學位論文

沈在箕(1982) 『國語語彙論』 集文堂

沈在箕(1987) 「漢字語의 構造와 그 造語力」 『國語生活 8』 國語研究所

An Sojin(2004) 『漢字語 接頭辭에 대한 研究』 서울大學校 大學院 碩士學位論文

禹燦三(1987) 『誤用例에 對한 一考察』 韓南大學校 大學院 碩士學位論文

禹燦三(2005) 『韓日漢字音의 比較研究』 J&C

李京珪(2002) 「日本 字音語에 관련된 用語에 관한 考察」 『日本文化學報』 第15
輯、韓國日本文化學會

李京哲(2003) 『韓·日 漢字音 體系의 比較研究』 보고서

李京哲(2005) 「漢和辭典 慣用音表記의 問題點에 대하여」 『日本文化研究』 第14
輯、東아시아日本學會

李京哲(2006) 『日本漢字音의 理解』 책사랑

李光政(2003) 「固有語와 漢字語의 語彙的 特性」 『國語文法研究 II』 亦樂

李得春(2006) 「韓國語 漢字語의 基準에 對한 管見」 『새 國語生活 16-1』 國立國
語研究院

Lee Sanggyu(2004) 『現代國語 漢字語의 構成單位와 構造 研究』 漢陽大學校 大學
院 博士學位論文

李奭周(1990) 『國語形態論』 한샘出版社

李于錫(2002) 『韓日漢字語의 品詞性에 關する 對照研究』 J&C

李翊燮(1968) 「漢字語 造語法의 類型」 『李崇寧博士頌壽紀念論叢』

李翊燮(1969) 「漢字語의 非一音節 單一語에 대하여」 『金載元博士回甲紀念論叢』

李翊燮·任洪彬(1983) 『國語文法論』 學研社

- 李仁淳(2007) 『日韓漢語語彙交流の研究』 J&C
- 李在郁(2006) 『韓國語必須單語6000』 Language PLUS
- Jang Yeongsu(1994) 『漢字語 單語 짜임새에 관한 研究』 東亞大學校 大學院 碩士學位論文
- Jeong Donghwan(1993) 『國語 複合語의 意味 研究』 서광學術資料社
- 鄭旼泳(1994) 『國語 漢字語의 單語 形成 研究』 忠北大學校 大學院 博士學位論文
- 鄭旼泳(1999) 「國語 漢字 複合語의 構造」 『開新語文研究 9』 忠北大學校 開新語文研究會
- 鄭旼泳(2005) 「漢字語 接尾辭 ‘-頭’에 대하여」 『言語學』 第9號、중원言語學會
- 鄭愚相(1993) 「漢字語의 構造와 漢文」 『韓國語教育』 韓國語文教育學會
- 鄭元洙(1991) 『國語의 單語形成 研究』 忠南大學校 大學院 博士學位論文
- 鄭元洙(1994) 『國語의 單語 形成論』 翰信文化史
- 鄭鎮傑(1990) 『韓國 漢字語 形成과 그 類型에 대한 研究』 中央大學校 大學院 碩士學位論文
- 曹錦慈(2006) 『高等學校 日本語 教科書의 漢字語 分析』 慶熙大學校 教育大學院 碩士學位論文
- 趙範熙(1998) 『漢字語 構造에 관한 研究』 韓國教員大學校 大學院 碩士學位論文
- Jo Seonghwa(2006) 『韓·日 兩 言語의 漢字語 接頭辭 對照 研究』 漢陽大學校 教育大學院 碩士學位論文
- 崔貴淑(2004) 『우리말 漢字語彙에 對應하는 現代 中國語語彙 比較 研究』 公州大學校 教育大學院 碩士學位論文
- 崔圭一(1989) 『韓國語 語彙形成에 관한 研究』 成均館大學校 大學院 博士學位論文
- 崔允敬(2003) 『韓·日 漢字語의 比較 研究』 朝鮮大學校 教育大學院 碩士學位論文
- 韓增德(2007) 「字音語系接頭辭的要素に関する一考察」 『人文學研究』 第35輯、朝鮮大學校 人文學研究所
- 韓增德(2008) 「字音語系接尾辭的要素についての一考察」 『日本文化研究』 第25

輯、東아시아日本學會

洪思滿(2002)『韓・日語 對照分析』亦樂

黃慈仁(1984)『韓・日 漢字語에 關한 考察』韓南大學校 大學院 碩士學位論文

(中國語文獻)

北京大學中文系編・Kim Aeyeong外譯(2007)『現代漢語』China House

Charles N. Li外著・Bak Jeonggu外譯(2006)『標準中國語文法』한울

Choe Gilwon主編(2000)『漢語語彙』新星出版社

符淮青著・Bak Heung-su譯(2007)『現代漢語詞匯』China House

郭振華(2002)『簡明漢語語法』華語教學出版社

國務院學位委員會辦公室編(1999)『同等學力人員申請碩士學位日語水平全國統一考試大綱』高等教育出版社

胡裕樹外編・許成道譯(1991)『現代中國語學概論』教保文庫

金琮鎬(2002)『現代中國語文法』신아사

劉月華外著・尹和重外譯(2000)『現代中國語文法』大韓教科書株式會社

Maeng Jueok(1992)『現代中國語文法』青年社

史錫堯・楊慶蕙主編(1998)『現代漢語』北京師範大學出版社

朱德熙著・許成道譯(1997)『現代 中國語 語法論』사람과 冊

(日本語文獻)

秋元美晴(2004)『よくわかる語彙』語文學社

阿辻哲次(2005)「漢字文化圏の成立」『朝倉漢字講座 1 漢字と日本語』朝倉書店

荒川清秀(1988)「複合漢語の日中比較」『日本語学』5月号、明治書院

荒川清秀・荒川由紀子(1988)「現代中國語の造語力—日本語における漢語との関連

でー」『文学論叢』第89輯、愛知大学文学会

荒川清秀・那須雅之(1992)「中国語の造語力ー二字漢語を中心にー」『日本語学』5
月号、明治書院

庵功雄外著(2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエー
ネットワーク

庵功雄外著(2001)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリー
エーネットワーク

石綿敏雄・高田誠(1990)『対照言語学』桜楓社

金公七(1987)『日本語語彙論』學文社

教科研東京国語部会・言語教育研究サークル著(1964)『語彙教育ーその内容と方
法ー』麦書房

斎賀秀夫(1957)「語構成の特質」斎藤倫明・石井正彦編(1997)『日本語研究資料集
第1期第13巻 語構成』ひつじ書房

田窪行則(1986)「-化」『日本語学』3月号、明治書院

田島優(2006)「表語文字としての漢字」『朝倉漢字講座 2 漢字のはたらき』
朝倉書店

中川正之(1992)「<中国語から見た>語構成ーとくに並列語をめぐってー」『月刊言
語』3月号、大修館書店

中沢希男(1978)『漢字・漢語概説』教育出版

野村雅昭(1974)「三字漢語の構造」『電子計算機による国語研究VI』秀英出版

野村雅昭(1975)「四字漢語の構造」『電子計算機による国語研究VII』秀英出版

野村雅昭(1988)「二字漢語の構造」『日本語学』5月号、明治書院

原由起子(1986)「-的」『日本語学』3月号、明治書院

松崎寛・河野俊之(2004)『よくわかる音声』語文学社

松下大三郎(1928)『改撰標準日本文法』紀元社

水野義道(1987)「漢語系接辞の機能」『日本語学』2月号、明治書院

森岡健二(1986)「接辞と助辞」『日本語学』3月号、明治書院
森山卓郎(2003)『ここからはじまる日本語文法』ひつじ書房
山田孝雄(1936)『日本文法学概論』宝文館出版
ワカバヤシ マサオ(1936)「漢語ノ 組立ト 云イカエ ノ 研究」斎藤倫明・石井正彦
編(1997)『日本語研究資料集 第1期第13巻 語構成』ひつじ書房

(参考辞典)

鎌田正・米山寅太郎(2005)『新漢語林』大修館書店
曲广田・王恣主编(2004)『日语汉字辞典』吉林大学出版社
金貞淑編(2005)『新韓日辞典』日本三省堂版、民衆書林
高大民族文化研究所中國語大辭典編纂室編(1996)『現代中韓辞典』第5版、高麗大學
校 民族文化研究所
國立國語研究院(1999)『標準國語大辭典』斗山東亞
小林信明(1981)『新選漢和辞典』新版、小学館
杉本達夫外編(2005)『デイリーコンサイス中日・日中辞典』第2版、三省堂
大连外国语学院『新日汉辞典』增订版编写组编(2004)『新日汉辞典』增订版、辽宁
人民出版社
中国社会科学院语言研究所词典编辑室编(2004)『新华字典』第10版、商务印书馆
中国社会科学院语言研究所词典编辑室编(2005)『现代汉语词典』第5版、商务印书馆
日本語教育学会編(2005)『新版日本語教育事典』大修館書店
NEXUS辞典編纂委員會編(2005)『NEXUS實用玉篇』NEXUS ACADEMY
松村明編(1971)『日本文法大辞典』明治書院
松村明編(1989)『大辞林』三省堂
民衆書林編輯局編(2005)『옛센스 國語辭典』第5版、民衆書林
安田吉実外編(2004)『옛센스 日韓辭典』第2改訂版、民衆書林

山口明穂・竹田晃編(1994)『岩波新漢語辞典』岩波書店

山口明穂・秋本守英編(2001)『日本語文法大辞典』明治書院

山田忠雄外編(2005)『新明解国語辞典』第6版、三省堂

李應百外(1992)『國語大辭典』教育圖書

李武英外編(2004)『现代韩中中韩词典』外语教学与研究出版社

廉光虎・位青編(2006)『韓中漢字語比較辭典』亦樂

저작물 이용 허락서

학 과	일본학과	학 번	20047089	과 정	박 사
성 명	한글: 한 증 덕 한문: 韓 增 德 영문: HAN ZENG DE				
주 소	광주광역시 동구 계림동 519-7				
연락처	E-mail: zdhan@hanmail.net				
논문제목	(한글) 한 · 중 · 일 자음어의 대조연구				
	(영문) The Contrastive Study of the words in Korean, Chinese and Japanese				

본인이 저작한 위의 저작물에 대하여 다음과 같은 조건 아래 조선대학교가 저작물을 이용할 수 있도록 허락하고 동의합니다.

- 다 음 -

1. 저작물의 DB구축 및 인터넷을 포함한 정보통신망에의 공개를 위한 저작물의 복제, 기억장치에의 저장, 전송 등을 허락함.
2. 위의 목적을 위하여 필요한 범위 내에서의 편집과 형식상의 변경을 허락함. 다만, 저작물의 내용변경은 금지함.
3. 배포·전송된 저작물의 영리적 목적을 위한 복제, 저장, 전송 등은 금지함.
4. 저작물에 대한 이용기간은 5년으로 하고, 기간종료 3개월 이내에 별도의 의사표시가 없을 경우에는 저작물의 이용기간을 계속 연장함.
5. 해당 저작물의 저작권을 타인에게 양도하거나 출판을 허락을 하였을 경우에는 1개월 이내에 대학에 이를 통보함.
6. 조선대학교는 저작물 이용의 허락 이후 해당 저작물로 인하여 발생하는 타인에 의한 권리 침해에 대하여 일체의 법적 책임을 지지 않음.
7. 소속 대학의 협정기관에 저작물의 제공 및 인터넷 등 정보통신망을 이용한 저작물의 전송·출력을 허락함.

동의여부: 동의(○) 반대()

2008년 8월 일

저 작 자: 한 증 덕 (인)

조선대학교 총장 귀하